

日本医療大学年報

第 6 号

2020 年



日本医療大学

目次

1. 使命・目的等	1
2. 学生	8
3. 教育課程	33
4. 教員・職員	38
5. 経営・管理と財務	46
6. 内部質保証	48
7. 大学が独自に設定した基準による自己評価	52
8. 社会貢献	62
9. 顕彰	62
10. 委員会等活動報告	63
11. 教員の自己点検・評価	104

1. 使命・目的等

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

日本医療大学（以下、本学）及びその母体となる学校法人の使命・目的については、各種規定にて具体的かつ明確に示されている。

まず、学校法人の使命・目的について、「学校法人日本医療大学寄附行為」第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする」と規定している。さらに、本学の使命・目的について、「日本医療大学学則」第1条（目的）に「日本医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授及び研究し、人間尊重を基盤とした医療人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康及び生活の向上に貢献することを目的とする」と規定している。また、同学則第6条第2項には、学部及び学科の教育上の目的について、「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的及び論理的な実践力で、地域医療に貢献する医療人を育成する」と規定している。

1-1-② 簡潔な文章化

上述の使命・目的は、建学の精神、基本理念、教育理念というかたちで簡潔に文章化されている。また、各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）にも反映させ、学生及び教職員に分かり易く示している。

○建学の精神

共生社会の実現～病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、その尊厳が重んぜられ暮らせる社会の実現を目指す～

○基本理念

「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」

医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、学生が、高度な専門知識と技術の修得にとどまらず、医療・福祉の現場と一体になったキャンパスで、高齢の方や障がいを持った方々と日々ふれあいながら学修することで、人のこころの痛みや思いがわかり自らも成長していく人材を養成します。

○教育理念

- 1 「職業人になる自覚をもとう」実践的教育を通して職業人としての自覚や誇りを育む。
- 2 「自律した人間になろう」己に厳しく、自ら考え、自ら行動する。
- 3 「確かな専門知識・技術を修得しよう」社会や時代の要請に応え、専門的な知識と技術

を体系的に修得する。

4 「社会に貢献できる専門職になろう」医療・福祉に携わる人として、社会からの信頼を得る。

5 「問題解決能力を身に付けよう」自ら課題を発見し、活動し、振り返ることによって問題を解決する。

三つのポリシー

○看護学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

看護学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 4 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

看護学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
- 2 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 3 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
- 4 人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

○リハビリテーション学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4-1 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力（理学療法学専攻）
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な作業療法を提供できる能力（作業療法学専攻）
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4-1 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（理学療法学専

攻)

4-2 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する
(作業療法学専攻)

5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

リハビリテーション学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲のある人材を求める。

- 1 理学療法士・作業療法士を志している人
- 2 理学療法学・作業療法学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 他者を思いやる心がある人
- 5 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやりとげる人
- 6 基本的生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人
- 7-1 人の運動や動作のメカニズムに関心を持っている人 (理学療法学専攻)
- 7-2 人の生活を専門的な視点から支援し、社会に貢献したいと思っている人 (作業療法学専攻)

○診療放射線学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

診療放射線学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教

育科目を配置する

- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 診療放射線技師を志している人
- 2 診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

1-1-③ 個性・特色の明示

本学の歩みは、昭和 59（1984）年に札幌市豊平区月寒に開設した「特別養護老人ホーム幸栄の里」に始まる。「特別養護老人ホーム幸栄の里」では、デンマークから学んだノーマライゼーションを日本で実践するために、入所の方々だけでなく在宅の方々へのサービスも初めて事業化した。しかし、事業展開する中で、医療と福祉の高度な人材育成の必要性を痛感し、平成元（1989）年に本学の前身となる「日本福祉学院」を開校した。現在、本学は、社会福祉法人ノテ福祉会を中心とする 10 法人とともに「つしま医療福祉グループ」を形成し、各種医療・福祉施設と大学施設が複合したコミュニティ「アンデルセン福祉村」をキャンパスの本拠地としている。

このような歴史を背景にして生まれた精神と理念は、全ての人々が安心して暮らすことができる「共生社会の実現」をめざし、「医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学」をキャッチフレーズとして、その使命・目的及び教育目的・目標に反映されている。

1-1-④ 変化への対応

大学教育改革の中の柱として『三つのポリシーに基づく大学教育改革の実現』において、「三つのポリシーを一貫性及び整合性あるものとして一体的に策定することにより、選抜・教育・卒業の各段階における目標を具体化し、大学教育の質的転換を図ること」として、平成 29 (2017) 年から三つのポリシーを策定・公開することが義務付けられた。それを踏まえ、本学では平成 30 (2018) 年 11 月に見直された 3 学科 (2 専攻を含む) の三つのポリシーについて、シラバスや大学 HP などにおいて公開し、周知を図っている。

令和 7 (2025) 年にはいわゆる「団塊の世代」がすべて 75 歳以上となり、我が国における高齢化は一層進行していくものと予想されていることから、このような社会情勢を見据えた「医療介護総合確保推進法」が施行され、地域における効率的かつ質の高い医療や介護の提供を総合的に確保する「地域包括ケアシステム」の構築が求められている。本学では、こうした多様化する社会の要請に応えることのできる医療専門職を育成するため、新たな学部・学科の増設を含め、組織構成及び関係諸規定等の見直しを継続的に検討している。

1-2. 使命・目的及び教育目的の反映

1-2-① 役員、教職員の理解と支持

本学の建学の精神、基本理念、5 つの教育理念の見直しについては、平成 28(2016)年に理事長、学長、常務理事、事務局長、経営戦略企画室長で構成する本法人の中長期経営計画プロジェクトにおいて検討し、理事会で承認を得ている。また、三つのポリシーの見直しは、運営会議で審議した後、教授会に提案し意見を求めており、建学の精神、基本理念、教育理念、使命・目的等を改正する場合は、運営会議・教授会・理事会に諮り決定しており、役員・教職員の理解と支持を得る体制となっている。この他、使命・目的及び教育目的は、学則に明示しているほか、CAMPUS HAND BOOK、ホームページ、大学案内にも掲載している。

1-2-② 学内外への周知

使命・目的及び教育目的は、ホームページ、CAMPUS HAND BOOK (教職員、学生に配布)、大学案内等に明記するとともに、校舎内の主要な場所に掲示するなどして周知徹底を図っている。

その他、入学式、学位記授与式、入学生ガイダンス、オリエンテーション、オープンキャンパスなどにおいて説明の機会を設けている。

1-2-③ 中長期的な計画への反映

本法人の中長期経営計画に建学の精神、基本理念、教育理念が反映されるよう、平成 28 (2016) 年 7 月からの中長期経営プロジェクトにおける審議を経て、同計画を見直した。

1-2-④ 三つのポリシーへの反映

三つのポリシーが、本学の建学の精神、基本理念、教育理念を反映した内容となるよう、学科会議、運営会議における審議を経て、教授会に意見を求め、見直しを実施した。

1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

本学は保健医療学部のみからなる単科大学であり、学部は、看護学科、リハビリテーション学科（理学療法専攻・作業療法専攻）及び診療放射線学科の3学科から構成される。また、附属施設として、図書館、認知症研究所、キャリアセンターを設けている。

同学部には、必要な教員を配置するとともに、円滑な運営を図るため各種委員会を設置しており、使命・目的及び各学科の教育目的の実現のため、それぞれの委員会の審議内容を教授会及び学科会議で共有するなど、組織間の連携強化に努めている。

2. 学生

2-1. 学生の受け入れ

2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

本学は開学時（平成 26（2014）年度）より「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していくことができる学生を求めています。養成する人材が卒業後に札幌地域のみならず、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めます。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できるたくましい人材を募集します」といった内容を日本医療大学のアドミッション・ポリシーとして示してきた。加えて、令和元（2019）年度からは学科ごとにアドミッション・ポリシーを策定し求める人材像を示している。

アドミッション・ポリシーについては、ホームページや大学案内、学生募集要項、それぞれの学科の SYLLABUS に掲載し、高校生、保護者、高校教諭、在学生等に幅広く周知を図っている。また、大学案内、学生募集要項はホームページ上にデジタルパンフレットとして公開している。

2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証

本学の入学者受け入れ方針の周知については、本学が開催するオープンキャンパス、一日体験入学、高校訪問、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、多くの時間をかけて実施している。特に高校訪問については、教職員が一体となり、北海道内 287 校のうち約 240 校の高等学校を訪問し、オープンキャンパスや一日体験入学を案内するとともに、高校生の進路動向の情報収集を実施している。高校訪問は 1 期（4 月から 6 月）、2 期（8 月から 10 月）、3 期（12 月から 2 月）と定期的に行い、1 期は「在学生の学生生活状況の報告」と「オープンキャンパス参加誘導」、2 期は「総合型選抜・学校推薦型選抜出願の誘導」、3 期は「一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜の出願誘導」と位置づけている。

本学の入学者受け入れの基本方針については、入学試験委員会で審議決定する旨規定されている。

本学で実施する入学試験は、平成 26（2014）・27（2015）年度入試においては、一般入試（前期・後期）・推薦入試（前期）の 2 つの入試区分であったが、平成 29（2017）年度入試から AO 入試（リハビリテーション学科のみ）、平成 30（2018）年度入試から大学入試センター試験利用入試（前期・後期）・推薦入試（後期）を看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科で導入した。令和元（2019）年度入試から指定校推薦入試・大学入試センター試験利用入試（中期）・AO 入試（全学科）を導入した。さらに、令和 2（2020）年度入試からは、AO 入試（後期）をリハビリテーション学科のみに導入し、一般入試（前期）では札幌に加えて函館にも試験会場を設置した。

令和 3（2021）年度入試では、これまでの看護学科、リハビリテーション学科、診療放射

線学科に、令和3年度からの設置認可が得られた臨床検査学科を加えて、一般選抜（旧一般入試（前期・後期）、学校推薦型選抜（旧推薦入試（公募前期・公募後期）、総合型選抜（旧AO入試（前期・後期）、大学入学共通テスト利用選抜（旧大学入試センター試験利用入試（前期・中期・後期）、学校推薦型選抜（指定校）の5つの区分で入学試験を実施した。

大学入学共通テスト利用選抜を除いた本学独自で実施する4区分の入学試験においては、将来、医療従事者として社会に貢献するという目的意識や本学アドミッション・ポリシーの理解、基本的なコミュニケーション能力をみる目的で、個人面接を必須としている。個人面接においては、面接委員間で受験生に対する対応や質問内容に大きな差異が生じないように「面接マニュアル」を作成し、面接の手順、評価の基準、評価項目ごとの質問例を記載し、面接委員に周知している。

入試問題に関しては、入学試験実施規程第7条（入学試験問題の作成の原則）に基づき、1科目に対し複数人で問題を作成している。また、問題作成に関しては、入試問題作成ミスを防止するために、第三者による点検を2回に分けて実施している。

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持

入学定員は、平成30（2018）年度まで看護学科80人、リハビリテーション学科80人（理学療法学専攻40人、作業療法学専攻40人）、診療放射線学科50人であったが、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法規の整備等の法律」（平成26（2014）年6月18日成立、平成26（2014）年6月25日公布）では地域における質の高い医療を確保し、基盤整理を行うことを目標としていることから、令和元（2019）年度、看護学科の入学定員を80人から100人、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を40人から80人に増員した。令和3年度からは、月寒本キャンパスへの移転を機に、看護学科の入学定員を150人、診療放射線学科を100人に増員し、臨床検査学科を入学定員60人で新設した。令和3（2021）年度入試の入学定員充足率は、看護学科が102.7%、リハビリテーション学科が125.8%（理学療法学専攻116.3%、作業療法学専攻145.0%）、診療放射線学科が111.0%、臨床検査学科が120.0%となり、全4学科が充足率100%を上回る結果となった。

リハビリテーション学科作業療法学専攻の入学定員充足率を伸ばすため、「作業療法士の魅力」と題したパンフレットをオープンキャンパスや高校訪問、進学相談会において配布しホームページ上でも閲覧できるようにしているほか、オープンキャンパスや一日体験入学において作業療法士の活動見学を実施し、職種の魅力を発信することにも努めている。また、入試においては、すべての入試区分で理学療法学専攻と作業療法学専攻の併願を認め、一般入試と大学センター試験利用入試でも4学科2専攻すべての併願を認めることとし、出願者数を増やす対策をとっている。

2-2. 学修支援

2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科の教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)については、1-2-②に記載されている。各学科のカリキュラムの構成概念については大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針はシラバスに掲載し学生に周知している。

教員と職員等をはじめとする学修支援体制については、教務委員会において学生への周知について検討し、検討後教職員への周知を行っている。また、各学科長および各学科の学生担当教員(以下、学担)が中心となり、学生の個別対応を行い、他の教職員と連携している。

学内の各種委員会の構成員には、教員とともに事務職員も加わり、学生の抱える学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る・起こり得た問題事項に関して、解決に向けた方策を講じている。

学修支援の一環として、AO入試および推薦入試合格者に対して、本学教員による入学前教育を行っている。

新入生オリエンテーションは、4月初旬の2日間、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会・学生委員会からのオリエンテーション(履修登録・大学における学修に関すること、学生生活に関すること、図書室や学生相談室の利用方法など)を実施している。さらに、学担が中心となって、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、本学学生として必要な情報を伝え、新しい環境に早期に適応できるよう努めている。また、新入生オリエンテーションでは、教務委員会が作成した「学修ハンドブック」を配布し、アカデミア・スキルについての導入を図っている。

在学生については、在学生ガイダンスを前期始業日に実施し、新学年での心構えや注意事項について指導している。また、キャリア学修支援センターと連携し、日々の学習支援に加え、国家試験対策として全国模擬試験の実施などで学習の動機づけをし、支援している。

各学科(リハビリテーション学科においては各専攻)に学担を複数名配置し、学生の学業上及び生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている(表2-2-①-a)。

教務委員会では、各教員のオフィスアワーを半期ごとに大学システムであるユニバーサルパスポートにて学生に周知し、講義内容や学生生活に関する相談に利用している。教員の多くはオフィスアワー以外の時間にも、可能な限り学生に対応している。

学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」、「学生委員会」、「入学者選抜委員会」、「FD委員会」、「図書及び学術振興委員会」、「キャリア学修支援センター運営委員会」である。年度活動状況については、各委員会報告に記載している。

休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する実態については、各学科ともに学年の進行に伴い退学者、休学者の人数が増えていく傾向がみられる。2020年度の休学者は26人であり、休学理由は学業不振が最も多く18人、次いで健康問題4人、経済的理由2人、就学意欲低下、進路熟慮各1人であった。退学者は15人で退学理由は、学業不振7人進路変更が

6人、健康問題、経済的理由が各1人であった。休学、退学等の学籍異動にあたっては、あらかじめ学担当が学生と面談し、学担当の所見を付した書類の添付を求めている。必要に応じて保護者とも面談を行い、理解を得るようにしている。休学者については、定期的に学担当に現況を連絡することが課され、休学中の学生の生活状況等の把握・指導や支援については、学担当が中心となり教職協働により行っている。

表2-2-①-a 2020年度学生担当教員

学科	学年	学生担当教員
看護学科	1年A	○山崎公美子、福島眞里
	1年B	○林美枝子、合田恵里香
	2年A	○小山満子、高儀郁美
	2年B	○森口眞衣、吉田香
	3年A	○吉野淳一、竹之内優美
	3年B	○進藤ゆかり、工藤悦子
	4年	○大村郁子、菅原美保
リハビリテーション学科	1年理学療法学専攻	○向井康詞、渋川佳彦
	1年作業療法学専攻	○清本憲太
	2年理学療法学専攻	○石橋晃仁
	2年作業療法学専攻	○村本元
	3年理学療法学専攻	○新開谷深、坂口友康
	3年作業療法学専攻	○及川直樹
	4年理学療法学専攻	○松崎由里子、西山徹
4年作業療法学専攻	○岸上博俊	
診療放射線学科	1年	○小山和也、西山修輔
	2年	○木村徹、俵紀行
	3年	○白石祐太、福山篤司
	4年	○杉本芳則、樋口健太

○：主担任

2-2-② TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする修支援の充実

TAに関して、本学は大学院を設置しておらず、今後の課題である。

ただし、リハビリテーション学科においては、TAに代わるものとして「科目担当者制度」によるSA(Student Assistant)を活用し、全科目において、学生が教育用機器の準備、資料配布などによる授業の準備・補助、演習授業の準備・後片付けなどの補助を行っている。また、臨床実習開始前の期間は、上級年次生がSAを担当し、科目担当教員の指導の下に検査測定

などの技術指導やアドバイスを行うことでサポートしている。

令和元(2019)年度に、リハビリテーション学科に聴覚に障がいを持つ学生が1人入学し
在籍している。聴覚状況は先天聾で人工内耳(右)を装用、左耳からの聴覚はないものの、右
聴覚と読唇で会話の理解は可能である。当該学生の入学前より、学科会議等において、聴覚
状況、授業環境、配慮事項を確認し、学科の全教職員が当該学生の障がいに対する理解を深
め、適切に対応できるように準備し、実施している。具体的には、教室においては中央から
やや左側前列に席を配置し、科目担当者に対しては、口述や板書での配慮事項を説明し、徹
底して実施している。2020年度も同様の対応を継続している。

2-3. キャリア支援

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

キャリア学修支援センター(以下「センター」という)は、平成29(2017)年4月にそ
れまでの就職・進路対策委員会を改組し発足した。

看護学科は開設8年目となり、平成29(2017)年度1期生の卒業以来、令和2年(2020)
年度4期生が卒業した。リハビリテーション学科は開設7年目となり、平成30(2018)年
度に1期生の卒業以来、令和2(2020)年度に3期生が卒業した。診療放射線学科は開設6
年目となり、令和元(2019)年度に第1期生が卒業し、令和2(2020)年度に2期生が卒
業した。

本学は医療専門職の育成を使命としている点では看護学科、リハビリテーション学科、診
療放射線学科とも同様である。しかし、社会的・職業的自立に関する就職対策、国家試験対
策などに異なる部分も少なくはない。そのため、学部としての取り組みと学科ごとの取り組
みに分けて述べる。

[1] 学部としての取り組み

センターは、部門員、専門員を通して各学科との緊密な連携のもと、社会的・職業的自立
に関するキャリア教育、就職対策支援、国家試験対策支援及びリメディアル教育のための支
援体制を構築している。

毎月1回、定期的に部門員、専門員、事務職員参加のもとセンター運営委員会を開催し、
必要な業務にあたっている。就職・進学、国家試験対策に関する相談についてはセンター専
門員が部門員と協力しつつ相談窓口となり、支援・助言を行っている。学生対応、求人对
応、就職対策、国家試験対策などの専門員の業務内容は毎月開催の運営委員会にて報告され
ている。

教育課程外でセンターが実施しているキャリア教育の取り組み実績は、各種就職対策講
座の開講や就職ガイダンスの開催、『就職ガイドブック』の作成等がある。これらの機会を
通して、就職と進路選択への動機付けや社会人・職業人として必要な知識と礼節を学ぶ機
会を設けている。真栄キャンパスと恵み野キャンパスに常駐している専門員は学生に対し就

職相談や模擬面接などの直接的支援を実施し、社会的・職業的自立の発達を促している。

職業人として自立するための国家試験対策としては、専門員による各学科の教員と連携した、きめ細かいグループ学修、個人学修の企画を行っている。自習室の開放拡大、国家試験対策関係資料の充実、独自の問題集の作成（リハビリテーション学科）、国家試験対策講座（看護学科）の実施、自己学修の効果向上を図るため図書館の開館時間（真栄キャンパス図書館）の延長、センター専門員と教員による相談サポート体制の強化を行っている。

本学は医療専門職の育成を目指す大学であることから、教育課程においてはキャリア教育に繋がる科目である「臨地実習」、あるいは「臨床実習」を設定している。これらは、通常のインターンシップ以上に学生が働く目的を考え自己成長を促す機会となっている。「臨地実習」と「臨床実習」の時間数、回数、実施学年などは学科ごとに異なるが、センターではこれらの実習と連動させて各種講座を企画し、実施している。

学年進行に伴い、特に学業不振の学生をいかにして国家試験に合格させ、職業人として自立させるかについて課題となってきた。そのため、入学時学力の実態を把握するために、平成30(2018)年度から全新生入生に対し、センターで作成した自己診断テストを行っている。自己診断テストの目的は、学生の基礎学力を把握し、教職員間で共有し、学生のニーズに応じた学修指導及び国家試験対策へと繋げることや、基礎的な計算力を問う数学と文章読解力等を問う国語の2科目と、これらを通した自己認識及び高等学校での科目の履修状況調査を行い、基礎知識の不足した学生の存在を明らかにして、補習など必要な対策を実施することである。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施は見送られた。診療放射線学科については、専門学校時代から数学、物理のリメディアル教育を行っており大学になってからも継承し行っている。

学生には新入生オリエンテーションや在学生オリエンテーションの機会を通し本学キャリア教育の内容やセンターの機能を説明し、センターの利用を促進している。保護者には入学式における保護者説明会、年1回行われる保護者懇談会などで、キャリア教育の紹介及びセンターの案内を行い、保護者の理解と支援を促しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により入学式は中止され、保護者への説明の機会はなかった。

[2] 各学科の取り組み

○看護学科

1) キャリア教育・就職対策

看護学科は、幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を育成するために、看護学の専門的知識と技術に裏づけされた看護実践能力の向上を図っている。そのため、教育課程内外においてキャリア教育に積極的に取り組んでいる。

看護学科では、1年次から4年次までのカリキュラムにおいて臨地実習を取り入れている。

る。臨地実習は看護実践場面における科学的根拠に基づく実践教育であると同時にキャリア教育の役割を果たしている。4年次の統合実習は、既修得科目の知識・技術を統合し、多様な課題に取り組む実習であるので、インターンシップ制度の代替となる。

このようなカリキュラムを踏まえ、1年次からキャリア教育に取り組んでいる。2年次には「実習前マナー講座」、3年次には「インターンシップマナー講座」「実習前準備講座」「履歴書・小論文対策講座」、4年次には「面接試験対策講座」を行っている。このプロセスで学生は将来に向け自己の課題を明確にし、臨地実習に取り組みながら自らの進路を選択していく。4年次は、より具体的な就職・進学活動をサポートし、学生が目指す看護が実践できる就職や進学の実現を図ってきた。病院施設からのパンフレットや求人情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように、センター室に専用コーナーを設け整備している。

令和2（2020）年度卒業の4期生は就職者65人（道内57人、道外8人）であった。65人の内訳は、大学病院8人、国公立・公的病院7人、民間49病院人、一般企業他1人であった。なお、国家試験合格者の就職率は100%である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し、社会で活躍できるよう丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

2) 国家試験対策支援

国家試験対策への支援は職業人として自立するための第一歩であり、極めて重要な位置づけである。平成29（2017）年度から看護師国家試験の出題基準が変更となり、新しい項目の出題や各領域を跨いだ臨地での判断能力を問う思考型問題が多く出題された。看護師として就業した際に求められる能力が国家試験で確実に問われている。看護学科では、計画的な国家試験対策として受験講座の開催、各種模擬試験の実施、模擬試験結果に基づく特別クラスの編成、補講の実施など、専門員、部門員が学科教員と連携し国家試験対策支援を行ってきた。令和2（2020）年度卒業の看護学科4期生は69人の受験者中、60人が合格し、87.01%の国家試験合格率であった（表2-3-1）。

表2-3-1 本学の看護師国家試験合格率

	受験者	合格者	合格率	全国平均（新卒）
令和元年度	76人	73人	96.1%	94.7%
令和2年度	69人	60人	87.0%	95.4%

今後も、4年間のカリキュラムにおいて考える力や判断力を養う教育のさらなる充実を図り、効果的な試験対策を実施していく必要がある。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。

○リハビリテーション学科

1) キャリア教育・就職支援

リハビリテーション学科は理学療法学専攻及び作業療法学専攻の2専攻からなり、多くの学生が卒業後理学療法士及び作業療法士として活躍することを希望している。幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を育成するために教育課程内外において、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。

リハビリテーション学科では2年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習は臨床現場における教育であり、同時にキャリア教育やインターンシップの代替としての役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。

1年次からキャリア教育に取り組み学修への適応を図り、2年次以降は臨床実習に合わせて各種講座を実施している。2年次には「自己分析・表現」、3年次には「接遇」、4年次には「面接・小論文講座」を行っている。

求人情報はすべてセンターで受け付けている。病院施設からのパンフレットや求人情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように、センター室に専用コーナーを設け整備している。就職指導は専門員が中心となり教員と連携しながら行っている。

リハビリテーション学科では、全学で使用する就職ガイドブックの他にリハビリテーション学科に対応したより詳細な『就職ハンドブック』を用いてガイダンスを行うほか就職説明会等を開催している（令和2年度中止）。令和元（2019）年度の就職説明会には、理学療法学専攻及び作業療法学専攻合同で約98施設が参加している。学生は、興味のある病院や施設等の説明を聞き、疑問点を解決したうえで希望する施設への就職活動を行うことができ、就職や国家試験への心構えにもなっている。

就職説明会は、病院からの求人件数の増加と病院との連携強化を図る機会ともなっている。学生が就職活動を行う前には専門員及び各専攻の学担が随時窓口となり、病院の事情に詳しい教員にも相談できるような連絡体制をとっている。

求人票等の就職に関する資料については、学生がいつでも自由に閲覧できるようにしている。就職試験前には、学生に面接や小論文などの個別指導も実施している。

令和2（2020）年度卒業の3期生就職者は34人（札幌市内22人、札幌市外11人、道外1人）であった。内訳は国公立・公的病院2人、民間病院31人、福祉施設1人であった。なお、国家試験合格者の就職率は100%である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

2) 国家試験対策

リハビリテーション学科は、職業人として自立するための第一歩である国家試験対策を4年次から本格的に実施する。国家試験対策として、国家試験日までの学修スケジュール、諸手続きなどを含む総合的な対策マニュアルを作成している。あわせて過去の国家試験に基づくサーキットトレーニング集を印刷製本し学生に配布している。

専門員と部門員が協力して、週5日間のグループ・個別学修支援、また適時に模擬試験をしている。学修進度に応じ、グループの組み直し、ペア学修などきめ細かく指導している。

令和2年度(2020年度)卒業の3期生は理学療法学専攻30人の受験者中、26人が合格し合格率86.6%であった。作業療法学専攻は8人の受験者中、8人が合格し合格率100%を達成した(表2-3-2)。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。

表2-3-2 本学の理学療法士・作業療法士国家試験合格率

	受験者	合格者	合格率	全国平均(新卒)
理学療法士	30人	26人	86.6%	86.4%
作業療法士	8人	8人	100%	88.8%

○診療放射線学科

1) キャリア教育・就職支援

診療放射線学科の学生の多くは卒業後診療放射線技師として活躍することを希望している。放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。

また、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけた職業人を育成する。

科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療の実践能力向上のためのキャリア教育を行っている。

リメディアル教育として、1年次に数学、物理学及び情報科学の補講を実施している。数学は学生個々の学力に合わせた講義内容としている。情報科学分野は高等学校により教育内容の差が大きいため、この差を解消する目的で行っている。1年次から3年次まで各学年の学力に合わせた受験対策講義を実施している。3年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習はインターンシップの代替としての機能を持ち、社会人・職業人の自立に向けたキャリア教育の役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。

臨床実習の進行に合わせ、3年次に「接遇」「コミュニケーション」をテーマにキャリア教育講座を行っている。

令和2（2020）年度卒業の2期生就職者は33人（札幌市内7人、札幌市外19人、道外7人）であった。内訳は大学病院3人、国公立・公的病院8人、民間病院18人、一般企業他4人であった。なお、就職希望者の就職率は100%である。大学院進学者が2名であった。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

2) 国家試験対策

令和2（2020）年度の4年生には10回の模擬試験を実施した。また、専門員、部門員が学科教員と連携し国家試験対策支援を行ってきた。以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。令和2年度（2020年度）卒業の2期生は53人の受験者中、31人が合格し合格率58.5%であった（表2-3-3）。

（表2-3-3） 本学の診療放射線技師の国家試験合格率

	受験者	合格者	合格率	全国平均（新卒）
令和元年度	41人	32人	84.4%	82.3%
令和2年度	53人	31人	58.5%	83.0%

さらに、学生のスキルアップの一環として、第1種及び第2種放射線取扱主任者（国家資格）の資格取得にも積極的に取り組み、試験受験対策講座も実施している。

2-4. 学生サービス

2-4-① 学生生活の安定のための支援

[1] 学生サービス、厚生補導のための組織の設置とその機能

学生サービス、厚生補導のための組織として本学では「学生委員会」を設置している。委員は各学科3人の教員と学生・教員サポートグループの職員で組織し、学長指名の委員長が委員会を運営している。委員会については委員長が招集し、原則月1回（第2水曜日16時30分から）の定期開催のほか、緊急な議題が生じた場合は持ち回りの会議等に対応している。令和2年度は12回開催、11月、1月は第4水曜日に、第4回委員会からは遠隔で実施し、第12回は報告事項1件のみであったため、持ち回りとなった。

学生委員会では毎年11月に翌年度の運営計画を提示しているが、活動は大きく分けて1. 通常の学生委員会業務、2. 学生委員会主催行事、3. 学友会支援に分かれている。これに沿って単年毎の実施計画案を審議し、年度末に大学に提出している。

本学では大学設置後、学科増設や定員の増員を経て、令和2年度にはそれぞれの学科の完成年度が終了し、3学科共に1年から4年までの学生が揃った。学生委員会は増大する学

生のニーズに合わせて毎年改善を繰り返し、両キャンパスの学生サービス、厚生補導の平準化にも努めてきたが、コロナ禍の中で当初の計画を実行に移すことが困難となった一方、学内施設の利用禁止、学内団体活動の自粛などによる、新たな課題も発生した。授業の聴講だけではなく、個人のコミュニケーションツールとして、SNS への依存度の高まりがその原因であると推察されるが、その都度、学生委員会では学長の許可を得て、即日、ユニバーサルパスポートを通じて「遠隔授業の受講前後に関するお願いと注意事項」、「ユニパに掲示された成績結果の SNS での発信・拡散について」などを全学の学生への警告や注意として発信した。学生委員会が発行する「学生委員会からのお知らせ」でも、情報確認のお願いや SNS の利用に関する注意喚起として、遠隔授業の内容やダウンロードした資料、ユニパでの発信内容を保存、撮影し、個人の SNS にアップすることといった処罰対象行為の禁止を具体的に掲載した。

[2] 通常の学生委員会業務

学生サービス、厚生補導に関する学生委員会の通常サービスとしては以下の活動を実施している。

1) 環境整備やその美化

・学生の居場所作りの整備、各棟の共同利用スペースの環境整備に関しては、例年は共用スペースへのイス・テーブル等の設置の拡充に努めてきたが、コロナの感染防止で新たな居場所作りは実施していない。一方、登校が許可された時期におけるコロナ対策のための学生食堂の三密を避けるアクリル板の設置や学内各所への消毒液等の設置、その後の施設利用に関する注意喚起を実施した。

・学内社会実験『自由文庫』について

空いた時間に学生に読書の習慣をつけて欲しいとの趣旨で開学年度に始まった学内社会実験『自由文庫』は今年度も継続した。教職員に読み終わった本を提供してもらい文庫の蔵書とし、本は学内だけではなく自由に学外や自宅等、どこに持ち出してもかまわず、貸し出しの手続きは一切ない。読み終わると返却するシステムで、読んでいる間の本の管理は利用する学生の良識に期待する。真栄キャンパスのレストランや診療放射線棟の4階、恵み野キャンパスのラーニングコモンズの3ヶ所に設置していた。しかし、新たな置き場所もなく、自由文庫の読み終わった本の募集は、今年度は行っていない。新キャンパスへの移転に伴い、恵み野キャンパスの自由文庫は、留学生別科長の希望を受けて、そのまま恵み野に設置したままとし、別科の管理に移行することになった。

2) 防災活動、災害時行動マニュアルの作成、配布

災害時行動マニュアルを作成し、毎年入学式後のオリエンテーションにて配布している。災害時の避難経路や緊急避難の方法、留意点等が名刺大の折り畳み式の冊子になっており、学生には学生証と同様に携帯を勧めている。毎年5月の下旬には両キャンパスで全学対象の避難訓練が実施された際に、その時期に合わせて毎年災害時行動マニュアルの見直し

行われているが、今年度はキャンパス移転に合わせ3月に改訂を行った。

平成29(2017)年に札幌市と本学の間「福祉避難所等に関する学生ボランティア協定」が締結され、希望学生の登録募集は「学生委員会からのお知らせ」を通して毎年募集をかけていたが、今年度は募集を行わなかった。そのため大学側の責務である研修等の開催も実施しなかった。今年度現在に至るまで、協定に則った福祉避難所からの学生ボランティアの招聘は一度も発生していない。

3) 学内の保安

学内における遺失物に関しては事務局で管理しているが、明らかに盗難等の被害を受けた場合は、被害届を大学に提出してもらおうと同時に本人、保護者と話し合い、警察に届け出ることもある。届け出た場合は警察の事情聴取や捜査に協力を行う。これまで保護者から警察に届けた例は、ノートパソコンの置忘れによる遺失物が1件であるが〔平成30(2018)年4月〕、別の場所から翌日に見つかり、被害届を取り下げている。

今年度は学内において、私物の盗難や紛失等が発生し、教職員や学生に向けて緊急の警告を発するとともに、心無い行為を見聞きした場合は事務局や学生委員会の教員に知らせしてほしいと掲示をするなど、再発防止への協力を全学に対して呼びかけた。その都度学生、教職員に対して掲示板やポータルサイト等で私物の自己管理に関する注意喚起を実施した。

4) 奨学金、学生の顕彰に関する業務

・学内奨学金授与者の選考業務

各種奨学金の応募者が推薦人数を超えた場合、学内での選考を学生委員会で実施するが、案件によっては各学科に選考を依頼することもある。今年度の具体的な活動に関しては[5]の1)、2)に記した。

・学生顕彰の選考業務と顕彰状授与式の挙行

人材育成の一環として、Grade Point Average (GPA) が優れ、学修態度において顕彰に値するとして教員の推薦を受けた学生又は、ボランティア活動や地域振興等の社会貢献活動において顕著な成果を残した学生に対して、学生顕彰を行い副賞として図書券3万円を授与する。成績優秀による顕彰は毎年各学科・各学年5人ずつとし、社会貢献による顕彰学生は毎年全学2人、あるいは2団体としている(上限数であり、該当学生がいない場合もある)。選考は、年度末に成績優秀上位者一覧を各学科に示し、学科の推薦を得た学生を学生委員会でさらに検討して対象者案を決定する。今年度の具体的な活動に関しては[5]の1)、4)に記した。

5) 情報発信

学生への情報発信として、今年度は次のことを実施した。

- ① ニュースレター『あずまし』の発行
- ② 「学生委員会からのお知らせ」配布
- ③ 入学式、各学科のオリエンテーションにおける学生生活の説明

[3] 学生委員会主催行事の実施

学生委員会の主催行事は、開学年度から計画的に開催し、今年度に至るまでにその 7 回目を迎えることになっていた。社会人として必要な基本的知識を学修させるための講座やセミナー、あるいは人間力の向上や、医療従事者としての基礎教養を学べるような講師の招聘に毎年取り組んできたが、今年度は、コロナ禍で授業以外の施設利用や対面での講座自粛で、毎年4月から5月に各キャンパスにおいて自治体の年金事務所による「成人する学生のための年金セミナーの開催」が中止となり、5月末から6月に各キャンパスにおいて実施してきた北海道警察による護身術講習会や学生向けのデートDV、キャンパスハラスメント防止講座等の「安心・安全講習会」も全面的に中止となった。

後期の10月から12月に実施されてきた「命を学ぶ一週間」はコロナ禍の罹患状況を見ながら実施した。

「命を学ぶ一週間」

第7回「いのちのパネル展」交通事故被害者遺族の会

真栄キャンパス 11月30日(月)～12月4日(金)

恵み野キャンパス 12月8日(月)～12月11日(金)

2020年12月10日木曜 オンライン開催

第7回 講演会『命』

医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院総長 前野宏氏

「ホスピスのこころ ～医療者として人として～」

真栄キャンパス 168名参加

恵み野キャンパス 175名参加

他の主催行事が中止となる中で、この2行事のみ実施することができた。パネル展は三密を避けての閲覧をお願いし、講演会は遠隔での実施となったが、例年をはるかに超える数の学生が参加する結果となった。

[4] 学友会活動への支援

日本医療大学学友会は、平成26(2014)年4月24日施行の「日本医療大学学友会会則」に則って設置された。会則第2条により学友会は日本医療大学に在籍する学生全員をもって組織されている。前年度決算案、今年度予算案は、年間活動計画案、本部役員案は4月の対面での定期総会が中止となったため、遠隔での実施を模索し、6月4日に開催した。

学友会会長は全会員の選挙によって毎年1月に選ばれ、今年度会長は7代目の会長が各行事を主宰し、本部会は会長が指名した各学科1人の副会長と、年度初めのオリエンテーションやガイダンスで選抜される学科各組の代表者2人のうちの1人から組織される。

年間を通しての主な学友会主催行事は、新入生歓迎会、体育祭、日医祭で、令和2年度は

それら行事の第 7 回目の実施を計画していたが、コロナ禍の中ですべて中止を余儀なくされた。一学友会本部会では緊急の予算案改訂を提言し、Web 上で学友会員の承認を得て、今年度予算に「学外活動支援費」を新設し、全学学生に 1 人 2000 円のクオカードを配布した。また卒業式、学位授与式では卒業生への記念品の配布は実施できたが、その後の卒業を祝う会は中止となった。

2021 年の 2 月には第 8 代の会長が決定した。年度末には新キャンパスへの移転に関する学友会の引っ越し作業を支援した。

[5] 奨学金などの学生に対する経済的支援の実施

1) 日本学生支援機構奨学金、その他

日本学生支援機構奨学金の募集及び継続手続等に関してはキャンパス別に説明会を開催し、希望学生が貸与、受給できるよう支援を行っている。また、地方自治体の奨学金制度、医療機関による奨学金制度などの情報を提供し、個別相談と申請手続きなどを支援しているが、令和 2 年度はこれらに関連する申請の審査は 1 件もなかった。しかし、病院からの奨学金を個別に受けて就学している学生は複数人おり、窓口が個人であるため、その詳細は明らかではない。

2) 国の「就学支援新制度」、「学生支援緊急給付金」

「就学支援新制度」は令和 2 年(2020 年)4 月より、高等教育の無償化(高等教育の修学支援新制度)が開始されたことによる制度である。奨学金の資料配布時に説明文等を配布したが、コロナ禍のため対面での説明会は実施されなかった。高等教育の無償化によって授業料(前期・後期両方もしくはどちらかのみ)・入学金を免除または減額されるもので、推薦学生の選考に当たり、受給後の成績、出席に関する監督の責務が発生することから、選考を各学科に依頼し、その後その結果を受けて学生委員会で検討を行った。高校から推薦された学生も含め、本学での対象人数は以下の表のとおりである。

学科	授業料・入学金を免除または減免された人数
看護学科	56
リハビリテーション学科	29
診療放射線学科	55

「学生支援緊急給付金」は、コロナ禍による経済的な困窮支援のためのもので、単年度の実施である。これも選考を各学科に依頼し、その後その結果を受けて学生委員会で検討を行った。本学の対象人数は以下の表のとおりである。

3) 日本医療大学 特待生制度

学校法人日本医療大学特待生制度規程により、入学試験における合格者のうち優秀な成績をもって入学する者に対して入学後 1 年間の授業料の半額相当額を給付する制度を実施している。平成 27 (2015) 年から施行し、平成 28 (2016) 年度の入学生から適用しているが、今年度の入試を経て年度末までに選考された対象学生人数は以下のとおりであった。

特待生制度実績

(単位:人)

年度	看護	リハビリテーション	診療放射線	臨床検査	合計
令和2年度	1	0	1	4	6

4) 日本医療大学ファミリーサポート制度

ファミリーサポート制度は、日本医療大学に入学しようとする者のうち、保護者や兄弟姉妹が日本医療大学又は前身の専門学校の卒業生又は在學生である場合、もしくは、「つしま医療福祉グループ法人又は関連法人」の役職員の家族である場合に、検定料及び入学金を免除する制度である。今年度の入試を経て、年度末までに選考された対象学生人数は以下のとおりであった。

ファミリーサポート制度実績 (単位:人)

年度	看護	リハビリテーション	診療放射線	臨床検査	合計
令和2年度	6	4	1	3	14

5) 日本医療大学 学生顕彰

令和2年度は45名に成績優秀賞を授与し、社会貢献賞はなしとの結果であった。授賞式は4月に予定されていたがコロナ禍で中止となり、学生の登校が再開された7月に、3回に分けて実施した。

年度末には翌年度の受賞に関する覚書にのっとり制度の変更を議論し、学科各学年5名の受賞人数を、上位10%とすること、副賞を図書券1万円とすることを決定した。3月中旬に成績が確定した後、各学科へ上位10%の成績優秀者一覧を示し、年度末までに成績優秀賞の対象とした全学78名が学科の推薦を受けた。社会貢献賞は、リハビリテーション学科から2名が推薦を受け、いずれの賞も学生委員会の議を経て受賞者案を学長に提出し、承認を得て決定となった。

[6] 学生の課外活動支援

課外活動の支援は、主に学内団体の設置と活動に関するものである。学内団体は現在7月末と翌年の1月末までに設置申請を受け付け、学生委員会の審査を経て学長の承認によって設置が許可される。基本的な備品に関しては設置許可後に各団体からの申請を受けて学生委員会の予算で購入しているが、活動の予算は学友会からの支援と個々の会費の徴収で行っている。

令和2年度は新設された団体はなかった。既存の18学内団体は、昨年度末に活動報告と決算報告を提出予定であった。しかし令和2年2月からのコロナ禍により、大学への登校が困難となったため、関係書類の提出を4月末に延期したが、遠隔事業授業等でさらに提出締切りを7月に再延期し、結局今年度末の締め切りとしたが、提出は数団体にとどまっている。

大学の設置初年度に7団体からスタートし、多い年には23を数えた学内団体ではあるが、今年度は、その活動が自粛となったことから、新入生の募集が行えず、継続申請の提出も滞

り、学生委員会への新たな備品の購入請求もまったくなく、活動停止を受けて学友会からの活動資金も受理できなかった。学内団体の存続に関して、令和2年度は、大きな課題を残すことになった。

[7] 学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談

(1) 学生相談センター

令和元年(2019年)度末に学生相談センターが教授会で承認され、ガイドラインを設け、学生相談に関わる窓口が明確になった。具体的には保健室、カウンセリングルーム、障害学生支援、キャリア学修支援センター、各学科学生担任、事務部署(学生・教員サポートグループ)、ハラスメント相談、性暴力被害相談である。

主にけがや疾患への対応と健康診断や感染症抗体価検査後の指導等を行う保健室では、応急処置や健康相談が幅広く実施された。真栄キャンパスにおいては、保健室の位置が体育館に行く経路にあるため、学生の認知度が高く、日常的なケガや体調不良等での利用が多かった。また、健診後の指導をきっかけに相談に訪れる学生たちがおり、気軽な相談部署として機能していた。年度途中の7月から保健室の担当職員が代ったが、学生たちが戸惑う様子はなく、通年で1日2.52名の利用があった。前年度の1日平均利用者4.46人より減少しているが、コロナ事情により学生の通学がない時期にも保健室が開室していたことに起因する。恵み野キャンパスにおいては、1号館1階に保健室が設置されているが、保健室職員が常駐せず、けがの応急処置は事務職員や教員が担った。

臨床心理士による心の相談は、カウンセリングルームが対応し、今年度は電話相談、Teamsによる遠隔相談を取り入れたが、利用者は対面相談が27件、電話相談が6件、遠隔相談は0件であり、開室日数に対する平均利用件数は0.56件であった。前年度の1日利用件数1.19人と比較すると減少し、保健室同様、学生の通学がない日の開室による減少が考えられた。その一方で、コロナ関連で心理的、経済的事情を持つ学生たちの増加が予想されたが、カウンセリングルームの利用にはつながっていない。また、面談の方法を拡大したが、電話相談や遠隔相談の利用は芳しくなかった。利用者の減少傾向については、今後、検証の必要がある。

障害のある学生の支援については、昨年度に初めて支援の対象となる学生1名が入学し、今年度からより組織的な合理的配慮に関する取り組みを行っている。当該学生の所属する学科内に支援チームがあり、チームに障害学生支援担当者が加わり、定期的な会議を実施し、必要な合理的配慮に関わる段取りを進めてきた。当該の学生の学修、学生生活は概ね順調に推移している。また、今年度は新たに2名の学生から支援申請があり、さらに1名の学生からは本人の希望で支援申請書は提出しないが、支援の対象となっている。これら4名の学生については各々の事情を尊重し、必要な配慮事項を検討し、関係各所に協力を依頼している。

キャリア学修支援センターは学生の国家試験指導と進路・就職相談を担い、主に3・4年生の学生へのサポートを丁寧に進めた。

この他、各学科学生担任、事務部署(学生・教員サポートグループ)には学生の大小さまざまな困りごとをはじめ、学修や進級に関する相談ごとが寄せられ、多大な貢献がみられた。

性暴力被害に関する案件は発生しなかった。ハラスメントについては、ハラスメント防止

委員会への申立てに至るものはなかったが、保健室や相談員への個別相談は増加していた。

全般に学生相談の需要は高まっており、学生相談センターの組織化と保健室の保健センター化および人員の補充が喫緊の課題となっている。

(2) ハラスメント防止について

ハラスメントの防止、啓発、対応策の検討に関しては、日本医療大学ハラスメント防止委員会が設置されている。一昨年「日本医療大学ハラスメント防止等に関する規程」が改訂され、昨年は「日本医療大学ハラスメント防止等に関するガイドライン」が作成された。本学のハラスメント関連の規程やガイドラインは学生と教職員を対象としているが、啓発に関しては学生と教職員を分けて実施している。学生に関する啓発は例年5月から6月の安心・安全週間にキャンパスを分けて実施していたが、今年度は中止となっている。

一方、本学の教職員への啓発とハラスメント相談員への啓発に関しては、ガイドラインに則ったガイダンスを、今年度末に遠隔で以下のように実施した。講師はハラスメント防止委員長である。

真栄キャンパス 3月15日(月) 参加者 31人

恵み野キャンパス 3月15日(月) 参加者 8人

参加者には Forms を利用して、ガイダンス後に受講の内容確認を行った。当日が大学の入試日ということもあって、参加者の人数は限られていたが、後日レコーディングを自由に閲覧できるよう整え、参加できなかった教職員に閲覧を依頼した。

[8] 学生委員会関連各種規程、覚書、ガイドラインの作成と改正

「日本医療大学 SNS に関するガイドライン」を作成し、新入生オリエンテーション、2年生から4年生のガイダンスで、パンフレットを配布した。

2-5. 学修環境の整備

2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

本学のキャンパスは、北海道札幌市の南東部、札幌市営地下鉄東豊線福住駅からバスで約15分の自然豊かな環境に位置する真栄キャンパス（看護学科、診療放射線学科）と、新千歳空港と札幌市を結ぶJRの路線上に位置する恵み野キャンパス（リハビリテーション学科）を校地として所有している。

表2-5-1に示すように、校地の面積は、2キャンパスを併せ46,599㎡であり、大学設置基準上必要な校舎面積を満たしている。

2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用

[1] 図書館

本学保健医療学部開設にともない、図書館は真栄キャンパス本館、恵み野キャンパス分館の二館体制で運営している。

本館は、専門学校日本福祉看護・診療放射線学院図書室、分館は専門学校日本福祉リハビリテーション学院の蔵書を基礎として開学以来段階的に整備を重ねてきた。令和3（2021）年3月31日現在の蔵書数は27,141冊（電子書籍含む）であり、そのうち洋書は568冊、和書は26,575冊である。

図書及び視聴覚資料の資料費は、開設準備時の予算に加え各学科300万円ずつ（平成30年度より240万円）を確保し、過去5年の資料購入受入数は表2-5-5のとおりである。

表2-5-5 購入資料数

年 度	購 入 資 料 数 ※図書には電子書籍を含む				
	和図書 (冊)	洋図書 (冊)	和雑誌 (誌)	洋雑誌 (誌)	視聴覚 (タイトル)
平成28年	1,232	51	92	31	45
平成29年	417	3	90	25	22
平成30年	441	0	79	20	16
令和元年	406	0	80	20	10
令和2年	283	0	78	22	3

雑誌は、令和3（2021）年4月1日現在、継続受け入れしているタイトルは117種（うち洋雑誌は22種）。

図書の選書は図書及び学術振興委員会（以下、「図書委員会」という）の協力を得て学科ごとに行い、さらに図書館利用者からのリクエストも受け付けている。購読雑誌の選定は図書委員を通して学科ごとに行っている。

また、論文全文を閲覧可能な文献データベースを導入しており、「メディカルオンライン」（国内医学関連分野1,500種）「最新看護索引Web」（看護系和雑誌10種）、「CINAHL with Full Text」（医学・看護系洋雑誌600種）から利用者は豊富な学術文献にたどり着くことができる。

図書館の規模、開館時間、閲覧席数、情報検索設備や視聴覚機器等の配備等の利用環境の整備状況は表2-5-6から表2-5-8に示すとおりである。

表2-5-6 環境の整備状況

	面 積	座席数	収容可能冊数
真栄キャンパス	328 m ²	82 席	23,028 冊
恵み野キャンパス	207 m ²	50 席	10,194 冊
合 計	536 m ²	132 席	33,222 冊

表2-5-7 開館日数、入館者数（※真栄本館のみの数値。令和2年度は機器故障のため統計なし）

年 度	開館日数 (日)	入館者数総計 (人)	1カ月平均 (人)
平成27年度	241	15,417	1,285
平成28年度	244	15,444	1,287
平成29年度	278	16,588	1,382
平成30年度	234	14,877	1,240
令和元年度	233	13,684	1,140
令和2年度	213	—	—

表2-5-8 開館時間

館 種	開 館 時 間		休 館 日
真 栄 本 館	平 日	9：00～20：30	日曜祝日、年末年始、蔵書点検期間、入学試験日、指定した夏期冬期休暇期間、卒業式、その他館長が認めた日。
	土曜日	9：00～12：00	
	長期休暇	9：00～17：00	
恵み野分館	平 日	9：00～19：00	
	土曜日	9：00～12：00	
	長期休暇	9：00～17：00	

開学時は、平日19:00閉館、土曜日は休館であったが、学生の要望を受け平成27（2015）年度から土曜日開館を実施、平成29（2017）年度後期からは平日開館時間を20:30までに延長した。しかし、令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、土曜日の休館や平日の開館時間の短縮、学外者の利用休止を余儀なくされた。

視聴覚機器の配備等は、開学時から本館では個人視聴覚ブースを5席（1席はVHSも対応）設置し、分館はデータベース用端末が視聴覚ブースを兼ねている。

情報検索設備の配備は、所蔵検索端末（OPAC）は館内に2機（分館は1機）設置しており、インターネットによる蔵書検索（Web OPAC）ができる。データベース用の検索用端末は本館が10機（所蔵検索端末と兼用2機を含む）、分館が3機（所蔵検索端末と兼用）、プリンターは本館が2機、分館は2機設置され、検索結果や文献などをプリントアウトできる。また教員には教員専用のデータベースのIDとパスワードを配布しており、学外でのアクセスが可能である。それに加え、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、在宅での学修支援のため、学生専用のデータベースのIDとパスワードを配布し、学外からのアクセスを開放した。

5か年の貸出状況は表2-5-9、契約データベースの利用状況は表2-5-10のとおりである。

令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症対策として学生の校舎への立入禁止や遠隔授業への切り替えがあったため、学生への貸出数は激減した。また、対面講義から遠隔講義に切り替

えられたために講義内容の大幅な変更が求められたため、講義内で司書が担当する予定であった文献検索の方法やデータベースの利用方法を紹介するガイダンスが中止された。そのため、利用方法の周知が十分ではなく契約中のデータベースの利用は微増に留まった。

そのため、「コロナ禍後」を見据えつつ、今後、感染症対策を行いながらの図書館サービスや利用者教育をどう行っていくのか、本学図書館のあり方を再検討する必要がある。

表2-5-9 過去5年の貸出状況（冊数）

年度	区 分		
	学 生	教職員	その他
平成28年度	5,779	709	74
平成29年度	5,140	635	103
平成30年度	3,826	584	59
令和元年度	3,856	672	1
令和2年度	830	473	3

表2-5-10 契約中のデータベースの利用状況（検索回数）

年度	データベース			
	医中誌 Web	最新看護索引 Web	メディカルオンライン	CINAHL with Full Text
平成28年度	1,751	医中誌と合算	—	288
平成29年度	2,665	医中誌と合算	4,876	301
平成30年度	11,379	医中誌と合算	5,804	49
令和元年度	13,912	552	5,083	696
令和2年度	14,624	83	6,460	203

2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

真栄キャンパスの校舎の入り口は、段差をなくすなどバリアフリーに配慮している。また、エレベーターや身障者用トイレを設置（真栄キャンパス）して車いす利用者等への配慮している。

恵み野キャンパスの校舎は、身障者用トイレの設置や玄関にスロープを設置するなどバリアフリーに配慮している。

2-5-④ 新型コロナウイルス感染症への対策に伴う学修環境の整備

本学の所在する北海道にあっては全国的にも早い段階から、特に札幌市を中心に新型コロナウイルスの感染拡大が見られ、令和2（2020）年3月には道独自の緊急事態宣言が発出される状況となっていた。このような状況の下始まった令和2（2020）年度は、本学にあっても感染症拡大防止対策と、学修環境の維持という両方の対策が求められる年となった。

令和2（2020）年度当初より、本学にあっては国・道の示す指針・対策に則り、対面授業

の実施においては、適切な社会的距離の確保、講義室等の消毒等を行い、感染拡大防止対策を行いながら安心・安全な学習環境の維持に努めた。また、令和2(2020)年4月に国の緊急事態宣言が発出されるなど感染拡大の状況が進行する中、本学では遠隔・分散授業実施の検討を進め、順次端末・カメラ等のAV機器の整備を行い、6月より全面的に遠隔授業を実施することとなった。その後も感染状況の推移を踏まえて、追加の機器整備を行い、分散授業を段階的に取り入れるなど、コロナ禍においても学修環境維持に努めた。

2-5-⑤ 授業を行う学生数の適切な管理

授業実施にあたっては、教育効果を高めるために、講義、演習、実習・実験などの講義形態に則し、複数の教員が分担し少人数グループを指導する形態が多く組み入れられている。また、各授業は、学科・専攻・学年で実施するものがほとんどである。

看護学科では、平成31(2019)年度から、収容定員の変更を行い、入学定員が80人から100人と増員したため、クラスサイズは80人から100人前後となった。講義におけるクラスサイズは、80人から100人前後である。基礎教育科目の「日本語表現」や「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「中国語」などの語学系演習科目をはじめ、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目は、授業科目や内容により、クラスサイズは50人前後である。特に、入学後間もなく実施される導入科目「看護を知る」、看護専門職としての知識・技術・態度を統合し、思考過程を重視する「看護研究演習」のクラスサイズは6人前後であり、少人数での指導で教育効果を高める努力をしている。また、看護学実習(小児看護学幼稚園実習以外の看護学実習)のクラスサイズは2人から4人とし、臨地実習指導者及び実習指導教員・大学教員それぞれが最大限の教育効果を高める配置としている。

リハビリテーション学科の理学療法学専攻及び作業療法学専攻では、基礎教育科目と専門基礎教育科目の共通科目のうち、「日本語表現」、「英語Ⅰ」、「中国語」などの語学系演習科目と一部の演習科目を除き、合同講義を実施している。また、専門科目のうち「共通・連携科目」でも合同講義となっている。それらの平成27(2015)年度から令和2(2020)年度までのクラスサイズは、50人から120人前後で推移している。各専攻単位で実施される授業のクラスサイズは、理学療法学専攻は30人から90人前後、作業療法学専攻は20人前後である。

診療放射線学科は平成28(2016)年度に開設5年目を迎えた。

診療放射線学科の開設に伴い基礎教育科目の一部が看護学科と診療放射線学科の合同講義となった。必修科目(「心理学」、「公衆衛生」など)が150人前後とクラスサイズがやや大きくなっている。選択科目の合同講義では、それぞれの年度や科目により、50人前後から140人前後とクラスサイズに幅がある。

各学科とも専門基礎教育科目、専門教育科目の学内での演習、実習・実験では、授業科目や内容によりグループワークを取り入れ、10人前後の少人数グループを複数の教員が分担して指導を行っている。また、看護学科「看護研究演習」「看護ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

や、リハビリテーション学科共通・連携科目「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」などのゼミナール方式の科目や、選択科目ではあるが診療放射線学科の演習科目についても、教員1人につき10人前後の学生を担当しており、実質的に少人数対応となっている。

平成28(2016)年度以降、看護学科、リハビリテーション学科では、選択科目で、履修者数が5人以下となる科目があるが、本学では開講制限は実施しておらず、少人数での授業を行っている。

2-6. 学生の意見・要望への対応

2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

本学では、毎年5月から6月にかけて、全学対象の学生アンケートを実施してきたが、コロナ禍の中で開学以来、初めての遠隔授業となり、キャンパスでの生活や学習環境の満足度を明らかにする学生アンケートの目的に照らし、例年通りの時期での実施は見送られた。新入生に至っては、キャンパスでの学生生活をほとんど経験していなかったからである。学生の対面での授業の再開を待っての実施となったため、実際にアンケートを行ったのは11月から12月にかけてであった。またこの時期に実習が入っていた学科、学年に関しては、翌年1月の実施となった。方法はMicrosoft365のFormsを利用し、学生には対面での授業時間内に手元のスマートフォンから回答を入力・送信してもらった。

データが揃ったのは1月で、その後大学のキャンパス移転準備があったため、集計・分析はまだ終了していない。記述的回答の項目と経年変化を毎年見ている項目の数値に関してのみ、年度内に中間報告を教授会で報告した。また卒業式に間に合うように、中間報告の中から経年変化に関して『あずまし』27号に掲載し、4年生に対しては卒業、学位授与式当日の配布に間に合わせ、その他の在学生には、翌年度の新入生と一緒に新年度のオリエンテーションやガイダンスで配布することとした。

このアンケートの記述式の回答が、毎年最も直接的な学生からの意見・要望を把握する機会であるが、その対応に関しては複数年を要するものや、対応が現実的に困難なものも数多い。特にキャンパス移転を目前とした令和2年度は、その改善に関する対応があまり進展しない懸念もあったが、コロナ禍の中でキャンパスの生活改善よりも、むしろこれまでとは異なる、新たな対応が様々に求められるようになった。その最たるものは、もちろんコロナの感染予防への対策である。大学では専門の委員会を設けて学生情報の収集や、対応策を進めたため、学生委員会ではニュースレターやお知らせ等を利用した注意喚起に努めることになった。また、全学的に医療従事者を目指す学生として、自己の健康観察の依頼やその強化をお願いし、登校後体調が良好でない学生は保健室の経過観察とともにより安全な方法で、帰宅させる等の対応を行った。

その一方、前年度までの真栄キャンパスの学生からの要望で常に上位を占めてきたスクールバスの増便に関して、2台の大型バスを導入することによって大きな改善が実現した。昨年度のアンケートの結果も記述式回答を縦覧すると、やはり通学の不便を改善してほしい

いという声が多く寄せられているが、意見の中には新キャンパスへの移転に伴い、自動車通学が禁止されることへの不満や、近隣の 3 つの地下鉄駅と新キャンパスを循環するスクールバスの導入を望む声などが寄せられた。

2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析の検討結果の活用

心身に関する健康相談については、令和 2 年度から学生相談センターが担う制度改変が行われた。しかし、ソフトとしての相談部署の包括的連携はスタートしたが、ハード面での学生相談センター室が学内に設置されたわけではなかった。その詳細に関する議論を令和 2 年で行うこととなっていたが、コロナ禍の中で取り組みが進まず、センター長の指名を受けた教員が中心となって、各部署との情報の共有化を語り、現在に至っている。日本学生相談学会では、学生相談を臨床心理士によるものに限定せず、「学生助育」という言葉で示している。「学生を各種の 인간의 欲求を持って生活し成長する主体であるとみなす観点に立ち、その発達と成熟を助長し援助する一切の活動」(Wesley P.Lloyd 他 『学生助育総論 大学における新しい学生厚生指導』文部省大学学術局学生課 1953 年)と考え、通常の教育の過程すべてが含まれ、特に様々な困難に直面することでくじけそうになりながらも、人間的に成長する面を教職員全体が護り育てることと考えられている。多岐にわたる相談部署を包括的に組織化した学生相談センターへの試みは、こうした専門学会の趣旨に沿うものであるが、本年度は学生委員会のもとにおかれたため、カウンセリングルームのニュースレターの発刊や令和 2 年(2020 年)度の学生相談センターの活動報告は、学生委員会から大学に提出された。しかし学生委員会がこれまでその管理を担っていなかった保健室などの活動や、他の委員会の対応事項も含まれるものとなり、学生相談センターの学生委員会の管理からの独立や、ハード面でのセンター室の設置、そこへの人員の配置が望まれる。

これまでのアンケート結果から、過去の学生相談室(現カウンセリングルーム)の認知度は、次第に高まってはいるが、2019 年の集計結果を見るとその認知度は全学科で 45.7%である。今年度は学生の通学のなかった月はカウンセリングルームの開室もなかったが、年間の開室日数は例年を上回って 59 日間となっている。利用数に関しては、33 件(18 人)である。また、相談内容が守秘されることや、臨床心理士が担当することなど、学生相談室の特徴については 10 数%しか知られていなかった。ニュースレターの発行を知る学生も全体の 7.5%にとどまっている。

今後は、さまざまな学生相談部署の認知度を上げるとともに、相談内容(学修面、対人・心理面、進路、経済面、健康面、その他)の把握や、利用の満足度を把握し、その対応を学内の関連部署や委員会、学科へと繋げるシステムを整え、学生たちが相談をしてよかったと思えるような、学生相談センターをバックアップする体制の整備が必要であろう。

経済的な支援に関しては表 2-6-1 に示すように、本学の奨学金貸与率は年々高まっており、今年度は国の新たな給付型の奨学金も始まったことで、劇的な改善がおこったと思わ

れる。しかし給付型は、経済上、また学力上の申請要件が厳しく、今後の拡充はあまり期待できない。経済的な困窮度がそれほど逼迫してはいないため、給付型の対象とはならなかった学生の中には、アルバイトの掛け持ちで、生活費や授業料の一部を賄ってきた学生もいて、コロナ禍の中でアルバイトを辞めさせられる、シフトを減らされアルバイト料が大幅に減額した、という学生が多かった。本学では、そうした学生のために、学内アルバイトを斡旋するなどの対応を行った。また学友会総会では、学生の困窮に関する実態の把握を行い、何らかの対応をとってほしいという緊急の申し入れが可決され、学友会会長がその依頼文書を総長・学長に手渡すこととなった。

2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

施設・環境に関しては学生アンケートで10項目の質問を実施しているが、主に学生生活に関する施設や学食に関する項目がほとんどで、その改善には様々に努めてきた。

学修環境に関しては記述式の回答においてコンピュータの設備や教室の音響設備に関する改善の要望が毎年多く、これは今年度も修理等で対応してきたが、遠隔授業が開始されると、これまでとは異なる相談や要望が個々の学生から寄せられた。特に自宅のWi-Fi環境の不全に伴う、受講環境の未整備等であるが、大学では貸与式のWi-Fiを購入し、これを希望者に貸し出すことで対応した。

また、平成30(2018)年度から、人権擁護委員会の提案で制度化された定期試験結果の試験の合否、成績に関する再確認の申し立ては、令和2年(2020)度前期試験で8件(看護学科6件、診療放射線学科1件、リハビリテーション学科1件)、後期試験で0件であった。即時担当事務局と関連する委員会で対応し解決した。

3. 教育課程

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

3学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）については、1-2-④に記載されているので割愛する。ディプロマ・ポリシーは、大学ホームページ等で公表し、学生募集要項、SYLLABUSにも記載している。

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

各教科目の成績評価方法は、科目責任者によってSYLLABUSに明記し、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用している。SYLLABUSには、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。また、SYLLABUSには、科目ごとの具体的な評価方法や配点を明記している。評価については、SYLLABUSに明記されている客観的な基準に従い、公正かつ厳正に評価を行っている。

これらの内容と履修上の注意点は、各学年のオリエンテーションにて学生への周知徹底を図っている。単位の認定に関しては、教務委員会で審議し、教授会に意見を求め学長が認定している。なお、本学の成績表記は、表3-1-1のとおりである。

表3-1-1 成績評価

成績評価	評 点 (点)	単位付与
AA (秀)	90-100	合 格
A (優)	80-89	
B (良)	70-79	
C (可)	60-69	
D (不可)	59以下	不合格

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

単位認定、進級及び卒業認定は、学則に定められた基準に従って厳正に行っている。単位認定や成績評価は、学則第28条（単位数の計算方法）、第29条（試験）、第30条（成績の評価）に規定している。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第30条、第31条に規定されている。卒業や学位の授与についても同第33条、第34条に示されている。また、学則第26条、第28条、第30条及び第31条の規定に基づき、履修規程を別に定めている。

履修規程には、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試

験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA（Grade Point Average、総合平均点）、単位授与、進級要件、臨地・臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等における履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修等を示している。

本学における履修は、日々の学修の積み重ねが重要であるとしている。成績評価については、GPA 制度による総合成績評価を導入している。GPA は、学期ごと、年度ごとに通算の値を算出している。CAMPUS GUIDE にその説明を記載し、成績票に表示して学修評価の参考となるようにしている。また、GPA は、奨学金制度の適用、成績優秀者を選定する際の参考資料、また進路指導等に有効に用いている。本件は、履修規程第 6 章第 17 条第 1 項、第 2 項や CAMPUS GUIDE に記載している。

また、各学科で履修の上限単位（CAP）を設け、1 年間に履修できる授業単位を制限することで、1 単位に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化を図っている。本件は、履修規程第 3 章第 4 条第 2 項を CAMPUS GUIDE に記載している。

進級要件は、履修規程第 7 章第 19 条の進級要件により、(1)～(4)のように定められている。

- (1) 1 年次から 2 年次への進級
- (2) 2 年次から 3 年次への進級
- (3) 3 年次から 4 年次への進級
- (4) 「基礎教育科目の選択科目」

卒業要件は、本学学則第 33 条（卒業）に、「本学に 4 年以上在学し、別表第 2 に定める所定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。

看護学科、リハビリテーション学科及び診療放射線学科の卒業要件は、表 3-1-2 のとおりである。

表 3-1-2 卒業の要件

(単位)

学 科	看 護	リハビリテーション 2018 年入学生 まで	リハビリテーション 2019 年入学生 まで	リハビリテーション 2020 年入学生	診療放射線
必 修	103	50	理学 107 作業 108	理学 109 作業 110	102
選 択	21	74	理学 17 作業 16	理学 17 作業 16	24
合 計	124	124	124	126	126

他の大学等における履修した単位の認定及び単位数の上限については、学則第 31 条、第 32 条の定めにより、履修規程第 9 章第 22 条（他大学等の対象となる履修等）、第 23 条（他

の大学との協議に基づく学生の履修等)、第 24 条(認定単位及びその上限)に規定され、「60 単位を超えないものとする」と規定している。

また、学則第 34 条、第 35 条の定めにより、履修規程第 8 章に、資格取得のために必要な要件を規定している。

なお、進級・卒業要件の基準については CAMPUS GUIDE、SYLLABUS 等に明示し、学生及び教職員に周知している。

成績結果については、学期毎(9 月と 3 月)に保護者と学生に通知しており、平成 30(2018)年度から成績についての「疑義申し立て」を制度化している。

3-2 教育課程及び教授方法

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

各学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を示す内容とした。カリキュラム・ポリシーは、大学ホームページ、学生募集要項、SYLLABUS 等で公表している。

各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針は SYLLABUS に掲載し学生に周知している。

看護学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助の人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を教授する」である。

看護を実践の科学として位置づけ、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の四つの基本概念からなる教科目でカリキュラムを構成している。看護学は、人がよりよく生きることを支える実践科学である。人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人びとの健康の保持・増進と障がいを持つ人びとへの生活を支援する看護師に必要な教科目を配置している。

リハビリテーション学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感受性のもとで『人間を尊重する態度と高い倫理観』を修得し、『他者への共感的理解と人間関係形成能力』や『多様なチームとの連携・協働力』そして『科学的思考と問題解決能力』を育むとともに専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての知識・技術・態度を教授する」ことを教育上の目的とし、理学療法士・作業療法士に必要な教科目を配置している。

リハビリテーション学科のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域医療・福祉に貢献できることができるように構成している。

診療放射線学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技術の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する」である。

診療放射線学科のカリキュラムは、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけ、専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、必要な教育科目を配置している。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを一体的で整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係をわかりやすく、大学ホームページ、SYLLABUS 等において示している。

ディプロマ・ポリシーを本学の教育によって「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質・能力を明確化し、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を具体的に示す内容とした。

さらに、カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシーと科目の整合表）を策定し、SYLLABUS 等にて学生に周知している。

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

各学科の教育課程については、SYLLABUS において、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進度表（楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修）について述べている。

本学の教育課程は、授業科目を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」及び「専門教育科目」に区分し編成している。カリキュラムマップを整備し順序立てて履修できるように年次配当し、体系的編成を行っている。

看護学科では、基礎教育科目を5領域（32教科目）、専門基礎教育科目を2領域（29教科目）、専門教育科目を3領域（51教科目）に区分し教科目を配置している。看護学科では基礎教育科目が他学科に比較して多くなっている。看護学学修の導入科目として「看護を知る」など、看護について考える問題意識の明確化を目的とした独自のカリキュラムを編成している。

リハビリテーション学科では、令和元（2019）年度から新たな教育課程での授業を実施しており、基礎教育科目を3領域（32教科目）、専門基礎教育科目を3領域（29教科目）に、専門教育科目を6領域（理学47教科目、作業42教科目）に区分し授業科目を配置している。

診療放射線学科では、基礎教育科目を3領域（27教科目）、専門基礎教育科目を3領域（33

教科目)、専門教育科目を 10 領域 (44 教科目) に区分し授業科目を配置している。

3-2-④ 教養教育の実施

本学の教養教育は各学科においての共通科目と各学科の独自に必要な教養科目を「基礎教育科目」として設定している。医療従事者となる基礎的知識として、看護学科では「導入」、「人間の理解」、「人間と社会」、「生活と情報」、「語学」で構成されている。リハビリテーション学科及び診療放射線学科では、「科学的思考の基礎」、「人間と生活」、「語学」で構成されている。

カリキュラム委員会において、教養教育についての検討に関する全学方針を検討し、学科横断的な視座から基礎教養科目の運用、科目名や開講時期等の統一化を図っている。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち、専門性が高くなる前に基礎教育科目の単位修得が必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学修意欲の高揚を目的としている。

教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、自主的、問題解決型授業の展開や映像などを利用し視覚への強調を行っている教員が多い。2020 年度はコロナウィルス感染によって開催を見送ったが、これまでは毎年 FD 研修会を開催し、教授法の向上を図る試みが行われている。原則全教員が参加し、教員の教育能力を高めるための実践的方法の向上を図る試みがなされている。

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

三つのポリシーを踏まえた学修成果を点検し評価する方法の確立にはある程度の時間が必要だが、現在、各学科で学修成果を点検・評価する方法を模索しデータを蓄積している。

三つのポリシーのうちの一つ、カリキュラム・ポリシーはカリキュラム委員会がカリキュラムマップを作成し、看護、リハビリテーション、診療放射線、臨床検査の各学科において授業構成とカリキュラム・ポリシーがどのように符合しているかシラバスで示している。

三つのポリシーのうちカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーとも関連する学修成果を把握しようとする取り組みも継続・拡充している。看護学科で卒業を迎える学生に向けて実施しているアンケートは、卒業時教育目標達成度と学習成果アンケートと呼称され、学生と教員双方に同様の内容の質問に回答するものとなっている。リハビリテーション学科でも同様に卒業生に向けて学修到達度アンケートを実施している。しかし、教員は対象としていない。2020 年度末に 2 回目の卒業生を送り出した診療放射線学科でも、国家試験終了後に学修到達度を確かめるアンケートを実施している。令和 3 年度に新設された臨床

検査学科でもこのような経緯を踏まえた検討がなされていくものと思われる。

三つのポリシーのうち特にディプロマ・ポリシーに関連が深いものとして卒業生の特性が挙げられる。この特性を把握するには学生の卒業後の状況にある程度把握したり卒業生に学生時代を振り返ってもらったりする必要があるかもしれない。カリキュラム委員会では、すでに実施している離職状況調査に加えて、卒業生の就職先の管理的立場にある方へ向けた卒業生の特性に関するアンケートについて検討するとともに、卒業生に大学での学修内容の過不足を問うアンケートについても検討を継続している。

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

本学では、前期及び後期においてすべての授業が終了する際に、学生を対象に授業アンケートを実施している。その結果は、図書室において一定期間、閲覧可能となっている。

3-3-①で述べたような4年次の卒業を前にした学生を対象に学修到達度を確認するアンケートについては、これらの結果を学科内で共有するとともに、各学科のカリキュラム検討の際、包括的にカリキュラム構成と内容を点検する視点からカリキュラム改訂に反映できるものはしている。実際に、リハビリテーション学科では、平成30(2018)年度にカリキュラム改訂作業を行い、令和元(2019)年度から新カリキュラムを実施している。看護学科も前段の授業アンケート、学修到達度アンケートを適宜参照しながら、2019年度にカリキュラム改訂を文科省に申請し、2020年度より実施している。

4. 教員・職員

4-1. 教学マネジメントの機能

4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

大学の意思決定について学長は、「日本医療大学学則」第41条の2に「校務をつかさどり、所属職員を統督する」と規定している。

学長が判断を適正に行いリーダーシップを発揮するための補佐体制として、「学校法人日本医療大学組織規程」第6条に基づき学長のガバナンスの強化、本学の意思決定及び本学運営の円滑化を図ることを目的に運営会議を設置している。

運営会議は、「日本医療大学運営会議規程」第2条の規定に基づき、本学運営に関する企画立案及び学内の意見調整、理事会に要望する事項、教授会に諮問する事項、その他本学運営に関する事項について審議し、必要な業務を行っている。学長、学部長（現在、学長が兼務）、各学科長、事務局長を構成員とし、学長が会議を招集し、議長となり、月2回開催している。

4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメント体制の構築

本学の使命・目的の達成のため、権限の適切な分散と責任の明確化に配慮し、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」、「学校法人日本医療大学職務権限規程」、「日本医療大学運営会議規程」、「日本医療大学教授会規程」等の諸規程を整備している。

学長は、本教授会規程に基づき学位の授与、卒業及び課程の修了、学生の入学、その他教学に関する重要事項等の決定に際しては、教授会に意見を求めて決定している。

教学マネジメントを支える基盤の一つとして、学長の下に、本学の教育、研究、その他諸活動に関する学内外の情報やデータ等を収集及び分析し、本学の運営のための計画策定、政策決定等を支援することを目的にIR室を設置している。

学生の表彰及び懲罰に関する事項については、それぞれ「日本医療大学学生の表彰に関する規程」、「日本医療大学学生の懲戒等に関する規程」を整備している。

4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメント

本学の使命・目的達成のため、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」等に基づき事務体制を構築しており、本体制は適切に機能している。

本学の事務職員数は、48人〔令和3（2021）年5月1日現在〕であり、事務職員の採用は、「学校法人日本医療大学就業規則」に基づき理事長が行っており、各部署の業務内容及び業務量に応じ、職員の年齢、キャリア、能力等を勘案し、適材適所に配置している

4-2. 教員の配置・職能開発等

4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置

教員の採用及び昇任は、日本医療大学教員任用規程及び日本医療大学教員の採用に関する細則に従い、教員選考委員会規程により人格、健康、教育研究上の経歴及び研究業績などを考慮して選考することとしている。募集方法は原則公募としている。

専任教員数は、大学設置基準第13条及び各職業資格関連の指定基準の規程に定められた必要な専任教員数を確保している。

4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

本学では、教育及び授業の改善、教員の研修、教員の資質・能力向上を目指してFD委員会が組織されている。FD委員会では、全学的なFD関連事項を決定し、本学教職員の教育・研究活動の向上や活性化を目指して、研修の実施とその見直しを行っている。

FD委員会は各学科代表者9名と大学事務局1名の10人で構成し、庶務事項担当職員1名を合わせた11名で組織されている。本委員会は研修会の企画運営や授業評価等の会議を主に実施している。委員会では教育内容を改善するために、教員の研修会又は講演会、教員に対する学生による授業評価アンケートを実施し改善計画を行っている。これらの詳細については、年度毎にFD委員会活動報告書としてまとめている。

FD研修会については、これまで年に1度学内研修会を開催していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、今年度は開催を自粛した。学外の研修会では、北海道FDSD協議会にWebで参加し他大学と意見交流を行い、FD委員会の活性化について検討を行った。

授業アンケートの実施については、新教務システム導入により実施方法が大きく変更した。また、コロナの影響で授業評価アンケートの実施・回答方法などについて周知が上手く出来なかった。次年度は学生や教職員へ周知し、アンケート実施について充実をはかる予定である。

ベストティーチャー賞などの表彰企画は実施できなかったため、次年度以降の課題とした。授業方法の開発については、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、Teamsの活用方法や対面講義をミックスしたハイブリッド方式の授業を活用した。各学科内で遠隔講義について検討した。また、臨床実習に代わる学内実習の検討を行い実施した。

委員会の開催頻度については、会議の回数を増やし、外部研修への参加や授業方法の開発などについて積極的に審議していく予定であった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み昨年度同様の不定期開催に開催頻度を戻すこととなった。

今後はカリキュラム検討委員会やキャリア学習支援センターとの連携によるFD委員会の活性化についても検討を行う予定である。

4-3. 職員の研修

4-3-① SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の能力向上に資する取組み

私立大学をめぐる環境が激変する中、大学の経営戦略の構築及び管理運営機能の強化並びに教育・研究機能の活性化が重要課題とされている。

こうしたことから、事務職員を対象とした管理運営、教育・研究支援などに関する事務処理能力の向上に資するよう、学内においてSDの一環として各種の研修を実施している。

また、大学職員として求められる専門性の向上や効率的な業務処理手法の修得に資するよう、北海道地区FD・SD推進協議会に加入し、情報を収集するとともに、日本私立大学協会北海道支部が開催する研修会への参加促進などに努めている。しかし、令和2年度にあっては新型コロナウイルス感染拡大の影響から、これら学外での研修会のほぼ全てが中止となってしまった。そのため、学内における研修環境を充実させるべく、事務局連絡会議を始めとした会議等での情報共有の場を増やすとともに、オンライン研修への積極的な参加等、研修機会の充実に向け検討を進めている。

加えて、事務局内においては学内外で経験を積んだベテラン職員を各グループの要所に多く配置し、業務を通じた後進への知識経験の承継を図っている。

他方、事務職員の人事評価制度を導入するなど、「職員の意欲や能力の向上」、「組織の活性化」、「効率的な業務運営」などに向けた取組みを進めるとともに、個人の業務目標の設定や評価者による個人面談などを通じて、職員のモチベーションの向上、人材育成などに努めている。

4-4-① 研究環境の整備と適正な運営・管理

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」〔平成19（2007）年2月15日文科科学大臣決定、平成26（2014）年2月18日改正〕及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」〔平成26（2014）年8月26日文科科学大臣決定〕に基づき、「日本医療大学における競争的資金等の不正防止に関する基本方針」を策定し、科学研究費補助金をはじめとする競争的資金等の適正な管理・運営及び不正防止のための取り組み、環境の整備、関係規程を整備した。

4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

本学では、学術研究倫理に関し研究倫理委員会規程、不正行為に関する取扱規程、研究活動行動規範を制定し、研究活動に係わる倫理意識の向上に取り組んでいる。

研究倫理委員会規程には、組織及び運営に関し必要な事項を定めている。また、倫理審査申請から承認までの流れを示した手引きを作成している。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正を受け、本学でも研究活動上の不正行為の防止と不正行為の疑惑が生じた場合に適正な対応を行う

ことを目的として、不正行為に関する取扱規程整備を行った。また、学術研究の信頼性と公平性の確保を目的とした研究活動上の基本的な倫理指針として、研究活動行動規範を制定した。また、令和2（2020）年度は国の倫理指針に沿ったより使いやすい研究倫理審査申請様式等、および研究倫理審査申請書様式等作成マニュアルを改訂し運用を開始した。

本学では、これまで「研究倫理研修会」・「コンプライアンス研修会」を平成27（2015）年、平成28（2016）年と2年連続して開催した。令和2（2020）年度は研究倫理審査申請様式等の改訂に伴い、申請書作成にかかる研修会の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実現せず、次年度持ち越しとなった。

令和2（2020）年度は引き続き研究倫理教育教材として、日本学術振興会による「科学の健全な発展のために誠実な科学者の心得」（Green Book）を基にした e-Learning「研究倫理 eラーニングコース（e-Learning Course on Research Ethics）」を受講した。このことは、所属する全教員に受講を義務づけている。なお、オンラインで発行される修了証の提出をもって研究倫理教育の履修状況を把握している。

学部学生については、卒業研究に係る研究倫理指針を示し、卒業研究の一部に組み込み、講義の中において研究倫理教育を実施している。

4-4-③ 研究活動への資源の配分

本学では、専門分野における専任教員の学術研究及び教育研究向上に資するため研究費（個人研究費、学術助成費、教育向上研究費）が交付される。

本学に設置する日本医療大学研究費審査委員会の組織及び運営に関し必要な事項を定めている。

本学の学術助成費及び教育向上研究費の交付は研究代表者から提出された計画調書を研究費審査委員会が審査し交付を決定する。

令和2（2020）年度は、学術助成費は5件、教育向上研究費は11件の研究が行われた。

5. 経営・管理と財務

5-1. 経営の規律と誠実性

5-1-① 経営の規律と誠実性の維持

5-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

本法人は、建学の精神を「共生社会の実現」とし、「学校法人日本医療大学寄付行為」第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする。」と定めている。また、この目的の達成に必要な組織を整備するとともに、組織を適切に運営するための諸規程を定め、規律ある堅実な経営を行っている。

教職員に対しては、「学校法人日本医療大学就業規則」及び「学校法人日本医療大学賞罰規程」において服務規律、懲戒事由等を明示し、法令及び関係規程等を遵守し業務を行うことを義務付けている。

会計処理は、学校法人会計基準に則って行われている。財務会計は、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」、「学校法人日本医療大学授業料等取扱規程」、「日本医療大学授業料等取扱規程に関する細則」、「学校法人日本医療大学寄附受入規程」、「学校法人日本医療大学固定資産及び物品管理規程」、「学校法人日本医療大学資産運用規程」を整備し、適切に遂行している。

組織の倫理については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学不正調査委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「学校法人日本医療大学セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規則」等を整備するとともに、本学に研究倫理委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、セクシャル・ハラスメント防止委員会等を設置して、体制の整備を行っている

その他、教育研究活動や財務等に関する情報をホームページで公表することなどを通じて、法人の運営に関する透明性の確保に努めている。

5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮

本学の真栄キャンパスは、市街化調整区域に立地していることから札幌市の「市街化調整区域の保全と活用の方針」を踏まえ、良好な自然環境の保全に向けて、建築物及び工作物の設置、宅地造成、土地開墾などの制限のもと、樹木地の保全などに努めている。また、真栄キャンパス及び恵み野キャンパスにおいて、開学時から夏季にはクールビズを実施しているほか、節電や節水等注意喚起のポスターを校舎の各所に貼付するなど、本学全体の省エネ意識の向上に努めている。

人権については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「学校法人日本医療大学セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規則」

等を制定するとともに、研究倫理委員会、人権擁護委員会、セクシャル・ハラスメント防止委員会を設置するほか、各種の苦情や相談に対応する相談員を配置するなど人権擁護の周知・徹底に努めている。

また、本学では、火災、地震その他の災害の予防及び人命の安全並びに防止を図ることを目的に、消防計画、危機管理マニュアルを定めている。令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響から実地の避難訓練は見合わせたものの、文面で訓練の要諦、心構えの周知を図った。また学内での防災意識醸成を目的に「防災の日」を実施した。

他方、平成30（2018）年9月の北海道胆振東部地震を契機に、各キャンパスに災害用食品の備蓄を行い毎年更新を行っている。

加えて、令和2（2020）年4月に感染症ワーキンググループを設置し、5月からは教務委員会の下部組織として、感染症ワーキングとともに遠隔授業ワーキングを設置し、学内における消毒液の配置、施設・設備の消毒、遠隔・分散授業の実施など、令和2年度においては通年で新型コロナウイルスの感染防止対策に全学一丸となって取り組んだ。

5-2. 理事会の機能

5-2-① 法人の使命・目的の達成と適切な運営に資する意思決定を可能とする体制の整備とその機能

法人の使命・目的の達成と適切な運営に資する意思決定ができるよう「学校法人日本医療大学寄付行為」に基づき、理事会、評議員会を設置している。理事会は寄付行為第7条に規定する選任区分に従い選任された理事8人によって構成され、理事長が議長となり、会議を運営している。令和2年（2020）度は年8回開催し、理事の出席率は84.4%であった。

監事は、同寄付行為第8条の規定に従い2人が選任され、寄付行為第17条に掲げる職務を行い、理事会に出席して意見を述べる。

外部の役員として、理事には行政書士と企業経営者、監事には司法書士と公認会計士（計4人）を選任しており、本外部役員の高い見識と幅広い経験を活かしながら、法人の使命・目的の達成と適切な運営を行うための体制を整えている。

評議員は、同寄付行為第27条に規定する選任区分に従い選任された評議員17人によって構成され、評議員の互選により議長を選任し、会議を運営している。

その他、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した理事は、出席者と見なすこととしている。

5-3. 管理運営の円滑化と相互チェック

5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化

令和2（2020）年度の理事会は、年8回開催し、主な議事内容は、事業計画、予算、規程の改正、理事・評議員の選任、事業報告、決算報告、各学校の状況報告等であり、適切に審

議、議決している。また、法人の運営の実務にあたる事務局の役職者が、事案に応じて理事会に臨席することにより、施策の実効性を確保し得るよう運営している。

令和2（2020）年度の評議員会は、年8回開催し、評議員の出席率は84.9%であった。主な議案は、理事・評議員の選任、予算・事業計画の諮問、各学校の状況報告等であり、適切に審議、議決、答申している。

「学校法人日本医療大学寄附行為」第13条には、「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。」と規定している。

一方、「日本医療大学学則」第41条の2に、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」と規定されているとおり、学長は、大学全体の教育、授業計画、入試、学生支援、研究、教職員の人事等を統括する。

教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境へ迅速に対応し、法人及び大学の財務基盤を強化することにより、教学への支援をより一層充実することを目的に経営戦略会議を設置している。経営戦略会議は、理事長、総長、学長、事務局長及び外部の有識者2人が構成員となり、原則隔月開催され、本法人の経営・教学全体に関する事項について審議している。

また、法人の理念及び建学の精神を踏まえ、理事会が決定した経営方針に基づき業務を執行し、法人の経営基盤の一層の強化を図ることを目的に、執行役員会及び学校連絡会議を設置している。執行役員会は、理事長、副理事長に加え、理事会及び評議員会の同意を得て理事長が委嘱する学内教職員による執行役員、さらに事務局の各幹部職員による准執行役員から構成される。また、学校連絡会議は、理事長、副理事長に加え、学長、学科長、事務各部門責任者などから構成される。

5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第17条に掲げる職務を行い、理事会・評議員会に出席して意見を述べるとともに、理事長や常勤の理事から業務執行状況について報告を受けるほか、監査の執行等に際して必要に応じ説明を求めている。また、重要な書類を閲覧し、業務執行が法令及び寄附行為等に則って適正に行われているか、経営方針に従って適切・適正に行われているかについて随時検証している。

評議員会は、同寄附行為第23条により17人の評議員をもって組織されており、理事会で審議される事項のうち、同寄附行為第25条に規定している諮問事項について理事長に意見を述べている。また、同寄附行為第26条に「この法人の業務若しくは財産の状況又は役員業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。」と規定しており、諮問機関としての役割を果たしている。

また、監事による監査のほかに、理事長が選任した職員による内部監査室を設置し、監事と連携して業務監査及び会計監査を実施している。

5-4. 財務基盤と収支

5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

本学は、専門学校を継承して平成26（2014）年4月に、新たに日本医療大学として開学して以来、組織運営体制を整備することに注力してきたが、本学が将来に向けて安定した経営を維持しながら、大学としての使命を果たしていくために、収支構造の見直しを行い、本法人の経営を学生納付金等の収入の範囲内で行うこととした。すなわち、従来の予算要求の積み上げ方式から収入予算枠内で事業を組み立てる方式に変更するとともに、共通経費等を見直し、非効率で無駄な経費の縮減を徹底するほか、選択と集中による予算の重点的な配分によって、事業活動収支の黒字転換を図ることを予算編成の基本方針とした。

財務に関しては、中長期事業計画を踏まえた収支計画に則り、盤石な基盤形成に向けた取り組みを進めている。

また、教学への支援の充実強化に向けて、教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境にも迅速に対応し得よう財務基盤を一層強化することなどを目的として、平成30（2018）年4月に外部委員を含めた経営戦略会議を設置し、経営及び教学全体に関する事項について検討している。

さらに、予算編成の基本方針を全うし得よう、収容定員に対する学生数100%の確保に努めるとともに、公的研究費や民間の助成金に関する説明会を実施し、外部資金獲得に向けた取組みを促進している。

また、専門学校を閉校したことによる影響を除き、平成26（2014）年に大学を設置して以来、事業活動収入は着実に増加しており、令和2（2020）年度の事業活動収支計算書では、収入合計が1,867,733千円となっている。

一方、同年度の基本金組入前当年度収支差額は110,797千円の収入超過となっている。平成26（2014）年度に開学して以来、毎年度、特別寄附金を受贈するとともに、収入に見合った経費の支出を考慮した運営を継続していることから、この6年間全てで収入超過となっており、収支のバランスは保たれている。

5-5. 会計

5-5-① 会計処理の適正な実施

本学にあっては、「学校法人会計基準」、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」等に基づき、会計処理を適正に行っている。

学内の会計処理で判断に難しい事例が生じた場合は、日本私立学校振興・共済事業団、公認会計士、税理士等に確認するなどして、適切に対応している。

予算については、事務局予算編成担当が、各部署のヒアリングを行うなどして予算原案をとりまとめた上で、理事長が総合的に調整して予算案を策定し、3月末までに評議員会の意見を聞き、理事会において審議、決定している。

また、補正予算についても、必要に応じ同様の手続きを経て措置している。

5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

会計監査は、公認会計士による監査、監事による監査及び内部監査が行われている。

公認会計士による監査は、当該年度の12月、3月、次年度の4月、5月に実施されており、会計処理に関する指導、助言があった場合には、速やかに対応している。

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第9条により2人が選任されており、その業務は同寄附行為及び「学校法人日本医療大学監事監査規程」により定められている。

また監事は、理事会、評議員会に出席し、本法人の業務や財産状況について把握するとともに、本学の業務執行内容等について、適宜意見を述べている。

さらに、内部監査においても、会計監査の監査項目を定めた内部監査計画書に基づいて、監査を実施し報告書を作成の上、理事長へ報告するとともに、所要の対応策を提示している。

6. 内部質保証

6-1. 内部質保証の組織体制

6-1-① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

本学は、建学の精神として掲げている「共生社会の実現」の精神に基づき、「日本医療大学学則」第1章第3条に、「本学は、教育水準の向上及び活性化を図り、その目的と社会的使命を果たすため、教育研究活動等について自己点検及び評価を行う」と定め、内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立を実施している。

具体的な本学の内部質保証に関わる事項等は、開学以降「日本医療大学自己点検評価委員会規程」に即して、自己点検評価委員会が中心となり自己点検及び評価を実施している。

評価委員会規程は、開学時にすでに整備されていたが委員会の発足は平成27(2015)年4月になってからである。委員会の開催は、さらに遅れて同年11月25日に行われ、以後毎月第4水曜日を定例会議日とし、案件の無い月は休会とした。

初会議開催時点で診療放射線学科は開設しておらず、委員は、看護学科教員3人、リハビリテーション学科教員3人、事務局長で構成していた。現在の自己点検評価委員会の委員は、看護学科長、リハビリテーション学科長、診療放射線学科長、各学科から2人ずつ選出された教員6人、事務局長、学生教員サポートグループ長とし、令和2(2020)年度は、11人の委員で構成している。

自己点検評価委員会では、いずれの認証評価機関を受審するか、年報の作成、教員の自己点検評価の実施、全学的な委員会活動に対する点検を行い、円滑なPDCA実施のために学内から幅広く情報を収集する体制を整えた。また、本学におけるより広義の内部質保証活動については、各種の委員会を中心として継続的に実施している。例えば、授業内容の向上・改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」は、FD委員会が中心となって実施し、結果をホームページや掲示板に公表している。大学における学生の生活環境の向上を目的として、「学生生活全般についての満足度調査」を学生委員会が中心となり実施し、分析を行っている。

このような各委員会で挙げた問題点や改善点は、次年度の事業計画に反映させ、年度毎の目標設定や自己点検を行う内部質保証に向けた組織体制を構築している。

6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

6-2-① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

各委員会は、毎年の活動内容を自己点検・評価した上で委員会活動報告書を作成し、自己点検評価委員会に提出している。自己点検評価委員会では各委員会から提出された内容の実行状況と総括のチェックを行い、年報という形で公表している。各委員会は自己点検評価委員会による検証結果に基づき改善を行い、これをまとめて次年度の事業計画案を作成し、最終的に学長から次年度大学事業計画として、年度末の「大学方針説明会」において説明を行っている。

学校教育法第 109 条に基づき、本学ではエビデンスに基づいた自己点検・評価に努めており、自己点検評価委員会によって、全教員を対象に教員の自己点検・評価を実施している。この自己点検・評価は、教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的としている。自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の 4 分野とし、教員自らが、年度当初に目標を立て、「教員自己点検・評価表」に記入し、上司（看護学科においては、分野の教授を分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とし、学科長を教授の上司とする。リハビリテーション学科においては、専攻長を専攻に属する准教授、講師、助教の上司とし、学科長を教授の上司とする。診療放射線学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長の上司は学部長とし、学部長の上司は学長とする）と協議の上、同意を得る。年度末には、教員自己点検・評価表に年度目標に対する成果等を記入し、再度上司と面談の上、自己点検・評価結果が確定する。

この教員の自己点検・評価は、平成 28（2016）年度から毎年度実施し、教員自己点検・評価表の結果に関しては、自己点検評価委員会がまとめ、本学の年報及び、ホームページ上にて公表している。

また、各委員会から年度末に提出される「活動報告」や次年度の「活動計画」について内容の吟味を行っている。これまでに実例はないが、吟味の結果、「日本高等教育評価機構」の基準を充たさない事象が認められた場合、委員会に是正を求めることにしている。

毎年、「日本高等教育評価機構」から公表される、「判断例」について、本学の実態と照合し適否を確認している。

6-2-② IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と分析

IR については、平成 30（2018）年 6 月 27 日開催の自己点検評価委員会において IR 組織の設置が提案され、自己点検評価委員会の下部組織として「IR 専門部会」を設置することを教授会に諮り、承認を得、設置することを決定した。第 1 回 IR 専門部会において情報収集についての提案があり、各委員会に過去の記録（議事録や調査関係書類等）を IR 専門部会に提出を依頼した。しかし、平成 30（2018）年 10 月 22 日開催の運営会議において、IR 組織は自己点検評価委員会の下部組織ではなく、独立した組織にするべきであるとの方向性が定まり、平成 30（2018）年 10 月 24 日開催の第 3 回 IR 専門部会において同部会を平成 30（2018）年度末に解消することを決定した。そして平成 31（2019）年 1 月 23 日開催の教授会において、平成 31（2019）年度から自己点検 IR 室をより上位の組織に設置し機能向上を図ることが承認された。IR 室は、平成 31（2019）年 4 月 1 日に設置され、組織図として運営会議に並ぶ上位組織に位置付けられた。構成員は、運営会議と同じ（学長、学科長、事務局長等）である。IR 室初年度の活動は、下記に記している授業評価アンケートの結果について、ハラスメントガイドラインの策定について、日本医療大学 SNS の利用に関するガ

イドラインについて検討が行われた。

本学では、教育・学修支援に関する十分な調査・データの収集と分析のために、FD 委員会を中心となって「学生による授業評価アンケート」を実施している。この授業評価アンケートは、平成 28（2016）年度に様式の見直しを実施した。授業評価アンケートの結果を受け、各教員は今後の教育にどう反映させるかを書面で提出している。さらに、この結果は学生にも公開し、教員・学生間の双方の意見交流の機会としている。

また、学生委員会により全学生を対象とした「学生の生活に関するアンケート」を例年 5 月に実施している。回答方式は、マークシートから令和元（2019）年度に Web アンケートに切り替えた。しかしながら、令和 2（2020）年度は新型コロナウイルスの感染拡大により前期開始から遠隔授業が行われ、対面授業に移行したのは後期からのため、10 月に実施した。内容は、基本的属性、入学に至る経緯、大学生活の現状、大学生活全般についての満足度、学生気質などの他、大学へのアクセス、学生食堂、施設・設備などの改善要望などである。アンケート結果から、学生生活の実態および大学に対する要望を把握し、大学は改善に努めている。毎年、教授会で分析結果を報告するとともに、学生には学生ポータルサイトで発信しているニュースレター「あずまし」を通じて結果を報告している。「あずまし」には、アンケート結果を報告するとともに、学生生活の充実度を尋ねた質問の回答として、改善の取り組みについて啓発するコーナーを設け、改善案についてその取り組みを紹介している。

6-3. 内部質保証の機能性

6-3-① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体の PDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性

本学の内部質保証は、「自己点検評価委員会規程」に基づき、自己点検評価委員会を中心となって計画（Plan）、実施（Do）した自己点検・評価の結果を、自己点検評価委員会や教授会で報告・検討（Check）し、その結果を全学の教職員が教育研究活動に反映し、改善を図り（Action）、さらにそれを点検・評価に結び付けていくという内部質保証のための PDCA サイクルは確立している。前述のように、大学全体として、自己点検・評価は毎年度継続的に実施し、その結果についても日本医療大学年報及び、ホームページ上で共有しており、大学の運営に反映させている。

本学は、開学から 1 年ごとに新学科が増設された経緯があり、旧ディプロマ・ポリシーに沿った教育を展開してきた。しかし、開学後 4 年を経過した平成 30（2018）年頃から建学の精神などと三つのポリシーを、改めて全面的に見直す必要性が生じてきた。平成 30（2018）年度 6 月から 10 月にかけて、学長のリーダーシップのもと、自己点検評価委員会委員である各学科長を構成員とする運営会議を中心に三つのポリシーの見直しの原案を作成し、さらに学科会議・教授会等関係会議において検討を重ね、新たな三つのポリシーが策定された。これによって、入学選抜、教育、卒業の各段階の目標の具現化を図った。

それに伴い、カリキュラム委員会において、カリキュラム委員会委員長のもと、自己点検

評価委員会委員も構成員として加わり、カリキュラムマップの原案を作成し、各学科において検討を重ねた。平成 30 (2018) 年度 12 月の教授会においてカリキュラムマップが提示され、ディプロマ・ポリシーの内容をカリキュラムに反映した。SYLLABUS においては、令和元 (2019) 年度から、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、科目レベルにおいても各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。

本学の内部質保証は三つのポリシーを起点とした内部質保証の取り組みが開始されており、自己点検・評価、設置計画履行状況調査などの結果を活用し、大学運営の改善・向上を図っている。

7. 大学が独自に設定した基準による自己評価

7-1. 認知症研究所

7-1-① 研究：「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」株式会社クオリからの「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」に関する受託研究、「アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」、「スヌーズレン」に関する研究

7-1-② 普及：認知症サポーター養成講座

7-1-③ 外部連携：「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」、「アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」

基準項目「研究」に関して、(1) 株式会社クオリからの受託研究として、認知症高齢者への理想的ないすを開発するため、八田研究員を中心に、岸上研究員も交えて研究を進めている。(2) 株式会社アミノアップからの受託研究として、ノテ福祉会の介護事業所の入居者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の臨床効果を図るための試験を2018年10月から開始し、2020年2月で終了した。研究成果を2021年度中に論文として投稿し、学会で発表する予定としている。(3) ノテ福祉会と共同し、八田研究員と新潟研究員を中心に、「スヌーズレン」に関する研究をはじめた。

基準項目「普及」に関して、6月1日日本学保健医療学部看護学科、10月16日リハビリテーション学科、10月28日診療放射線学科で実施した。

基準項目「外部連携」に関して、研究(1)に関連して株式会社クオリ、研究(2)に関連して株式会社アミノアップから受託研究を実施している。

7-2. 教員の自己点検・評価

「教員の自己点検評価制度」は、平成28年度に制定された制度であり、前年度末に次年度の教育・研究・大学業務・社会貢献についての重み付けを上司と共に設定し、年度末にそれらについて自己評価を行い、その結果を基に翌年度の目標を立て、PDCAサイクルを実践するものである。

【教員の自己点検・評価制度】

教員の自己点検・評価（以下「自己点検・評価」という）制度は以下のとおりである。

(1) 制度の目的

教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的とする。

(2) 対象者

日本医療大学の全教員を対象とする。

(3) 自己点検・評価における基本方針

- ①自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の4分野とする。
- ②教員自らが、年度目標を立て、「教員自己点検・評価表（以下、「評価表」という。（別表）に記入し、上司と協議の上、同意を得る。同表に、年度目標に対する成果等を記入し、上司と面談の上、自己点検・評価結果を確定する。

(4) 自己点検・評価結果の用途

- ①自己点検・評価結果は、次年度の年度目標作成時の参考とする。
- ②教員の顕彰時の資料とする。
- ③昇任審査時の資料とする。

(5) 自己点検・評価の実施方法

- ・ 3月15日まで 評価表に次年度目標を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と協議
- ・ 3月末日まで 次年度目標を確定
- ・ 2月15日まで 評価表に成果等を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と面談
- ・ 2月末日まで 自己点検・評価結果を確定

(6) 上司とは

看護学科においては、分野の教授を、分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

リハビリテーション学科においては、専攻長を、専攻に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

診療放射線学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。

学科長の上司は、学部長とする。

学部長の上司は、学長とする。

(7) 職階別各分野重み付けの目安（但し、上司と協議の上、決定する）

職階別各分野重み付けの目安については、表6-2-①-1の通りである。

表7-2 教員の自己点検・評価制度（職階別各分野重み付けの目安表）

	教育 (%)	研究 (%)	大学業務 (%)	社会貢献 (%)
教授	30~40	20~30	15~40	5~20
准教授	35~50	40~50	10~30	0~15
講師	35~50	40~60	10~30	0~10
助教・助手	30~40	40~60	10~20	0~5

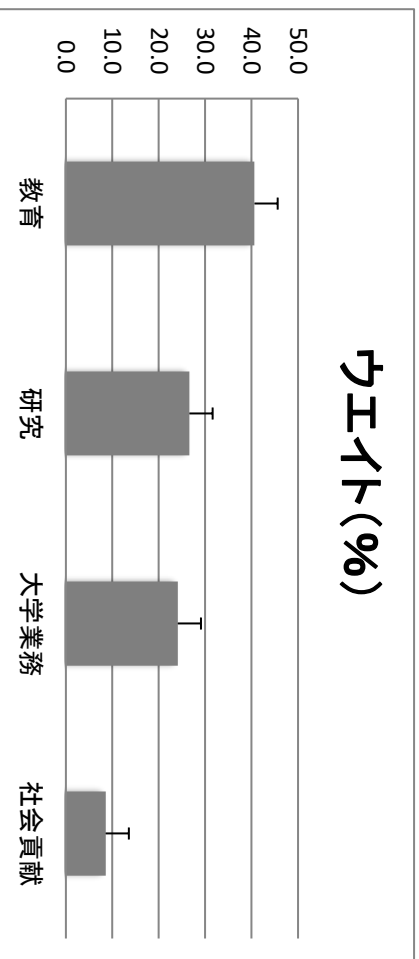
(8) 結果の公表

匿名化した評価表を、分野達成度及び自己評価を統計学的処理し、結果をホームページ等に公表する。

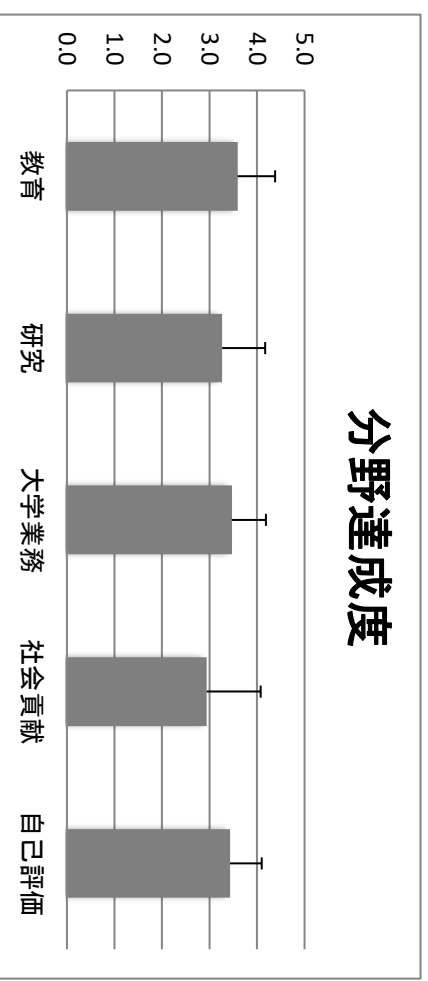
結果 1 全教員のウエイト設定と分野達成度

	ウエイト(%)				分野達成度				
	教育	研究	大学業務	社会貢献	教育	研究	大学業務	社会貢献	自己評価
平均	40.6	26.6	24.1	8.6	3.6	3.3	3.5	2.9	3.4
SD	11.9	10.5	10.1	4.9	0.8	0.9	0.7	1.1	0.7
最大値	90	50	60	20	5	5	5	5	5
最小値	20	5	0	0	2	1	2	1	2
中央値	40	30	25	8	4	3	3	3	3

ウエイト(%)



分野達成度



結果2 学科別ウエイトと分野達成度

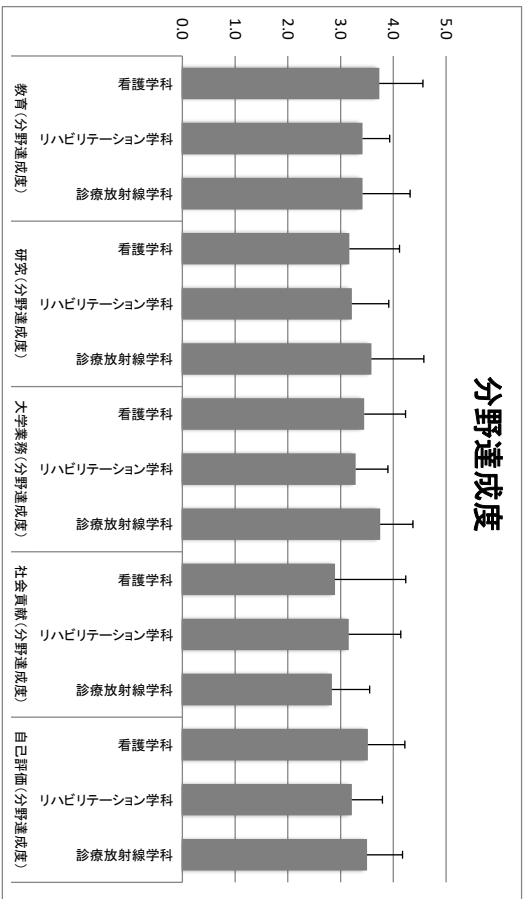
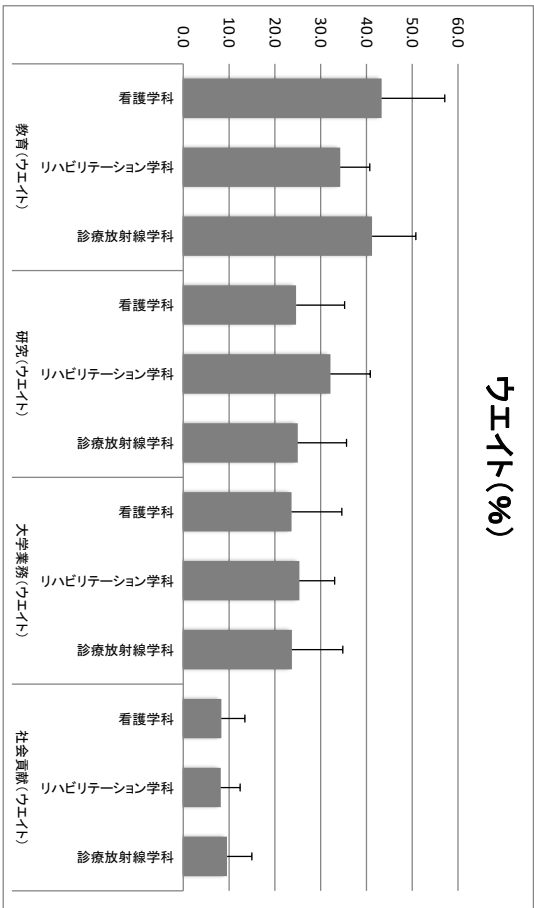
	教育(ウエイト)			研究(ウエイト)			大学業務(ウエイト)			社会貢献(ウエイト)		
	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科
平均	43.3	34.3	41.3	24.7	32.1	25.0	23.7	25.4	23.8	8.3	8.2	9.6
SD	13.8	6.5	9.6	10.6	8.7	10.7	11.0	7.7	11.1	5.1	4.2	5.4
最大値	90	45	60	50	50	40	60	40	40	20	15	20
最小値	20	20	30	5	20	10	0	10	5	0	0	5
中央値	40	35	43	23	30	25	20	25	23	5	10	10

	教育(分野達成度)			研究(分野達成度)			大学業務(分野達成度)			社会貢献(分野達成度)			自己評価(分野達成度)		
	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科
平均	3.7	3.4	3.4	3.2	3.2	3.6	3.4	3.3	3.8	2.9	3.2	2.8	3.5	3.2	3.5
SD	0.8	0.5	0.9	0.9	0.7	1.0	0.8	0.6	0.6	1.3	1.0	0.7	0.7	0.6	0.7
最大値	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	4.0	4.0
最小値	2.0	3.0	2.0	1.0	2.0	1.0	2.0	2.0	3.0	1.0	1.0	2.0	3.0	2.0	2.0
中央値	4.0	3.0	3.5	3.0	3.0	4.0	3.0	3.0	4.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0

看護学科: n=30

リハビリテーション学科: n=14

診療放射線学科: n=12



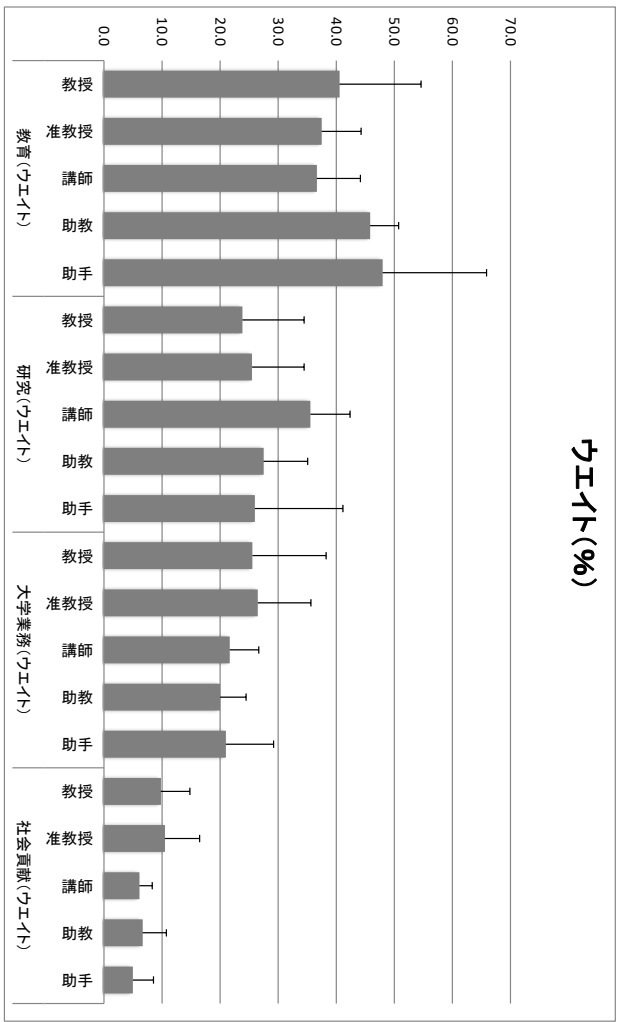
結果3 職位別ウエイト設定と分野達成度

	教育(ウエイト)				研究(ウエイト)				大学業務(ウエイト)				社会貢献(ウエイト)							
	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教				
平均	40.6	37.5	36.7	45.8	48.0	23.8	25.5	35.6	27.5	26.0	25.6	26.5	21.7	20.0	21.0	9.8	10.5	6.1	6.7	5.0
SD	14.0	6.8	7.5	4.9	17.9	10.6	9.0	6.8	7.6	15.2	12.7	9.1	5.0	4.5	8.2	5.0	6.0	2.2	4.1	3.5
最大値	90	50	45	50	70	40	40	50	40	50	60	40	30	25	35	20	20	10	10	10
最小値	20	30	20	40	30	5	10	30	20	10	0	10	15	15	15	5	5	5	0	0
中央値	40	38	40	48	50	20	30	35	28	20	25	25	20	20	20	10	10	5	8	5

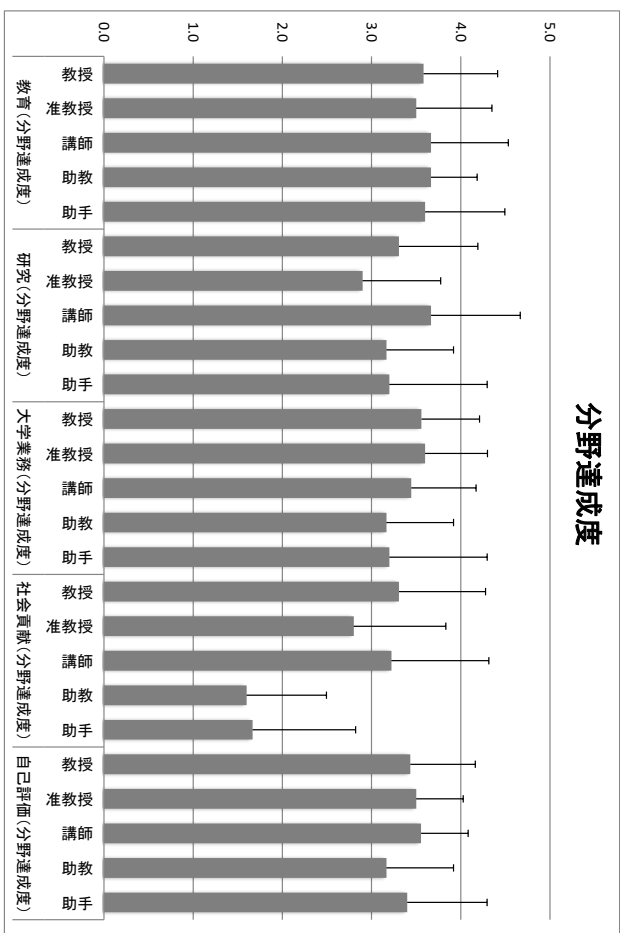
	教育(分野達成度)				研究(分野達成度)				大学業務(分野達成度)				社会貢献(分野達成度)				自己評価(分野達成度)								
	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教					
平均	3.6	3.5	3.7	3.7	3.6	3.3	2.9	3.7	3.2	3.2	3.6	3.4	3.4	3.2	3.2	3.3	2.8	3.2	1.6	1.7	3.4	3.5	3.6	3.2	3.4
SD	0.8	0.8	0.9	0.5	0.9	0.9	1.0	0.8	1.1	0.7	0.7	0.7	0.8	1.1	1.0	1.0	1.1	1.1	0.9	1.2	0.7	0.5	0.5	0.8	0.9
最大値	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
最小値	2	2	2	3	3	1	1	2	2	2	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3
中央値	3	4	4	4	4	3	3	4	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3

教授 n=26 准教授 n=10 講師 n=9 助教 n=6 助手 n=5

ウエイト(%)



分野達成度



結果4-1 学科職位別ウエイト設定

教育(ウエイト)													
看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科					
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	
平均	42.1	36.7	40.0	47.5	52.5	35.0	35.0	28.3	42.5	30.0	41.4	40.0	45.0
SD	17.3	5.8	0.0	5.0	17.1	5.0	5.0	7.6	3.5	#DIV/0!	11.1	9.1	#DIV/0!
最大値	90	40	40	50	70	40	40	35	45	30	60	50	45
最小値	20	30	40	40	30	30	20	20	40	30	30	30	45
中央値	40	40	40	50	55	35	35	30	43	30	40	40	45

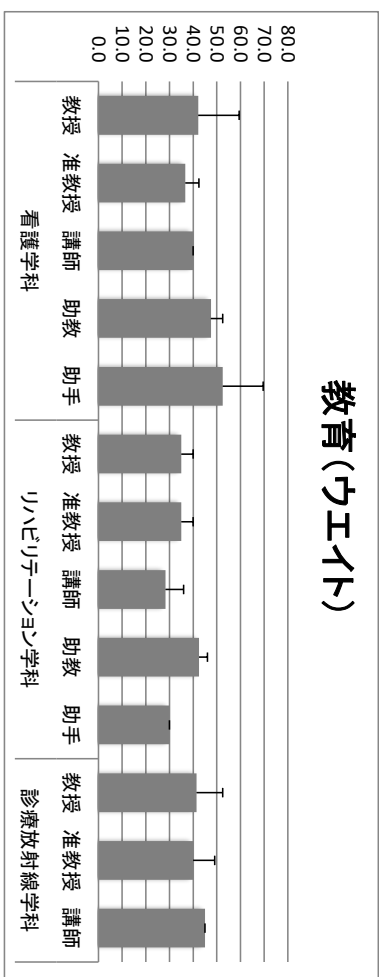
研究(ウエイト)												
看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科				
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師
平均	20.4	30.0	33.0	25.0	25.0	30.0	40.0	32.5	30.0	27.1	18.8	35.0
SD	9.9	10.0	4.5	5.8	17.3	0.0	10.0	10.6	#DIV/0!	11.1	8.5	#DIV/0!
最大値	40	40	40	30	50	30	50	40	30	40	30	35
最小値	5	20	30	20	10	20	30	25	30	10	10	35
中央値	20	30	30	25	20	30	40	33	30	30	18	35

大学業務(ウエイト)												
看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科				
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師
平均	28.2	18.3	22.0	20.0	17.5	25.0	28.3	23.3	20.0	20.7	31.3	15.0
SD	14.2	7.6	4.5	4.1	2.9	10.6	2.9	5.8	7.1	10.6	10.3	10.3
最大値	60	25	25	25	20	40	30	30	25	35	40	15
最小値	0	10	15	15	15	10	25	20	15	5	20	15
中央値	28	20	25	20	18	25	30	20	20	20	33	15

社会貢献(ウエイト)												
看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科				
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師
平均	9.3	15.0	5.0	7.5	5.0	11.0	6.7	8.3	5.0	10.0	10.0	5.0
SD	5.5	5.0	0.0	2.9	4.1	4.2	2.9	2.9	#DIV/0!	5.0	7.1	#DIV/0!
最大値	20	20	5	10	10	15	10	10	5	20	20	5
最小値	5	10	5	5	0	5	5	5	0	5	5	5
中央値	8	15	5	8	5	10	5	10	5	10	8	5

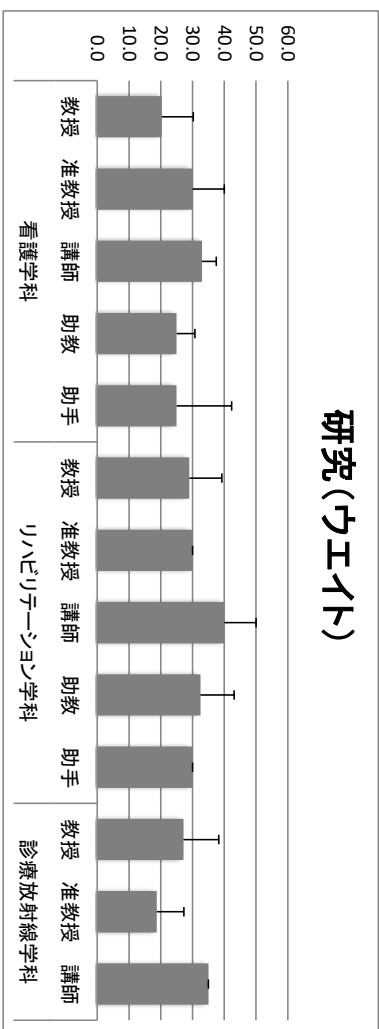
結果4-1 学科職位別ウエイト設定

教育(ウエイト)

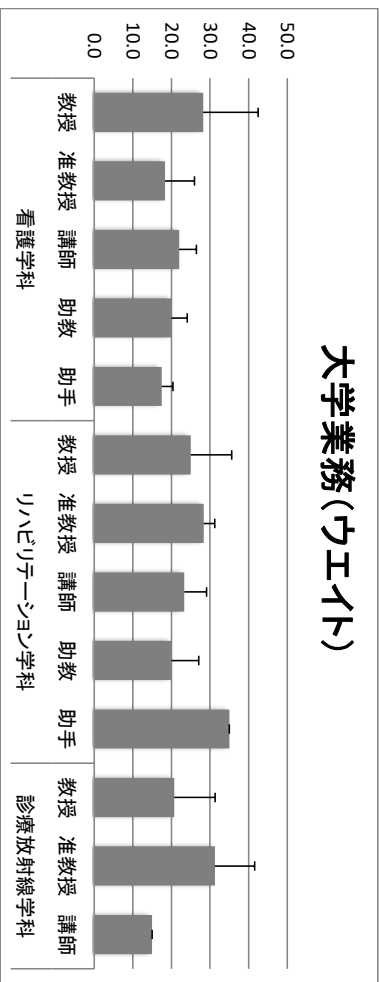


結果4-1 学科職位別ウエイト設定

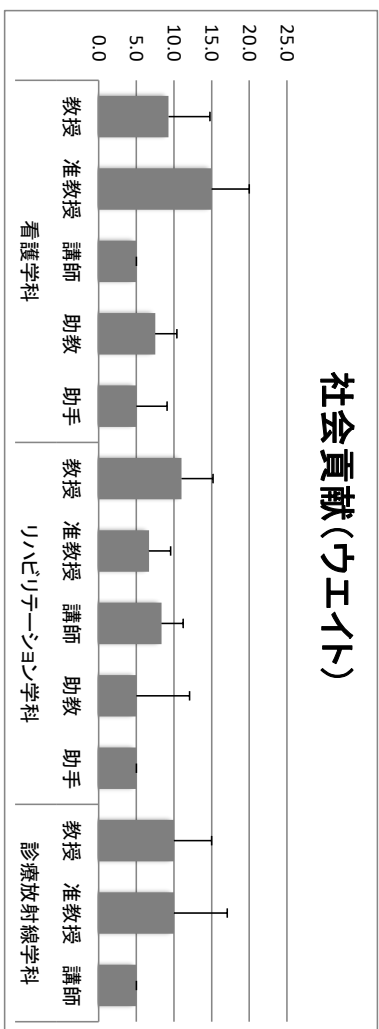
研究(ウエイト)



大学業務(ウエイト)



社会貢献(ウエイト)



結果5-1 学科・職位別分野達成度

教育(達成度)									
看護学科					リハビリテーション学科				
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	3.8	3.3	3.8	3.8	3.7	3.3	3.3	3.5	3.0
SD	0.9	0.6	1.1	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	#DIV/0!
最大値	5	4	5	4	4	4	4	4	3
最小値	3	3	2	3	3	3	3	3	3
中央値	4	3	4	4	4	3	3	4	3

研究(達成度)									
看護学科					リハビリテーション学科				
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	3.1	2.7	3.4	3.5	3.2	3.0	4.0	2.5	3.0
SD	1.0	0.6	1.1	0.6	0.4	0.0	1.0	0.7	#DIV/0!
最大値	5	3	5	4	4	3	5	3	3
最小値	1	2	2	3	3	3	3	2	3
中央値	3	3	3	4	3	3	4	3	3

大学業務(達成度)									
看護学科					リハビリテーション学科				
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	3.7	3.3	3.2	3.3	3.2	3.3	3.7	3.0	3.0
SD	0.8	0.6	0.8	0.5	0.4	0.6	0.6	1.4	#DIV/0!
最大値	5	4	4	4	4	4	4	4	3
最小値	2	3	2	3	3	3	3	2	3
中央値	4	3	3	3	3	3	4	3	3

社会貢献(達成度)									
看護学科					リハビリテーション学科				
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	3.7	2.7	2.8	1.3	2.8	3.0	4.0	3.0	3.0
SD	0.9	1.5	1.1	0.5	1.1	1.0	1.0	#DIV/0!	#DIV/0!
最大値	5	4	4	2	4	4	5	3	3
最小値	2	1	1	1	1	2	3	3	3
中央値	4	3	3	1	3	3	4	3	3

自己評価									
看護学科					リハビリテーション学科				
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	3.6	3.3	3.4	3.5	3.2	3.3	3.7	2.5	3.0
SD	0.8	0.6	0.5	0.6	0.4	0.6	0.6	0.7	#DIV/0!
最大値	5	4	4	4	4	4	4	3	3
最小値	3	3	3	3	3	3	3	2	3
中央値	3	3	3	4	3	3	4	3	3

教員の自己点検評価に対する分析

本学では教育、研究、大学業務、社会貢献の各分野に対して職階別に重み付けの目安を設定している。それをもとに各教員はウエイトや具体的な目標を年度当初に設定し、それに対する成果を年度末に報告している。目標に対する達成度*を評価5から評価1までの5段階で自己評価している。その結果を集計し分析したものを公表する。結果は1から5を図表で、分析については特記事項のみを提示している。

全教員のウエイト設定と分野達成度を結果1に示す。教育のウエイトは平均が40.6%で、それに対する分野達成度の平均は3.6の評価であった。研究のウエイトに対する平均は26.6%、それに対する分野達成度の平均は3.3の評価であった。大学業務のウエイトに対する平均は24.1%、それに対する分野達成度の平均は3.5の評価であった。社会貢献のウエイトに対する平均は8.6%、それに対する分野達成度の平均は2.9の評価であった。全項目において自己評価は3.0に近く、概ね目標を達成できていた。

学科別のウエイト設定と分野達成度を結果2に示す。3学科とも教育におけるウエイトが最も高く、次いで研究のウエイトが高くなっていった。分野別の達成度としてすべて自己評価で3.0を上回っており、目標は達成されていた。

職階別のウエイト設定と分野達成度を結果3に示す。教育に対するウエイト設定は助教、助手において高い設定が行われていた。教授から講師までに大きな違いは見られていなかった。研究へのウエイト設定は、講師が高めとなっていた。大学業務・社会貢献に対するウエイト設定は准教授・教授が高かった。職階別の全体的な分野達成度は3.2から3.6の範囲にあり、概ね目標を達成できていたが助教の平均達成度が3.2となっていた。社会貢献の分野では助教1.6、助手1.7と分野達成度が低かった。

学科・職位別のウエイト設定を結果4-1、4-2に示す。教育のウエイト設定は、看護、診療放射線、リハビリテーションの順で違が見られた。研究は、リハビリテーション学科の講師が最も高く設定されていた。大学業務においては、診療放射線の准教授において高く設定されていた。社会貢献では、看護の准教授で高く設定されていた。

学科・職階別の分野達成度を結果5に示す。全体的な自己評価は、達成できたとされる3.0を概ね示している。しかし、リハビリテーションの助教において2.5と低い状況が見られている。また、社会貢献において3.0に大きく達していない自己評価が看護の助教・助手で見られた。

*達成度

評価5：目標を大きく上回る成果があった

評価4：目標を上回る成果があった

評価3：目標を達成できた

評価2：目標を少し達成できなかった

評価1：目標をほとんど達成できなかった

8. 社会貢献

8-1 学生ボランティア

8-1-① 医療関係者として人間尊重、相互扶助の精神を育む

○課題教育活動の企画・実施

本学では、医療に従事する者として、人間尊重と相互扶助の精神を涵養するための行動を各種行っている。その中でも啓発的な教育活動である「いのちのパネル展」、講演会「命」は今年度も各キャンパスでそれぞれ実施した。

8-1-② 学生自らが課題を見つけ、解決のために行動することができる

○課題解決型の行動を自主的に行動

上記のような課題教育を受けるかたちで、学生は個人または学内団体の一員として自ら課題を探し、それを解決すべく様々な場にて行動するようになっている。

学友会においては今年度も募金活動やフードバンク活動、各種イベントへのボランティア参加などが予定されていたが、新型コロナウイルスの影響で全て活動を自粛することとなった。

9. 顕彰

学生の表彰として、日本医療大学年度別学生顕彰を実施している。学科学年別にそれぞれの学科から年間の成績をもとに成績優秀学生の推薦を受けて行う成績優秀賞と、通年全学科の教員の推薦を受けて行う社会貢献賞の2つからなっている。令和2年度は前年度の成績をもとに、看護学科15人・リハビリテーション学科15人・診療放射線学科15人が成績優秀賞に選ばれ、コロナ禍の影響により後期の10月2日、同月6日、同月7日に分散して顕彰状が授与された。令和2年度社会貢献賞は該当者なしであった。

10.委員会等活動報告

教授会および各種委員会の活動について以下に示す。

保健医療学部教授会報告

令和2年度

回	議案：報告事項		開催日時
01	意見を求める事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学について 2. 学生懲戒処分に対する再審査請求について 3. 2020年度学年暦の変更について 	令和2年04月08日 15:30～17:00 講義室 301・302 構成員 39人 出席者 39人 欠席者 なし
	報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修規程変更の学生・教員への周知について 2. オフィスアワーの設定について 3. 学生顕彰状授与学生候補者について 4. 学生委員会からのお知らせ 2020-1 について 5. カウンセリングルームだより第1号について 6. 新型コロナウイルスに関する各種状況について 	議事録署名人 住吉 孝
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度学校法人日本医療大学経営計画骨子について 2. ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」によるアンケート調査について 	
02	意見を求める事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療放射線学科3～4年 学年暦変更案について 2. 在宅学習申請書について 3. 実習施設追加申請について（看護学科・リハビリテーション学科） 4. 旧カリキュラム学生に対する「科目の読替え」について 5. 診療放射線学科教員の公募における選考委員会の立ち上げについて 	令和2年04月22日 15:30～16:10 講義室 301・302 構成員 39人 出席者 38人 欠席者 1人
	報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション学科 講義時間変更について 2. あずまし 25・26 合併号の学生への配布について 3. 新型コロナウイルスに関する各種状況について 4. 学術助成費・教育向上研究費の公募について 	議事録署名人 高橋 光彦

03	意見を求める事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅授業承認申請と休業日（土日祝）開講承認申請書の提案書承諾について 2. 診療放射線学科教員（助教）の公募について 3. 看護学科教員（老年看護学－助教）の公募における選考委員会の立ち上げについて 	<p>令和2年05月27日 15:30～16:20 講義室 301・302 構成員 39人 出席者 38人 欠席者 1人</p>
	報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. ワーキンググループの設置について（遠隔授業実施後及び登校開始時の課題検討） 2. 新型コロナウイルスに関する各種状況について 3. 日本医療大学 SNS に関するガイドライン（案）について 	<p>議事録署名人 高橋 美和</p>
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の FD 研修中止について 	
04	意見を求める事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度 履修登録者数について（リハビリテーション学科・診療放射線学科） 2. 2020年度 看護学科臨地実習科目の評価について 3. 学術助成費・教育向上研究費の交付について 4. 保健医療学部における収容定員増及び大学院設置について 	<p>令和2年06月10日 15:30～16:40 講義室 301・302 構成員 39人 出席者 37人 欠席者 2人</p>
	報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生委員会からのお知らせ 2020-2 2. 学生に対する懲戒処分内容の実施について 3. 新型コロナウイルスに関する各種状況について 	<p>議事録署名人 俵 紀行</p>
05	意見を求める事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度 履修登録者数について（看護学科） 2. 看護学科教員の公募における委員会立ち上げについて 	<p>令和2年06月24日 15:30～16:00 WEB会議 構成員 39人 出席者 37人 欠席者 2人</p>
	報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学科収容定員増に係る専任教員紹介制度の実施について 2. 新型コロナウイルスに関する各種状況について 	<p>議事録署名人 西山 修輔</p>

06	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度前期定期試験時間割について(確定) 2. 2020年度前期定期試験受験資格者一覧について 3. 除籍について 4. 学生の懲戒等に関する委員会の処分案について <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生委員会事業、学友会関連の活動について 2. 学生委員会からのお知らせ2020-3 3. 日本医療大学留学生別科の三つのポリシーについて 4. 2020年度日本医療大学生涯学習講座(後期10月～3月)の実施中止について <ol style="list-style-type: none"> 1. その他報告事項 	<p>令和2年07月08日</p> <p>15:30～16:00</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員39人</p> <p>出席者36人</p> <p>欠席者3人</p> <p>議事録署名人 西山 徹</p>
07	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 休学について 2. 2020年度前期定期試験受験資格者一覧について 3. 看護学科教員(老年看護学 助教)の公募について 4. 看護学科教員(成人看護学 講師)の公募について 5. リハビリテーション学科教員(助教)の公募における選考委員会立ち上げについて 6. 診療放射線学科教員(講師)の公募における選考委員会立ち上げについて <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する懲戒処分内容の実施について <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学独自の授業料減免制度の実施について 2. 新型コロナ対策について 	<p>令和2年07月22日</p> <p>15:30～16:10</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員39人</p> <p>出席者34人</p> <p>欠席者5人</p> <p>議事録署名人 八田 達夫</p>

08	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学・復学について 2. 前期科目の後期開講について（看護学科・リハビリテーション学科） 3. 2020年度非常勤講師の追加について（リハビリテーション学科） 4. 2020年度非常勤講師の追加について（診療放射線学科） 5. 新学科準備室長の委員会への出席について（教務委員会・カリキュラム委員会） <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期授業開始に向けてのコロナ対策について <ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者懇談会（10月17日）の中止について 2. 日医祭の中止について 	<p>令和2年08月26日</p> <p>15:30～15:50</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員 39人</p> <p>出席者 36人</p> <p>欠席者 3人</p> <p>議事録署名人 林 美枝子</p>
09	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学について 2. 令和2年度前期定期試験成績について（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科） 3. 休業日開講申請について（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 4. 学内実習における在宅学習申請について（看護学科） 5. 学生の懲戒等に関する委員会の処分案について 6. リハビリテーション学科教員（助教）の公募について 7. 診療放射線学科教員（講師）の公募について 8. 看護学科教育課程の変更申請；臨地実習（基礎看護学実習Ⅰ）に関する変更について <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度 総合型選抜（前期）の実施計画について 2. 令和2年 学生顕彰状授与式について 3. 学生委員会からの報告について（2020-4） <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の有休消化について 	<p>令和2年09月09日</p> <p>15:30～15:50</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員 39人</p> <p>出席者 38人</p> <p>欠席者 1人</p> <p>議事録署名人 樋口 健太</p>

10	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学について 2. 在宅学習申請について（看護学科） 3. 2020年度非常勤講師追加一覧について（リハビリテーション学科） 4. 令和2年度前期・定期試験結果について（診療放射線学科3年） 5. 令和2年度後期・定期試験早期実施科目について（リハビリテーション学科） 6. 令和2年度後期科目履修者数について（3学科） 7. 前期成績評価の訂正申請について（診療放射線学科） 8. 3学科教員補充公募における教員選考委員会の立ち上げについて <ol style="list-style-type: none"> 1. 「カウンセリングルームだより」第3号の発刊について 2. 日本医療大学保健医療学部大学院についての報告 <ol style="list-style-type: none"> 1. その他報告事項 	<p>令和2年09月23日</p> <p>15:30～16:20</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員 39人</p> <p>出席者 36人</p> <p>欠席者 3人</p> <p>議事録署名人 福山 篤司</p>
11	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験結果について（看護学科4年・リハビリテーション学科4年） 2. 令和2年度後期定期試験早期実施科目について（看護学科・診療放射線学科） 3. 令和2年度後期科目履修者数について（診療放射線学科3年） 4. 学内実習における在宅学習申請について（看護学科） <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度 総合型選抜（前期）の合否について 2. 令和2年度「学生の入学と生活に関するアンケート 	<p>令和2年10月14日</p> <p>15:30～15:50</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員 39人</p> <p>出席者 35人</p> <p>欠席者 4人</p> <p>議事録署名人 松本 真由美</p>

	その他	<p>ト調査」の実施について(案)</p> <p>3. 第7回 いのちのパネル展実施計画(案)について</p> <p>4. 第7回 講演会『命』実施計画(案)について</p> <p>5. 学生委員会からのお知らせ 2020-5 について</p> <p>6. 日本医療大学紀要第7巻の募集及び執筆要領の変更について</p> <p>7. 3学科教員補充公募について</p> <p>1. その他報告事項</p>	
12	意見を求める事項 報告事項 その他	<p>1. 休講日開講申請について(リハビリテーション学科)</p> <p>2. 令和2年度後期定期試験早期実施科目について(看護学科・診療放射線学科)</p> <p>3. 令和2年度後期科目履修者数について(看護学科)</p> <p>4. 2020年度非常勤講師追加について(リハビリテーション学科)</p> <p>5. 追実習の審査について</p> <p>1. 2021年度学校推薦型選抜(公募前期・指定校)の実施計画について</p> <p>1. その他報告事項</p>	<p>令和2年10月28日</p> <p>15:30~16:05</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員39人</p> <p>出席者34人</p> <p>欠席者5人</p> <p>議事録署名</p> <p>宮本 篤</p>
13	意見を求める事項 報告事項	<p>1. 2020年度非常勤講師追加について(診療放射線学科)</p> <p>2. 2020年度前期定期試験結果について(看護学科1年・2科目)</p> <p>3. 2020年度4年後期定期試験時間割(案)について(看護学科・診療放射線学科)</p> <p>1. 2021年度学校推薦型選抜(公募前期・指定校)の可否について</p> <p>2. 教員公募実施の日程等変更について</p> <p>3. 臨床検査学科の設置及び看護学科・診療放射線学科の定員増の認可について</p>	<p>令和2年11月11日</p> <p>15:30~15:45</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員39人</p> <p>出席者34人</p> <p>欠席者5人</p> <p>議事録署名</p> <p>森口 真衣</p>

14	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 追試験審査について（リハビリテーション学科） 2. 2020年度履修登録者数について（看護学科・診療放射線学科） 3. 2021年度非常勤講師委嘱一覧案について（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科・臨床検査学科） 4. 2020年度後期定期試験時間割案について（3学科） 5. 2020年度後期定期試験受験資格者一覧について（リハビリテーション学科4年） 6. 在宅学習申出・承認申請について（看護学科） 7. 実習施設追加承認申請について（看護学科） 8. 履修規程 不正行為を行った学生に対する措置について（案） 9. 教員の採用について 10. 教員の公募について <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席届様式変更について 2. 学生委員会からのお知らせ 2020-6 3. 2021年度入試の可否について 看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科－学校推薦型選抜（公募後期） 臨床検査学科－総合型選抜（自己推薦型）・学校推薦型選抜（指定校・公募） 	<p>令和2年11月25日</p> <p>15:30～15:55</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員 39人</p> <p>出席者 37人</p> <p>欠席者 2人</p> <p>議事録署名 門間 正子</p>
15	<p>意見を求める事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 追試験審査について（リハビリテーション学科） 2. 2020年度履修登録者数について（看護学科・診療放射線学科） 3. 2021年度非常勤講師委嘱一覧案について（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科・臨床検査学科） 4. 2020年度後期定期試験時間割案について（3学科） 5. 2020年度後期定期試験受験資格者一覧について（リハビリテーション学科4年） 6. 在宅学習申出・承認申請について（看護学科） 7. 実習施設追加承認申請について（看護学科） 8. 履修規程 不正行為を行った学生に対する措置について（案） 	<p>令和2年12月9日</p> <p>15:30～16:00</p> <p>WEB会議</p> <p>構成員 39人</p> <p>出席者 36人</p> <p>欠席者 3人</p> <p>議事録署名 山田 敦士</p>

	報告事項	<p>9. 教員の採用について</p> <p>10. 教員の公募について</p> <p>1. 欠席届様式変更について</p> <p>2. 学生委員会からのお知らせ 2020-6</p> <p>3. 2021 年度入試の合否について 看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科－学校推薦型選抜（公募後期） 臨床検査学科－総合型選抜（自己推薦型）・学校推薦型選抜（指定校・公募）</p>	
16	意見を求める事項 報告事項	<p>1. 休学について（看護学科）</p> <p>2. 2020 年度後期定期試験受験資格一覧について</p> <p>3. 非常勤講師委嘱一覧について</p> <p>4. 2021 年度新入生オリエンテーション、在学生ガイダンスについて</p> <p>5. 2021 年学年暦について（次回持ち越し）</p> <p>6. 教員の内部昇任及び公募における選考委員会立ち上げについて</p> <p>7. 教員公募選考結果について</p> <p>8. 抗体価検査について</p> <p>1. 2020 年度後期定期試験時間割について</p> <p>2. 2021 年度一般選抜入試（前期）の実施計画について</p> <p>3. 学生の懲戒処分について</p>	<p>令和 2 年 12 月 23 日</p> <p>15:30～16:10</p> <p>WE B 会議</p> <p>構成員 39 人</p> <p>出席者 37 人</p> <p>欠席者 2 人</p> <p>議事録署名 山崎 公美子</p>
17	意見を求める事項	<p>1. 退学・休学について（看護学科・リハビリテーション学科）</p> <p>2. 追試験の審査について（看護学科・リハビリテーション学科）</p> <p>3. 非常勤講師委嘱一覧について（リハビリテーション学科）</p> <p>4. 実習施設追加について（看護学科）</p> <p>5. 教員公募選考結果について</p> <p>6. 学生・教員の感染症対策について</p>	<p>令和 3 年 01 月 27 日</p> <p>15:30～16:05</p> <p>WE B 会議</p> <p>構成員 39 人</p> <p>出席者 38 人</p> <p>欠席者 1 人</p> <p>議事録署名 浅井 さおり</p>

	報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第7回学生委員会アンケート結果中間報告 2. 2020年度学術助成費及び教育向上研究費の活動報告について 3. 保健医療学部研究報告会について 4. 2021年度大学入学共通テスト・一般選抜（前期）の合否結果について 	
18	意見を求める事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学・復学について（看護学科・リハビリテーション学科） 2. 再試験の追試験審査について（看護学科） 3. 2020年度4年次成績及び卒業判定について 4. 非常勤講師委嘱一覧について（看護学科） 5. 2021年度 日本医療大学 年度別学生顕彰について（案） 6. 教員公募における教員選考委員会の立ち上げについて 7. 教員内部選考結果について 8. 学則変更について 	<p>令和3年02月10日 15:30～16:00 WEB会議 構成員39人 出席者35人 欠席者4人</p> <p>議事録署名 石橋 晃仁</p>
	報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生委員会（学生相談センター）の活動報告について 2. 「あずまし」27号の刊行について（案） 3. 看護学科教育課程の変更申請；臨地実習（基礎看護学実習Ⅰ）に関する変更の取り下げについて <ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度年報の発刊の報告及び2020年度年報原稿の依頼について 	
19	意見を求める事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学・復学について（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科） 2. 2021年度非常勤講師委嘱について（看護学科） 3. 2020年度後期定期試験結果について（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科） 4. 2020年度仮進級申請実施内容（案） 5. 2020年度1～3年進級判定について（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科） 6. 教員選考結果について 7. 教員公募における教員選考委員会の立ち上げについて 	<p>令和3年02月24日 15:50～16:10 WEB会議 構成員39人 出席者35人 欠席者4人</p> <p>議事録署名 及川 直樹</p>

	報告事項	8. 日本医療大学ハラスメント防止に関する規定の改訂について 9. 日本医療大学ハラスメントの防止等に関するガイドラインの改訂について 10. 日本医療大学キャリアセンター規程の改訂について 1. 2021年度大学入学共通テスト利用選抜（中期）の合否について 2. 2021年度一般選抜(後期)・臨床検査(公募後期)の実施計画について 3. ハラスメント防止に関する啓発講座と相談員のための第2回ガイダンスの遠隔実施について 4. 2020年度卒業式について 5. 2021年度教授会日程について 6. 2021年度日本医療大学生涯学習講座日程について 7. 月寒本キャンパスについて	
	その他	1. 2020年度年報原稿の再依頼について	
20	意見を求める事項	1. 退学・休学について（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科） 2. 仮進級について（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科） 3. 名誉教授推薦者について	令和3年03月10日 15:00～16:40 WEB会議 構成員39人 出席者36人 欠席者3人
	報告事項	1. 2021年度一般選抜(後期)・臨床検査学科学校推薦型選抜(公募後期)の合否について 2. 2021年度入学式について 3. 2021年度教授会構成員について 4. 2021年度日本医療大学会議体・各種委員会等担当一覧について 5. 国家試験合格者について（リハビリテーション学科・診療放射線学科） 6. 新学部・新学科の認可申請について	議事録署名 大堀 具視

21	意見を求 める事項 報告事項		令和 3 年 03 月 24 日 15:30~16:05 WE B 会議 構成員 39 人 出席者 36 人 欠席者 3 人 議事録署名 岸上 博俊
----	--------------------------	--	---

委員会・委員長名	教務委員会 委員長：保健医療学部看護学科 教授 門間正子
構 成 員	教授：吉野淳一、向井康詞、渡邊良晴、山崎公美子、進藤ゆかり、岸上博俊 准教授：石橋晃仁、杉本芳則、木村徹 事務局担当職員：澤口敏明 事務局職員：水野誠、杉原彰仁、千葉なな子、荒木千尋、北宙恵
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
1.教育課程に関する 事項	<p>1. 教育課程に関する事項</p> <p>① 学年暦の修正 新型コロナウイルス感染の影響で前期始講日が5月11日に変更になったことに伴い、学年暦を修正し、教授会に上程した</p> <p>② 「在宅学習申請書」の作成 新型コロナウイルス感染の影響で在宅学習を課さざるを得ない事態が生じたため「在宅学習申請書」を作成し、在宅で学習した時間を正課の学習時間として認める手続きを整備し、教授会に上程した。</p> <p>③ 既修得単位の認定（該当学科）</p> <p>④ 履修登録一覧の確認（各学科）</p> <p>⑤ 前期・後期成績審議（各学科）</p> <p>⑥ 履修規程の見直し 定期試験における不正行為について、履修規程の一部を見直し、教授会に上程した。</p> <p>⑦ 実習施設変更承認申請（各学科）</p> <p>⑧ 追実習の審査（看護学科）</p> <p>⑨ 追試験の審査（各学科）</p> <p>⑩ 「欠席届」の見直し 公認欠席、追試験・つい実習願い、について、教務委員会での審議を円滑にするため、欠席届に「公欠の申請」欄を設けるなどの見直しをし、教授に報告した</p> <p>⑪ 2021年度新入生オリエンテーションの日程と内容案の作成</p> <p>⑫ 2021年度在校生ガイダンスの日程と内容案の作成</p> <p>2. 定期試験及びその他の試験に関する事項</p> <p>①試験実施要領の確認・見直し</p>

<p>2. 定期試験及びその他の試験に関する事項</p>	<p>②定期試験受験者一覧作成（学科別） ③定期試験時間割作成（学科別） ④待機担当教員調整（学科別） ⑤定期試験の科目のバランス調整 ⑥試験監督者、追・再試験監督者の調整・決定（学科別）</p>
<p>3. 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項</p>	<p>3. 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 ①新型コロナウイルス感染予防対策として、遠隔授業と対面授業を組み合わせた時間割を作成した。 ②非常勤講師委嘱等の再確認を行った。 ③年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等の取りまとめを行った。</p>
<p>4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項</p>	<p>4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 ①学生個々の出席・成績状況を教務委員会で最終確認し、教授会に報告した。 ②進級及び卒業に関しては、進級及び卒業要件に沿い、教務委員会で最終確認し、教授会に報告した。</p>
<p>5. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項</p>	<p>5. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項 ①各学科における休学・退学、復学などは、規程に沿い、対応した。</p>
<p>6. 学生便覧、講義要綱に関する事項</p>	<p>6. 学生便覧、講義要綱に関する事項 ①キャンパスハンドブックの見直しを実施した。 ②シラバスの見直しを実施した。 ③学年暦（各学科・学年別）を作成した。</p>
<p>その他教務事項</p>	<p>その他教務に関する事項 ① オフィスアワーの調査（前期・後期）と学生周知を行った。 ② 2021年度教務委員会事業計画（案）を作成した</p>

委員会・委員長名	学生委員会 委員長：林美枝子教授
構成員	教授：樋口健太 准教授：滋野和恵 石橋晃仁 小山和也 福山篤司 講師：大村郁子 村上元 助教：新開谷深 事務局：澤口敏明参事 銭元隆行参事 田中慎之介/松原玲奈
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
学生委員会の通常業務 (学生委員会活動の説明とキャンパスの環境整備と学生生活の情報提供、情報発信、学内交流事業、学生のメンタル・ヘルスの保全、学生の学外活動への支援)	令和2年度の啓発セミナー、安心・安全週間の警察が教える護身術講座、デートDVの講演会はコロナの予防対策の中で中止となる。 ・第7回「いのちのパネル展」 真栄キャンパス 11月30日(月)～12月4日(金) 恵み野キャンパス 12月8日(月)～12月11日(金) ・第7回講演会「命」遠隔講演の実施 12月10日(木) 講師 医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院総長 前野宏氏タイトル「ホスピスのこころー医療者として、人としてー」真栄キャンパス168人参加、恵み野キャンパス175人参加
学生委員会主催事業 (学生の生活指導や人間力の向上)	コロナ感染予防対策の中で、学友会定例総会、新入生歓迎会、体育大会、日医祭が中止となる。 大学施設内での学内団体活動も自粛。活動が停止となっていたため、支援活動費は配布しなかった。 ・6月4日に遠隔定例総会を実施。出席121人中119人の賛成と、学友会会長またはその他への委任497票本年度予算案承認。コロナ禍の中での学生の現状調査などの依頼状を大学に提出する緊急動議可決 ・日医祭の中止を受けて、学外活動費支援として会員一人に2000円のクオカードの配布を盛り込んだ改正予算案の承認をWebで行い、過半数の承認を得て決定。 ・選挙管理委員会を遠隔で実施。第8代学友会会長の立候補を受けて、令和3年2月15日～18日にWebでの承認の可否を全学に問い、第8代学友会会長が決定 ・臨時総会は実施せず。 ・3月12日、学友会の申し送りの打ち合わせと、新キャンパスへの学友会関連の荷造り作業、及び新キャンパスの学友会室(1153多目的室)の整備

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月12日(金) 第4回卒業を祝う会は中止 3月末 前年度の各学内団体の未回収活動報告書の回収と継続願の提出を依頼し、次年度活動再開学内団体の確認 ・ 学内団体設置申請受付7月末、1月末 申請0件
<p>学友会支援事業</p> <p>学内団体関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に顕彰学生の選抜、例年通りの日程では顕彰状授与式は延期となり、3密を避けて3回に分けて挙行 10月2日(金)12時20分～ 看護学科3年生場所 学長室 10月13日(火)12時45分～ リハビリテーション学科 会議室 10月7日(水)12時20分～ 診療放射線学科、看護学科2年生と4年生、つしま記念ホール 成績優秀学生 45名 社会貢献賞 0件 ・ 来年度からの副賞の在り方の改善に関する議論を行い、各学科の意見を受けて審議をした結果、来年度は、人数は各学科成績上位10%以内で学科の推薦を受けた学生、副賞は1万円(図書券)とすることを決定 ・ 年間を通しての各種奨学金の募集情報の提供と対象学生の選抜をしていたが、今年度は新たな制度である「就学支援新制度」、コロナ禍による経済的な困窮支援のための「学生支援緊急給付金」の推薦学生の選考を各学科に諮り実施
<p>学生の賞罰に関する事項</p> <p>奨学金に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日医祭の中止で例年のフードバンクフェア、ユニセフ募金活度なし
<p>国際交流、海外研修に関する事項</p>	

委員会・委員長名	キャリア学修支援センター センター長：リハビリテーション学科 教授 大堀具視
構 成 員	教授：草薙美穂、山田敦士 准教授：石橋晃仁、杉本芳則、木村徹 助教：菅原美保 専門員：萬智恵美、遠藤晃祥、清水薫、山田里見、 藤田智、センター事務員：小岩志保、事務局：澤口敏明、山下未希、 松岡裕子
令和2年度 事業 計画	実施内容・結果
センターの方針 ・2020年度はキャンパス統合、及びキャリア学修支援センターの組織改編に備える。また、従来どおり、国家試験対策、就職・進学対策、リメディアル教育を柱とする運営計画を作成し、本学キャリア教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の国家試験対策、就職・進学対策は伝統的にそれぞれ異なるため、実施内容は学科ごとに分けて記載する。 ・8月1日付でキャリア学修支援センター専任事務員として、小岩志保課長が着任し、次年度、新キャンパス移転、新学科設置、およびセンター業務の再編に伴う体制整備を進めた。 ・今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響から委員会を Teams によるリモート開催で実施した。
3 学科共通 ・入学生の学修状況の分析を進め、他部署との分掌・連携を含めた学修支援システム構築を図る。 ・2021年度のキャンパス統合に向けて学生がキャリアアップに対して主体的に行動し、専	<ul style="list-style-type: none"> ・予定していた「自己診断テスト」は新型コロナウイルス感染拡大による授業開始の遅れ、学生の通学の見通しが立たなかったために今年度は実施を見送った。 ・キャリア学修については、各学科で予定されていた内容で実施した。2021年度以降は新入生ガイダンスの際に、キャリアセンターの紹介を兼ねて実施するなど、学科の特殊性を尊重しつつ、偏りが生じないように共通のプログラム実施を漸次検討していくこととした。 ・今年度は私大協北海道支部などが開催する各種会議、研修会などは軒並み中止となったが、2021年度も引き続き他大学のキャリア部門との連携、情報交換の必要性を鑑み、各種研修会に可能な限り参加することを想定し予算計上している。

<p>門職として誇りを 持った社会人を育 成するために、学 部共通、及び学科 独自のキャリア教 育支援のさらなる 充実を図る。</p>	
<p>看護学科：国家試 験対策 ・国家試験の合格 率100%をめざし、 低学年から4年生 までの国家試験対 策の方略、国家試 験不合格者への支 援方法を構築す る。</p>	<p>4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス「国家試験の概要」(4月)を実施した。 ・郵送による進路希望調査を実施した(5月) ・模擬試験を8回実施した。 <ol style="list-style-type: none"> ① <東京アカデミー> 必修100問(5月) ② <東京アカデミー> 240問(7月) ③ <東京アカデミー> 240問(10月) ④ <メディカコンクール> 240問(10月) ⑤ <メディカコンクール> 240問(11月) ⑥ <インターメディカなす模試> 240問(12月) ⑦ <メディカコンクール> 240問(12月) ⑧ <東京アカデミー> 240問(1月) <ul style="list-style-type: none"> ・集中講義を10回実施した。コロナ禍により後期延期実施 <ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス(10月) ② 集中講義5・12・19・26(10月) ③ 集中講義9・30(11月) ④ 集中講義7・21(12月) ⑤ 集中講義18(1月) <ul style="list-style-type: none"> ・学力不振学生への学修支援を実施した(10~11月)。 コロナ禍により遠隔での支援を中心に行い、必要時に対面で個別面談 を実施した。 <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を2回実施した。 <ol style="list-style-type: none"> ① <テコム> 必修150問(12月) ② <学研> 100問(2月) <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を2回実施した。 <ol style="list-style-type: none"> ① <メディカコンクール> 解剖生理90問(10月) ② <メディカコンクール> 病態生理90問(2月)

<p>看護学科：就職・進学支援対策：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100%の就職率をめざし、各学年に適したキャリアプラン講座を開催するとともに、学生参加率向上のための対策を行う。 	<p>4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を実施した（5月）。 ・就職活動ガイダンスを実施した。遠隔 Teams（5月）。 ・進路及び活動状況の把握を行った（4月～）。 ・キャリアプラン講座「面接対策」はコロナにより中止 <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアプラン講座「見学会などマナー講座」を実施した。遠隔 Teams(12月)。 ・キャリアプラン講座「小論文講座」を実施した。遠隔 Teams（1月）。 ・進路希望調査を実施した（1月）。 ・キャリアプラン講座「履歴書講座」を実施した。（1月）。 ・キャリアプラン講座「日本医療大学病院説明会」を実施した（1月）。 <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアプラン講座「基礎実習前マナー講座」を実施した。遠隔 Teams（11月）。 ・進路希望調査を実施した（10月）。 ・キャリアプラン講座「就活スタート講座」を実施した。遠隔 Teams（1月）。
<p>リハビリテーション学科：国家試験対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の合格率100%をめざし、時期に応じた4年生を対象とした国家試験対策と低学年の学修進達度テストに取り組む。適宜見直しながら改善を図る。 	<p>4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策教本（キャリア学修支援センター2編）作成した（5月～7月）。 ・国家試験模試を7回実施した。 <ol style="list-style-type: none"> ① 国試塾おためし模試（9月） ② 国試塾模試#1（11月） ③ 医歯薬出版模試#1（11月） ④ 国試塾模試#2（12月） ⑤ 医歯薬出版模試#2（1月） ⑥ 国試塾模試#3（1月） ⑦ 医歯薬出版模試#3（1月） <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験学習（グループ・個別）の支援を行った（9月～2月）。 ・国家試験および自己採点、事後対応を行った（2月）。 ・隔週での学科国家試験対策委員会と合同会議を実施した

<p>リハビリテーション学科：就職・進学対策</p> <p>・100%の就職率をめざし、就職支援を行う。キャリア教育は外部講師によって実施する。4年生にはキャリア修学支援センターと学担との連携による就職説明会（恵み野キャンパス）を実施する。</p>	<p>4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援業務の構築と調整を行った（4月～8月）。 ・2020年度 就職ガイドブックを配布した（4月）。 ・国試対策資料&就職対策資料配布とオリエンテーションを実施した（9月）。 ・キャリア教育研修を実施した。 <p>テーマ：面接対策（9月） エス・イー・ジャパン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職説明会は新型コロナ感染対策を考慮し中止とした。 ・キャリア教育研修として、北海道理学・作業療法士会役員による社会人教育、及び職能団体の説明会を実施した（2月）。 <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修を実施した。 <p>テーマ：求められる思考と接遇（2月） 向日葵</p> <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修を実施した。 <p>テーマ：自己分析、表現（1月）</p> <p>1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修を実施した。 <p>テーマ：初年次教育（1月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生を対象とした離職に関するアンケート調査を実施した。
<p>診療放射線学科：国家試験対策</p> <p>・国家試験の合格率100%をめざし、基礎問題および過去数年の過去問題の出題傾向にあわせた独自模擬試験を計画する。学内での自己学修を誘導する。</p> <p>・放射線取扱主任者試験受験対策講座、8月試験向け各学年に対し受験対策講座を計画す</p>	<p>4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を7回実施した。 ①学科作成模試4回（9、10、12、2月） ②業者 CeFox 模試3回（7、11、1月） <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験補講を実施した。 <p>1年生から4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己学修誘導を実施した：自ら学修する動機付け、雰囲気作り、時間確保、教室提供を担当が中心になり全教員で行った。 ・放射線取扱主任者（国家資格）試験受験対策講座 <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響で講座を開講できなかった。試験が8月から12月に延期されたため、希望者に個別指導を実施した</p>

<p>る。</p>	
<p>診療放射線学科： 就職・進学対策 ・100%の就職率をめざし、就職・進学対策、キャリア教育研修、及び社会人教育を行う。また、4年生を対象とした、就職・進路対策を実施する。3年生に対しては接遇マナー研修およびオスキー講習を計画する。</p>	<p>4年生 ・就職・進路対策を実施した。 就職ガイドブック配布した（4月） 進路希望調査を実施した（4月） ・接遇マナー研修を臨床実習前に実施した（8月）。 ・オスキー講習を実施した（8月）。 ・身だしなみ講座を実施した（9月） 進路相談を実施した（希望者は随時） 履歴書の書き方、面接指導を実施した（随時）</p> <p>3年生 ・オスキー講習を実施した（7、8月）。 ・接遇マナー研修を実施した（8月）。</p> <p>2・3・4年生 ・臨床実習報告会を実施した：臨床実習における学生同士の情報共有および下学年に対する情報提供。プレゼンテーションのスキルアップを図った（10月）。</p> <p>3年生 進路希望調査を実施した（2月）</p>
<p>診療放射線学科： リメディアル教育 ・基礎学力向上のため、大学のリメディアル教育との整合を取りながら補習講義を実施する。</p>	<p>1年生 ・補習講義実施を実施した。 数学、物理（通年）、情報科学（前期）</p>

委員会・委員長名	カリキュラム委員会 委員長：看護学科 教授 吉野淳一
構 成 員	教授：小山満子、門間正子、樋口健太、岸上博俊、山田敦士、大堀具視 准教授：西山徹、木村徹 事務局：澤口参事、荒木千尋、北宙恵
令和2年度 事業 計画	実施内容・結果
1. 教育課程（カリキュラム）の検討 看護学科は2022年度からの新指定規則施行、診療放射線学科においても2022年度入学者から新たなカリキュラムに変更になることが予定されている。このような情勢の中で、学部としてのカリキュラムの整合や調整をどのように、どこまで求めていくか、学部の教育理念等に基づいて検討していく。	1. 教育課程（カリキュラム）の検討 2020年度は新型コロナウイルスの感染対策と新学科の増設に係る申請などで学内の諸組織が定例外の職に追われる状況にあり、学部としてのカリキュラムの整合や調整を検討するに至らなかった。しかしながら、一般教育の科目などは学部として効率よく合理的に進めていけるよう配慮することが必要であり、現行の仕組みを点検したり調整したりする必要がある。
2. 学生、教員、卒業生の就職先からのカリキュラム評価に関するアンケート調査の継続的实施 卒業時の到達度アンケートについ	2. カリキュラム評価のアンケート調査については、看護学科及びリハビリテーション学科において継続的に実施されている。診療放射線学科も昨年度実施分の集計作業が行われ、今年度分のアンケートも実施し終えたところである。これらから、卒業時到達度アンケートの実施については、定着した感がある。

<p>ては、診療放射線学科の現況について報告をもらいながら、3 学科での継続的なカリキュラム評価ための基礎資料として位置づけられるか検討する。</p> <p>3. 教育研修会の実施</p> <p>アセスメントポリシー策定の足がかりになるような、実効性のある研修の必要性について検討し、可能ならば実施に向けた準備を進めていくこととする。</p>	<p>3. 教育研修会の実施については、北海道大学高等教育推進機構の山本堅一特任准教授と交渉を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、2020 年度の教育研修会は中止となった。</p>
---	---

委員会・委員長名	入学試験委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員	教授：吉野淳一、向井康詞、渡邊良晴、小山満子、林美枝子、大堀具視、品川雅明 (学生募集対策委員会委員長) 対馬徳昭、(事務局長) 青手木良光 事務局：本庄勝巳、山田武俊
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
1. 2021年度入学 試験の 合否判定	<p>1. 2021年度入学試験の合否判定</p> <p>入学者選抜委員会から上程された合格者案について協議し、以下の通り合格者を決定した。</p> <p>【総合型選抜（前期）】</p> <p>看護学科：59人受験 26人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：46人受験 34人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：30人受験 27人合格 診療放射線学科：33人受験 15人合格 臨床検査学科：5人受験 4人合格 4学科合計：173人受験 106人合格</p> <p>【学校推薦型選抜（指定校）】</p> <p>看護学科：19人受験 19人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：23人受験 23人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：13人受験 13人合格 診療放射線学科：13人受験 13人合格 臨床検査学科：13人受験 13人合格 4学科合計：81人受験 81人合格</p> <p>【学校推薦型選抜（公募前期）】</p> <p>看護学科：50人受験 32人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：27人受験 11人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：6人受験 4人合格 診療放射線学科：51人受験 28人合格 臨床検査学科：16人受験 15人合格 4学科合計：150人受験 90人合格</p>

	<p>【学校推薦型選抜（公募後期）】</p> <p>看護学科：27人受験 21人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻：7人受験 3人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻：3人受験 2人合格</p> <p>診療放射線学科：18人受験 6人合格</p> <p>臨床検査学科：4人受験 2人合格</p> <p style="text-align: right;">4学科合計：59人受験 34人合格</p> <p>【一般選抜（前期）】</p> <p>看護学科：257人受験 121人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻：71人受験 41人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻：14人受験 8人合格</p> <p>診療放射線学科：118人受験 59人合格</p> <p>臨床検査学科：47人受験 41人合格</p> <p style="text-align: right;">4学科合計：507人受験 270人合格</p> <p>【一般選抜（後期）】</p> <p>看護学科：28人受験 10人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻：1人受験 1人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻：1人受験 0人合格</p> <p>診療放射線学科：15人受験 2人合格</p> <p>臨床検査学科：6人受験 1人合格</p> <p style="text-align: right;">4学科合計：51人受験 14人合格</p> <p>【大学入学共通テスト利用選抜（前期）】</p> <p>看護学科：190人受験 34人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻：82人受験 29人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻：14人受験 7人合格</p> <p>診療放射線学科：93人受験 29人合格</p> <p>臨床検査学科：35人受験 12人合格</p> <p style="text-align: right;">4学科合計：414人受験 111人合格</p> <p>【大学入学共通テスト利用選抜（中期）】</p> <p>看護学科：6人受験 5人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻：3人受験 3人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻：2人受験 2人合格</p> <p>診療放射線学科：4人受験 3人合格</p>
--	--

<p>3. 入学前学習課題の実施</p>	<p>臨床検査学科：3人受験 2人合格 4学科合計： 18人受験 15人合格</p> <p>【大学入学共通テスト利用選抜（後期）】</p> <p>看護学科：7人受験 2人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：2人受験 2人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：0人受験 0人合格 診療放射線学科：5人受験 1人合格 臨床検査学科：1人受験 0人合格 4学科合計： 15人受験 5人合格</p> <p><u>合計：1468人受験 726人合格（前年1047人受験 462人合格）</u></p>
----------------------	--

委員会・委員長名	入学者選抜委員会 委員長：看護学科 教授 吉野淳一
構 成 員	教授：浅井さおり、松本真由美、向井康詞、大堀具視、石橋晃仁、 渡邊良晴、俵紀行、木村徹 事務局：本庄勝巳、山田武俊
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
1. 2021 年度入学試験の実施	<p>1. 2021 年度入学試験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り、総合型選抜（前期）、学校推薦型選抜（指定校、公募前期、公募後期）、一般選抜（前期、後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期、中期、後期）を実施した。 ・大学入学共通テスト利用選抜を除く各入試において「実施要領」、「学科試験監督要領」「面接試験実施要領」を作成し、説明会を開催し周知した。 ・大学入学共通テスト利用選抜にあたり共同実施大学である北星学園大学と連携し実施した。 ・毎回の入試において、新型コロナウイルス対策を講じながら各選抜を実施した。一部の入試において、体調不良者が発生したが、文科省方針に基づき、無事 2021 年度の選抜試験を実施することができた。 ・一般選抜（前期）において、函館試験会場設置 2 年目となり、21 人が受験した（欠席 3 人）（前年度比+10）。
2. 2021 年度入学試験合格者案の作成	<p>2. 2021 年度各入学試験の合格者案作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の通り合格者案を作成し入試委員会に上程した。 <p>総合型選抜（前期）：</p> <p>看護学科</p> <p>59 人受験 26 人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻</p> <p>46 人受験 34 人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻</p> <p>30 人受験 27 人合格</p> <p>診療放射線学科</p> <p>33 人受験 15 人合格</p> <p>臨床検査学科</p> <p>5 人受験 4 人合格</p> <p>計：173 人受験 106 人合格</p> <p>学校推薦型選抜（指定校）：</p>

	<p>看護学科 19人受験 19人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻 23人受験 23人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻 13人受験 13人合格</p> <p>診療放射線学科 13人受験 13人合格</p> <p>臨床検査学科 13人受験 13人合格</p> <p>計： 81人受験 81人合格</p> <p>学校推薦型選抜（公募前期）：</p> <p>看護学科 50人受験 32人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻 27人受験 11人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻 6人受験 4人合格</p> <p>診療放射線学科 51人受験 28人合格</p> <p>臨床検査学科 16人受験 15人合格</p> <p>計： 150人受験 90人合格</p> <p>学校推薦型選抜（公募後期）：</p> <p>看護学科 27人受験 21人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻 7人受験 3人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻 3人受験 2人合格</p> <p>診療放射線学科 18人受験 6人合格</p> <p>臨床検査学科 4人受験 2人合格</p> <p>計： 59人受験 34人合格</p>
--	--

一般選抜（前期）：

看護学科

257 人受験 121 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

71 人受験 41 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

14 人受験 8 人合格

診療放射線学科

118 人受験 59 人合格

臨床検査学科

47 人受験 41 人合格

計： 507 人受験 270 人合格

一般選抜（後期）：

看護学科

28 人受験 10 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

1 人受験 1 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

1 人受験 0 人合格

診療放射線学科

15 人受験 2 人合格

臨床検査学科

6 人受験 1 人合格

計： 51 人受験 14 人合格

大学入学共通テスト利用選抜（前期）：

看護学科

190 人受験 34 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

82 人受験 29 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

14 人受験 7 人合格

診療放射線学科

93 人受験 29 人合格

臨床検査学科

35 人受験 12 人合格

計： 414 人受験 111 人合格

<p>3. 入学前学習課題の実施</p>	<p>大学入学共通テスト利用選抜（中期）： 看護学科 6人受験 5人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 3人受験 3人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 2人受験 2人合格 診療放射線学科 4人受験 3人合格 臨床検査学科 3人受験 2人合格 計： 18人受験 15人合格</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜（後期）： 看護学科 7人受験 2人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 2人受験 2人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 0人受験 0人合格 診療放射線学科 5人受験 1人合格 臨床検査学科 1人受験 0人合格 計： 15人受験 5人合格</p> <p>合計：1468人受験 726人合格（前年1047人受験 462人合格）</p> <p>3. 入学前学習課題の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜（前期）および学校推薦型選抜（指定校、公募前期、公募後期）合格者に対し実施した。 ・学科共通の課題に加え、各学科の課題を課し実施した
----------------------	---

委員会・委員長名	自己点検評価委員会および認証評価検討委員会 委員長：リハビリテーション学科 教授 岸上博俊
構 成 員	教授：吉野 淳一、向井 康詞、渡邊 良晴、門間正子、 佐々木由紀子、山田敦士 樋口健太、准教授西山 徹、福山 篤司、講師 白石 祐太 事務局：青手木良光、澤口 敏明、千葉なな子
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
1 日本医療大学年 報第5号の発行	令和2（2020）年度上半期に発行する。 結果：コロナウィルス対応により発行が遅れてしまった。令和2 年度内の発行は出来たが、反省が必要である。次年度は、より早期 の発行を計画する。
2 教員の自己点検・ 評価制度の実施	令和元（2019）年度の結果を公表する。 結果：日本医療大学年報第5号の発行をもって公表を行った。
3 データの収集	各種委員会の情報を一元化しデータを管理する。専用のパソコンを 使用し、以下のデータを収集する。 ・委員会議事録 ・委員会開催時の添付資料 ・委員会活動報告書 ・委員会議案書 結果：データ管理については、いまだ課題が残っている。デジタ ルとアナログのデータ管理していくための準備にとどまった。

委員会・委員長名	研究費審査委員会 太田 誠
構成員	教授：小山 満子 佐々木 由紀子 高橋 美和 大堀 具視 西山 修輔 准教授：福山 篤司 講師：合田 央志 事務局：杉原 章仁 松岡 裕子
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
	<p>1.令和2年度学術助成費、教育向上研究費の配当額の算定 公募要領に従った計画調書により審査され交付額を決定</p> <p>2.令和2年度研究費実施状況</p> <p>(1) 看護学科 学術助成費（1件）、教育向上研究費（4件） 代表・共同研究者総数（17名）</p> <p>(2) リハビリテーション学科 学術助成費（3件）、教育向上研究費（1件） 代表・共同研究者総数（11名）</p> <p>(3) 診療放射線学科 学術助成費（6件）、教育向上研究費（0件） 代表・共同研究者総数（16名）</p> <p>(4) 認知症研究所 学術助成費（1件）、教育向上研究費（0件） 代表・共同研究者総数（2名）</p> <p>3.令和2年度研究活動報告 新型コロナウイルスの影響により3月末開催予定であった報告会を中止とし、報告要旨集を全教員に配布した。 報告数：看護学科(5件)、リハビリテーション学科(4件)、 診療放射線学科(6件)、認知症研究所(1件)</p>
次年度への課題等	次年度以降も引き続き公募及び配分方法を検討していく。

委員会・委員長名	人権擁護委員会 委員長：保健医療学部看護学科 教授 林美枝子
構 成 員	向井リハビリテーション学科長 吉野看護学科長 渡邊診療放射線学科長 高儀准教授 西山(徹)准教授 杉本准教授 小山准教授 村上講師 青手木事務局長 (日本医療大学顧問弁護士)
令和2年度 事業計画	具体的な実施内容
関連規程の改定に関する話し合い	・人権擁護委員会規定の調査委員会の設置に関する事項について今後の協議課題としていたが、今年度は、協議は先送りとなった。
人権侵害の申し立てが発生した場合の対応	・人権侵害の申し立てはなかった。 ・人権擁護委員長は、学生懲戒委員会の設置に当たり委員長として3案件の委員会に参加し、学長の諮問を受けて懲戒処分案を提出した。3件とも SNS による個人情報の漏洩に関する処分であった。 また理事長の諮問を受けて教職員懲戒委員会に2案件の委員として参加した。
被申立人あるいは申立人からの不服申し立てがあった場合の対応	・再調査の申し立てがあった場合の調査委員会の設置と調査の支援を行うが、本年の懲戒処分に関しては、再調査、再審議の申し立てはなかった。 ・試験の合否、成績に関する再確認の申し立てが前期試験7件(看護学科6件、診療放射線学科1件、リハビリテーション学科1件)、後期試験で0件であった。迅速に対応して、すべて解決済みとなった。
人権侵害を防止するための啓発事業の実施と情報提供	・北海道および札幌市、恵庭市に設置されている犯罪被害者支援委員会、あるいは人権擁護委員会等が発信する情報を適宜把握し、犯罪被害やデート DV 等に悩む学生に対して、適切な支援情報のパンフレットやポスターによる提供に努めた。 ・学内に置かれている人権擁護のための啓発用各種パンフレット類を、補充、最新のものに更新した。

委員会・委員長名	図書・学術振興委員会 委員長：看護学科 教授 小山満子
構 成 員	教授：草薙美穂、高橋美和、俵紀行、西山修輔、岸上博俊 講師：合田央志 事務局：杉原章仁課長、 図書司書：栗本瑞恵、 藤ノ木良子
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
1.令和2年度の図書 の購入・受入	1-1.令和元年度看護学科図書の購入・受入状況 ※冊、またはタイトル総数（）はうち寄贈 和書47（0）、洋書0（0）、視聴覚1（0）、 電子和書0（0）、和雑誌41（1）、洋雑誌7（0） 1-2.令和元年度リハビリテーション学科図書の購入・受入状況 和書43（0）、洋書0（0）、視聴覚（0）、 和雑誌34（4）、洋雑誌8（0）、電子洋雑誌5（0）〔うち3は紙の洋雑誌 に付属〕 1-3.令和元年度診療放射線学科図書購入・受入状況 和書176（0）、洋書0（0）、視聴覚2（0）、 電子和書0（0）、和雑誌6（0）、洋雑誌7（0）
2.図書の蔵書等の 資産確認と資産整 理	2.蔵書点検の実施 キャンパス・図書館移転に備え本館・分館とも蔵書点検を実施した。
3.図書館の文献検 索等に関するガイ ダンス	3.学生に対するガイダンス実施 今年度はリハビリテーション学科において、3年生向けのデータベース による論文検索のガイダンスをリモートで実施した。 医中誌・メディカルオンラインの利用を学外からも可能とし、学生のリ モート学修における利便性の向上をはかった。
4.第7回保健医療 学部研究報告会	4.第7回保健医療学部研究報告会 ※今年度も新型コロナウイルスの影響により3月末日開催を中止し、報告要旨集 を各教員に配布。 報告者：看護学科(5件)、リハビリテーション学科(4件)、診療放射線 学科(6件)、認知症研究所(1件)
5.紀要第7巻を発 刊	5.紀要第7巻を発刊 原著論文（5篇）、研究報告（4篇）、事例報告（0篇）、

<p>6. 新型コロナ感染症予防対策に向けた図書館の運営について</p>	<p>資料 (0 篇)、短報 (2 篇) 令和 3 年 3 月 31 日発刊予定</p> <p>6.図書館における新型コロナ感染症予防 利用者を 30 分間に 5 名までとし、30 分ごとに換気・清掃の時間を 15 分取る 45 分 1 クールでの運営を行った。 実際は利用者が少ない時間など柔軟に対応したが、密閉・密集・密接の状況は起こらないように留意した。 座席も間引きを行い、利用者の対面状態を作らないようにした。 その他、マスク着用・入館時の手指消毒・過度の会話を避けるなど、基本的な対策の徹底をはかった。</p>
<p>次年度への課題等</p>	<p>蔵書点検、雑誌製本 学術機関リポジトリの構築準備 ILL 料金相殺サービスへの参加 キャンパス移転、新学部・学科設置に伴う図書館移転準備及び新規図書受入 不明図書の除却、資産整理 寄贈図書の受入</p>

委員会・委員長名	FD 委員会 委員長：診療放射線学科 教授 樋口 健太
構 成 員	教授：大堀具視、森口眞衣、西山修輔 准教授：滋野和恵、西山徹 講師：福島眞里、合田央志、白石祐太 事務局：澤口敏明参事、(千葉なな子)
令和 2 年度 事業計画	具体的な実施内容・結果
教育効果の評価計画について * 授業アンケートの実施	新教務システム導入により、実施方法が大きく変更した。コロナの影響で、授業評価アンケートの実施・回答方法などについて周知が上手く出来なかった。次年度は学生や教職員へ周知し、アンケート実施について充実をはかる。
教育効果の評価計画について * フィードバックの実施	新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からのフィードバックが今後の課題となった。
教育力向上についての計画 * 教員研修会の実施	新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、今年度は開催を自粛した。
教育力向上についての計画 * 授業方法の開発	ベストティーチャー賞などの表彰企画は実施できなかったため、次年度以降の課題とした。 授業方法の開発については、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、Teams の活用方法や対面講義をミックスしたハイブリッド方式の授業を活用した。各学科内で遠隔講義について検討した。臨床実習に代わる学内実習の検討を行い、実施を行った。
その他	委員会の開催頻度を 2 か月に 1 回に増やし、外部研修への参加や授業方法の開発などについて積極的に審議していく予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、昨年度同様の不定期開催に開催頻度を戻すこととなった。 カリキュラム検討委員会やキャリア学習支援センターとの連携、北海道 FDSD 協議会に参加し他大学との意見交流による FD 委員会の活性化について検討を行った。

委員会・委員長名	不正調査委員会：リハビリテーション学科 教授 大堀具視
構 成 員	教授：吉野淳一、向井康詞、渡邊良晴、林美恵子 准教授：杉本芳則 講師：松崎由里子 事務局：青手木良光、杉原章仁、松岡裕子
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
(1) 研究費不正行為 の調査	不正対象はなく調査の実施はなかった。
(2) 研究不正の調査	不正対象はなく調査の実施はなかった。

委員会・委員長名	教員選考委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員	吉野学科長、向井学科長、渡邊学科長、学長が選出する教員3名以内 事務局:伊藤
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
本学専任教員の採用又は昇任について、候補者の審査を行う。 審査は、資料収集と調査とによって総合的に行う。	・採用に関しては、24件の公募を行い、それぞれに委員会を設置し、6回の会議を開き、40名の候補者について、慎重に審査を行った。 ・昇任に関しては、1回の会議を開き、5名の候補者について、慎重に審査を行った。

委員会・委員長名	日本医療大学留学生別科 別科長：山田敦士
構 成 員	唐講師、須藤助教、千葉助手
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
1. 留学生関連事項 1-1 組織運営	<p>1) 別科規程に基づき、別科委員会を月例で開催することとした。</p> <p>2) 別科生の受け入れおよび修了の原則を明示するため、3つのポリシーを策定し、教授会に報告をおこなった。</p> <p>3) 事務局法人グループ内の技能実習・留学センターと業務分担に関する整理をおこなった。</p> <p>4) 学長に対し、月例での活動報告をおこなうこととした。</p>
1-2 教務事務	<p>1) 2つの入学期（4月、9月）に対応した教務暦の整理をおこなった。8月に修了する9月期生の扱いについて、他大学の情報収集をおこなった。</p> <p>2) 学生用ハンドブックおよび諸手続きに関わる書類の整備をおこなった。</p> <p>3) GAKUENによる学生管理のあり方について、事務局と整理をおこなった。</p>
2. 協力事業 2-1 介護技能実習生への日本語教育	<p>1) 技能実習生に対する40日間の入国後日本語教育を実施した。</p> <p>2) 企業イン後の技能実習生に対する日本語講習をおこなった。</p> <p>3) リモート学習の要望に応えるかたちで、Knowledge deliverによるオンデマンド教材の作成・配信をおこなった。</p>
2-2 技能実習・留学センターの業務支援	1) 学生募集要項および大学案内（新学部新学科を含む）の校正、および中国語版への翻訳をおこなった。
2-3 特務事項	1) 理事長からの特務事項として、唐講師が中国人留学生の仲介団体の新規開拓をおこなった。

委員会・委員長名	日本医療大学ハラスメント防止委員会 看護学科 林美枝子
構成員	教授：渡邊良晴 向井康詞 吉野淳一 青手木事務局長、片桐事務局次長 山下未希
令和2年度 事業計画	具体的な実施内容
1 ハラスメントの排除及び防止に係る指導及び改善に関すること	<p>1-1 日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程に定められている通り、ハラスメントの排除及び防止に関する啓発のため、学生に配布される CAMPUS HAND BOOK の関連部分の修正・加筆を実施した。</p> <p>1-2 厚生労働省、文科省、学生支援機構等が発信するハラスメントに関する最新の情報の通達や警告は、今年度はなかった。</p> <p>1-3 文科省等からのハラスメント関連の講座の募集はなかったが、全国的な NPO が遠隔で実施したハラスメントに関する講座の基礎と応用コースに委員長が出席し、最新の情報を得た。</p> <p>1-4 国の法律の改正に伴い、本学の「日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程」の改訂を学長に提案するとともに、委員会では「日本医療大学ハラスメントの防止等に関するガイドライン」を改訂した。</p>
2 ハラスメントの排除及び防止のための啓発活動及び研修に関すること	<p>2-1 ハラスメント相談員を招集し、その役割、相談業務の流れ、ガイドラインの内容を確認するための第2回ガイダンスは、コロナ感染防止のために開催できず、手続き等を熟知していない相談員や次年度の相談員に向けて、年度の終わりに遠隔で実施するとともに、そのレコーディングファイルの閲覧を関係各位に要請した。</p> <p>2-2 ハラスメントの基本的事項や最新情報のアップデートのために、遠隔講座を年度の終わりに実施するとともに、そのレコーディングファイルの閲覧を全学教職員に要請した。</p>
3 苦情の申し立てに関する事実関係の調査、審議等に関すること	<p>3-1 苦情申し立てはなかった。申し立てに至らなかったハラスメントの相談が保健室から 18 件あったことが報告された。</p> <p>3-2 申し立てがなかったため、今年度はハラスメント調査小委員会を設置する必要がなかった。</p>

4 総括と報告	4-1 年度末に委員会委員、ハラスメント相談員を招集し、その年度に生じた苦情申し立ての件数や内容、事実認定の有無や提出した処分案に関する情報の共有化を行うことになっているが、申し立てがなかったため、コロナ感染予防対策もあり、実施はしなかった。 4-2 年度末に報告書を IR 室に提出した。
---------	--

委員会・委員長名	日本医療大学認知症研究所 所長：対馬輝美
構 成 員	対馬輝美研究員、高橋光彦研究員、林美枝子研究員、八田達夫研究員、浅井さおり研究員、岸上博俊研究員、東海林哲郎研究員、田村素子研究員、小林 孝広研究員、荒木めぐみ研究員、新岡美樹研究員、銭本隆行研究員
令和2年度 事業計画	実施内容・結果
1. 研究事業	
1-1 「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」株式会社クオリからの「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」に関する受託研究	株式会社クオリからの受託研究として、認知症高齢者への理想的ないすを開発するため、八田研究員を中心に、岸上研究員も交えて研究を進めている。 株式会社アミノアップからの受託研究として、ノテ福祉会の介護事業所の入居者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の臨床効果を図るための試験を2018年10月から開始し、2020年2月で終了した。研究成果を2021年度中に論文として投稿し、学会で発表する予定としている。
1-2 「アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」	特になし ノテ福祉会と共同し、八田研究員と新岡研究員を中心に、「スヌーズレン」に関する研究をはじめた。
1-3 つしま医療福祉グループのネットワークを通じ、さまざまな研究者や実践者を招き、認知症に関する講演会などを開催し、認知症の研究活動を推進する。	6月1日日本学保健医療学部看護学科、10月16日リハビリテーション学科、10月28日診療放射線学科で実施した。 1-1と同じ。 1-2と同じ。
1-4 その他	

<p>2. 普及事業：</p> <p>2-1 認知症サポーター養成講座</p> <p>3. 外部連携</p> <p>3-1 「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」</p> <p>3-2 「アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」</p>	
--	--

11.教員の自己点検・評価

11-1 教員の教育・研究・社会活動

11-1-① 総長 学長 参事

氏名 島本 和明 学科 看護 職階 総長、教授

専門分野：

高血圧、生活習慣病、メタボリックシンドローム

教育活動：

責任科目：形態機能学Ⅱ（1年次、1単位、30時間）、形態機能学Ⅳ（1年次、1単位、30時間）、疾病論Ⅰ（2年次、1時間、30時間）、内科学（2年次、1単位、30時間）

担当科目：形態機能学Ⅱ（30時間）、形態機能学Ⅳ（30時間）、疾病論Ⅰ（30時間）、内科学（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、国際高血圧学会、日本循環器学会、日本老年医学会、日本循環器病予防学会、日本心臓病学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本高血圧協会（理事長）、社会福祉法人 恩賜財団済生会 北海道済生会支部（会長）、日本老年医学会（理事）、札幌産学官医療連携協議会（座長）、北海道心臓協会（副理事長）、公益財団法人伊藤医薬学術交流財団（副理事長）、日本臨床研究フォーラム J-ARF（副理事長）、公益財産法人先進医薬研究振興財団（理事）、一般財団法人つしま医療福祉研究財団（理事）、一般財団法人 つくし奨学・研究基金（評議員）、一般財団法人禎心会記念財団（評議員）、一般財団法人代謝異常治療研究基金（評議員）、国土交通省 社会資本整備審議会（専門委員）、士別市健康づくりアドバイザー

顕彰：なし

氏名 太田 誠 職階 学長・教授

専門分野：

理学療法概論・原論、健康政策、神経筋促通治療学

教育活動：

責任科目：

理学療法概論（1年次、1単位、30時間）、理学療法概論演習（1年次、1単位、30時間）、健康政策論（4年次、1単位、15時間）、リハビリテーション概論

(看護3年次、1単位、15時間)

担当科目：

理学療法概論 (30時間)、理学療法概論演習 (30時間)、リハビリテーション概論
(看護3年次、15時間)

非常勤講師：

青森県立保健大学 (学部生「特別講義」2時間・大学院生博士後期課程「特別講義」
2時間・理学療法学科「FD研修会」2時間)、北海道医療大学 (修士課程「リハビリ
テーション管理学特論」4時間)

学内委員会・学科内業務等：

運営会議、教授会、入学試験委員会 (委員長)、研究費審査委員会 (委員長)、
教員選考委員会 (委員長)、国際交流委員会 (委員長)

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本基礎理学療法学会、日本地域理学療法学会、日本理学療法教育学会、
北海道リハビリテーション学会 (理事・学術委員)、北海道神経リハビリテーション治
療フォーラム (世話人)

科学研究費 (研究資金) の取得：なし

社会活動：

公益社団法人北海道理学療法士会 (会長・表彰推薦選考委員会委員)、一般社団法人北海
道リハビリテーション専門職協会 (会長)、公益社団法人日本理学療法士協会 (監事)、
特定非営利活動法人HPT (理事長)、札幌市理学療法赤十字奉仕団 (委員長)、一般社団
法人リハビリテーション教育評価機構 (評価員)、一般社団法人ヘルスケア・ロボット協
会 (理事)、一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 (理事)、北海道マラソン (大会役員)、
札幌国際スキーマラソン (実行委員会役員)、北海道地域医療介護総合確保基金 (介護分)
検討協議会及び北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画検討協議会 (委員)、
北海道医療技術者団体連絡協議会 (理事)、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロ
ック (理事)

顕彰：日本理学療法士協会賞 (令和2年6月6日)

氏名 錢本 隆行 学科 職階 参事

専門分野：

高齢者福祉、地域福祉、障害者福祉、国際比較福祉、社会保障

教育活動：

責任科目：

保険医療福祉行政論 (2年次、1単位、15時間)、看護関係法規 (3年次、1単位、
15時間)、保険医療福祉行政論 (1年次、1単位、15時間)

担当科目：

保険医療福祉行政論（15 時間）、看護関係法規（15 時間）

非常勤講師：

北星学園大学（国際比較福祉論 6 時間、海外の福祉制度 4 時間）

学内委員会・学科内業務等：

認知症研究所研究員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、日本認知症ケア学会、北海道地域福祉学会、北海道社会福祉学会、社会政策学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費基盤研究（C）「ハラスメント問題に対応するソーシャルワーカー養成のための集学的研究」研究分担者（平成 30～令和 3 年度）

学術助成費（研究資金）の取得：

「地域包括ケアのシステム性に関する研究」（令和 2 年度、高橋光彦教授と共同）

11-1-②看護学科教員

氏名 吉野 淳一 学科 看護学科・学科長 職階 教授 学科長

専門分野：

精神看護学

教育活動：

責任科目：

精神看護学概論（2 年次、2 単位、30 時間）基礎看護学（2 年次、1 単位、15 時間）

担当科目：

精神看護援助論（3 年次、1 単位、30 時間）、精神看護学実習（3 年次、2 単位、90 時間）

非常勤講師：札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科（人間関係論）

学内委員会・学科内業務等：

カリキュラム委員会（委員長）、教務委員会、学生担当教員（3 年担任）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本集団精神療法学会、日本家族療法学会、日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本トランスパーソナル心理学／精神医学会、北海道社会福祉学会、北海道公衆衛生学会・北海道集団精神療法研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

日本家族療法学会（代議員）、日本精神保健看護学会（代議員）、
北海道家庭生活総合カウンセリングセンター（代表理事）、NPO 法人きなはれ（理事）

顕彰：なし

氏名：宮本 篤 学科：看護学科 職階：教授

専門分野：

医療薬学

教育活動：

責任科目：

看護学科（総合医療論（1年、1単位、15時間）、臨床薬理学（3年、1単位、30時間）、
チーム医療論（2年、1単位、15時間））

リハビリテーション学科（チーム医療論（3年、1単位、15時間）、薬理学（1年、
1単位、30時間）、保健医療論（2年、1単位、15時間））

診療放射線学科（薬理学（2年、1単位、15時間）、臨床薬理学（2年、1単位、15時
間）、チーム医療論（2年、1単位、15時間））

担当科目：

看護学科（形態機能学Ⅳ（1年、1単位、30時間））

非常勤講師：

北海道文教大学看護学科（臨床薬理学、30時間）、田学園医療歯科専門学校臨床工学
技師科（臨床薬理学、30時間）、浦河赤十字看護専門学校（薬理学、30時間、北海道
消防学校（救急救命士処置拡大二行為講習、10時間）

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

（公社）日本薬剤師会会員、（一社）日本病院薬剤師会会員、
（一社）日本緩和医療薬学会名誉会員

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

（一社）日本医療安全調査機構北海道ブロック地域推薦窓口担当者（日本医療薬学会代表）、

（一社）北海道薬剤師会相談役、（一社）北海道病院薬剤師会顧問

顕彰：日本薬剤師会賞（（公社）日本薬剤師会、令和2年10月）

氏名 浅井 さおり 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

教育活動：

責任科目：

老年看護学概論（2年次、2単位、30時間）、老年看護援助論Ⅰ（2年次、1単位、30時間）、老年看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、老年看護学実習Ⅰ（3年次、2単位、90時間）、老年看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）

担当科目：

老年看護学概論（30時間）、老年看護援助論Ⅰ（30時間）、老年看護援助論Ⅱ（30時間）、老年看護学実習Ⅰ（90時間）、老年看護学実習Ⅱ（90時間）、看護ゼミナールⅠ（26時間）、看護研究演習Ⅰ（24時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、入学者選抜委員会、カリキュラム検討会（学科）

学術活動：

所属学会・研究会等：

研究会等：日本保健医療行動科学会、日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本認知症ケア学会（代議員、査読委員）、日本健康科学学会、聖路加看護学会、死の臨床研究会、日本看護倫理学会（臨床倫理ガイドライン検討委員会委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 草薙 美穂 学科 看護 職階 教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：

小児看護学概論（3年次、2単位、30時間）小児看護援助論（3年次、1単位、30時間）、小児看護学実習（4年次、2単位、90時間）、看護ゼミナールⅣ（4年次、1単位、30時間）

担当科目：

小児看護学概論（30時間）、小児看護援助論（30時間）、小児看護学実習（90時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習Ⅰ（30時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、キャリア学修支援センター、図書・学術振興委員会、看護学科カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本小児看護学会、日本小児保健協会、乳幼児保健学会、日本乳幼児医学・心理学会、北海道母性衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費・基盤（C）（2018～2020年）「ファミリーパートナーシップに基づく育児支援—支援者の人材育成への方略—」研究代表

社会活動：北海道小児救急電話相談（＃8000）

顕彰：なし

氏名 小山 満子 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

母性看護学、助産学、看護教育学

教育活動：

専任科目：

「看護を知る」（1年次前期開講、1単位、15時間）「母性看護学概論」（2年次後期開講、2単位、30時間）「母性看護学実習」（4年次前期開講、2単位、90時間）
「女性の健康障害」（3年次前期開講、1単位、30時間）「看護ゼミナールⅢ」（3年次通年開講、1単位、30時間）「看護ゼミナールⅣ」（4年次通年開講、1単位、30時間）「看護教育（4年次後期開講、1単位、15時間）」「看護研究演習」（4年次通年開講、2単位、90時間）

担当科目：

「看護を知る」（1年次前期開講、1単位、15時間）、「母性看護学概論」（2年次後期開講、2単位、30時間）、「母性看護学実習」（4年次前期開講、2単位、90時間）
「女性の健康障害」（3年次前期開講、1単位、30時間 オムニバス）
「看護ゼミナールⅢ」（3年次通年開講、1単位、30時間）、「看護ゼミナールⅣ」（4年次通年開講、1単位、30時間）、「看護研究演習」（4年次通年開講、2単位、90時間）「看護教育（4年次後期開講、1単位、15時間）」

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

〈学内委員会〉

図書学術振興委員会委員長（図書館長）、日本医療大学紀要

編集委員長

教授会、研究倫理審査委員会（委員）、リキュラム委員会（委員）、教員選考委員会（委員）

〈学科内業務等〉

2 学年 A クラス学担（主担任）

カリキュラム検討会、実習施設の継続活動、実習施設新規開拓の活動業務

学術活動：

日本母性衛生学会、日本助産師学会、日本看護学教育学会、日本フォレンジック看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、北海道母性衛生学会、北海道思春期学会等

科学研究費（研究資金）等の取得:なし

社会的活動：

日本看護教育協議会会員、北海道看護教育協議会委員

氏名 佐々木 由紀子 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

成人看護学、看護管理学

教育活動：

責任科目：

成人看護学概論（2 年次、2 単位、30 時間）、成人看護学特論（2 年次、1 単位、30 時間）、成人看護学実習 I（3 年次、4 単位、180 時間）、成人看護学実習 II（4 年次、2 単位、90 時間）、看護ゼミナール I（2 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：

成人看護学概論（22 時間）、成人看護援助論 I（20 時間）、成人看護学特論（24 時間）、成人看護学実習 I（180 時間）、成人看護学実習 II（90 時間）、看護研究演習 I（22 時間）、看護研究演習 II（30 時間）、臨床看護技術演習（3 時間）、看護ゼミナール I（30 時間）、チーム医療（4 時間）

非常勤講師：北海道看護協会臨床指導者研修会講師

学内委員会・学科内業務等：自己点検評価委員会、看護学科実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護協会、北海道看護協会、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護学教育学会、日本環境感染学会、日本老年看護学会、日本看護歴史学会、医療事故・紛争対

応研究会、看護歴史学会、日本ヒューマンケア心理学会、日本看護研究学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

北海道看護協会臨床指導者研修会講師、高等学校デリバリー授業（北海道小樽桜陽高等学校）、高等学校デリバリー授業（北海道札幌厚別高等学校）

顕彰：北海道社会貢献賞

氏名 進藤 ゆかり 学科 看護 職階 教授

専門分野：

地域・在宅看護学、老年看護学、家族看護学、慢性看護学

教育活動：

責任科目：

在宅看護学概論（2年次、2単位、30時間）、宅看護援助論Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、宅看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、宅看護論実習（4年次、2単位、90時間）

担当科目：

在宅看護学概論（30時間）、在宅看護援助論Ⅰ（30時間）、在宅看護援助論Ⅱ（26時間）、在宅看護論実習（90時間）、護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅠ（15時間）、護ゼミナールⅡ（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（60時間）、臨床看護技術演習（15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、教務委員会委員、倫理委員会委員、3年次学生担任、看護学科カリキュラム検討会代表

学術活動：

所属学会・研究会等：ホスピスケア研究会、看護総合科学研究会評議員、日本家族看護学会、日本精神保健看護学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、北海道ペインクリニック学会、北海道公衆衛生学会評議員、日本公衆衛生看護学会、日本地域看護学会、日本看護研究学会、Public Health Nursing、読委員、Clinical Nursing Research 査読委員 Journal of Advance Nursing、読委員科学研究費（研究資金）の取得：

文部科学省研究基盤研究（C）「非がん性慢性痛を抱えたがん患者に対するオピオイド鎮痛薬治療の現状と課題」 代表

文部科学省研究基盤研究（C）「終末期がん患者の望む生き方を支える看護師の対話力獲得モデルと尺度の開発」 分担

社会活動：

科研製薬株式会社 外プロトコール等アドバイザー、
札幌市立大学茶部サークルボランティア講師

顕彰：なし

氏名 高橋 美和 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

看護管理学、統合看護学、基礎看護学

教育活動：

責任科目：

看護ヘルスアセスメント論（2年次、2単位、30時間）、診療過程の援助技術
（2年次、1単位、30時間）、看護倫理（3年次、1単位、15時間）、看護管理
（3年次、1単位、15時間）、医療安全（3年次、1単位、15時間）、感染管理
（3年次、1単位、15時間）、医療情報（4年次、1単位、15時間）、統合実習
（4年次、2単位、90時間）

担当科目：

看護ヘルスアセスメント論（30時間）、診療過程の援助技術（30時間）、
看護研究演習Ⅰ（30時間）、看護倫理（15時間）、看護管理（15時間）、
医療安全（15時間）、医療情報（15時間）、統合実習（90時間）、
看護研究演習Ⅱ（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、衛生委員、研究費審査委員会、図書学術振興委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、
日本看護管理学会、日本国際保健医療学会、日本混合方法学会
科学研究費（研究資金）の取得

社会活動：東北大学看護管理学研究会運営委員

顕彰：なし

氏名 林 美枝子 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

医療人類学、介護人類学、社会医学

教育活動：

責任科目：

看護学科 文化人類学(1年後期 1単位 15時間)、北海道史(1年前期 1単位 15時間)、

医療と社会(1年後期1単位15時間)、家族論(2年前期1単位15時間)
リハビリテーション学科 医療と社会(1年後期1単位15時間)、
文化人類学(1年後期1単位15時間)、北海道史(1年前期1単位15時間)
診療放射線学科 療と社会(1年後期1単位15時間)、
文化人類学(1年後期1単位15時間)、北海道史(1年前期1単位15時間)

担当科目：

看護研究演習(4年通年2単位60時間)看護を知る(1年前期1単位 5時間)

非常勤講師：

札幌国際大学(地域社会と健康、前期2単位30時間、現代の医療、後期2単位30時間)

学内委員会・学科内業務等：教

授会、学生委員会(委員長)、ハラスメント防止委員会(委員長)、人権擁護委員会(委員長)、
入試委員会委員、不正調査委員会、認知症研究所研究員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本文化人類学会、日本民俗学会、日本公衆衛生学会、日本介護福祉学会、
日本認知症ケア学会、北海道民族学会、日本死と臨床研究会、北海道ジェンダー研究会

科学研究費(研究資金)の取得：

日本医療大学教育向上研究費「験的自学自習用副読冊子Ⅱ「医療史」の作成とそのため
の調査研究」

社会活動：

講演 ・田中メディカルグループ札幌大学寄付講座

「死の受容」2019年10月2日

「看取りねっとの挑戦」2020年1月14日

遠隔講演 ・社会福祉法人中央福祉会

「施設職員の看取りに対する死生観の醸成」12月3日、12月10日、12月17日

社会貢献：

公益財団法人市町村振興協会 評議員、一般財団法人道民活動振興センター 評議員
北海道民族学会 運営委員、学会誌編集委員、北海道史編さん委員会 専門委員、
北海道社会功労賞 推薦委員、北海道文化審議会 委員、公益財団法人北海道女性協
会 理事、北海道生産性本部 理事、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
評議員、幌市社会福祉審議会委員

顕彰：なし

氏名 松本 真由美 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

精神保健学 社会福祉学 発達心理学

教育活動：

責任科目：

社会福祉学（看護学科1年次、1単位、15時間）、心理学（看護学科1年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、人間関係の科学（看護学科1年次、診療放射線学科

1年次、1単位、15時間）、発達心理学（看護学科1年次、1単位、15時間）、ボランティア活動（看護学科2年生、1単位、30時間）、臨床心理学（看護学科2年次、1単位、15時間）、臨床心理学（診療放射線学科2年次、1単位、15時間）、カウンセリング論（看護学科3年次、1単位、15時間）、社会福祉学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、心理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、人間関係の科学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、発達心理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、ボランティア活動（リハビリテーション学科2年次、1単位、30時間）、看護研究演習（看護学科4年次、2単位、60時間）

担当科目：

社会福祉学（30時間）、ボランティア活動（60時間）、心理学（45時間）、人間関係の科学（45時間）、発達心理学（30時間）、臨床心理学（30時間）、カウンセリング論（15時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：北星学園大学（精神保健の課題と支援）

学内委員会・学科内業務等：

教授会 入学者選抜委員会 学生相談センター室長 ハラスメント相談委員
入学前学習課題担当（責任者）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本精神障害者リハビリテーション学会 日本精神保健福祉学会（学術誌査読委員）
日本社会福祉学会 日本地域福祉学会 日本学生相談学会 北海道地域福祉学会
（理事・学術誌編集委員長） 北海道社会福祉学会（学術誌編集委員）

科学研究費(研究資金)の取得：

平成30年度～33年度科学研究費基盤研究(C)18K02113 「政策決定過程における精神障害当事者委員参画と当事者活動との関連」研究代表者

教育向上研究費「障害のある学生支援に向けたPDCAサイクルの確立と支援体制構築に向けた試案の検討その2」研究代表者

社会活動：

精神障害者回復者クラブすみれ会理事、北海道庁総務部法務・法人局北海道史編さん委員会社会・文化小部会委員、精神医療国家賠償請求訴訟研究会専門部会担当、2020年度「第23回精神保健福祉士全国統一模擬試験」問題作成者(株式会社テコム)

顕彰：日本精神保健福祉学会 第1回学術賞

氏名 森口 眞衣 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

アジアの医療思想史

教育活動：

責任科目：

医療と論理学（看護学科1年次、1単位、15時間）、倫理学（看護学科1年次、1単位、15時間）、医療と宗教（看護学科1年次、1単位、15時間）、医療と哲学（看護学科1年次、1単位、15時間）、生命倫理（看護学科1年次、1単位、15時間）、宗教と思想（看護学科2年次、1単位、15時間）、医療と論理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、倫理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、医療と宗教（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、医療と哲学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、生命倫理（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、倫理学（診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、医療と宗教（診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、生命倫理（診療放射線学科1年次、1単位、15時間）担当科目：医療と論理学（30時間）、倫理学（45時間）、医療と哲学（30時間）、医療と宗教（30時間）、生命倫理（45時間）、宗教と思想（30時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：

北海道大学（インド哲学仏教学）、北海道教育大学（日本社会の特質）、北翔大学（生命倫理）、札幌保健医療大学（生命倫理）、札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学）、苫小牧看護専門学校（哲学/生命倫理）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、研究倫理委員会、FD委員会、学生担当教員（2年主担任）、兼担教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科）、入学前学習課題担当、オープンキャンパス面接特別講座担当（真栄キャンパス・恵み野キャンパス）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本医学哲学・倫理学会、日本生命倫理学会、日本宗教学会、日本印度学仏教学会、日本精神病理学会、日本精神医学史学会、日本森田療法学会、インド思想史学会、九州医学哲学・倫理学会、北海道生命倫理研究会（コアメンバー）、

北海道大学文学研究科宗教学研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究 C）「精神療法の成立と展開における宗教動態との接点および影響関係の研究」研究代表者（平成 31 年度～令和 5 年度）、科研費（基盤研究 A）「アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究」研究分担者（平成 31 年度～令和 3 年度）

社会活動：日本精神医学史学会第 24 回大会実行委員会

顕彰：なし

氏名 門間 正子 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

成人看護学、クリティカルケア看護学

教育活動：

責任科目：

成人看護援助論Ⅱ（3 年前期、2 単位 30 時間）、
成人看護援助論Ⅲ（3 年前期、2 単位 30 時間）、健康教育論（3 年前期、1 単位 15 時間）

担当科目：

看護を知る（15 時間）、成人看護学概論（4 時間）、成人看護援助論Ⅰ（12 時間）、
成人看護学特論（16 時間）、看護ゼミナールⅡ（30 時間）、看護研究（2 時間）、
看護研究演習（30 時間）、チーム医療（リハビリテーション学科、2 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、教務委員会（委員長）、カリキュラム委員会、自己点検評価委員会、
際交流委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本救急看護学会、日本クリティカルケア看護学会（査読委員）、日本看護学教育学会、日本手術看護学会、日本看護歴史学会、
札幌医科大学クリティカルケア看護研究会、日本音楽療法学会、北日本看護学会、
日本災害看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（研究分担者）「医療過疎地域に隣接する地方中核病院の救急看護師に対する
広域連駅支援モデルの検討」（研究代表者：北海道医療大学 神田直樹）

社会活動：

札幌山の上病院看護部研修において同病院看護師の研究指導、北海道整形外科記念病院

看護部研修において同病院看護師の研究指導、令和2年度保健師助産師看護師実習指導者習会において講義（看護教育課程-成人看護学3時間）

顕彰：なし

氏名 山崎 公美子 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

基礎看護学、看護歴史・占領史

教育活動：

責任科目：

看護学概論（1年次、2単位、30時間）、看護の基本技術論（1年次、2単位、12時間）、生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、16時間）、看護過程論（2年次、1単位、30時間）、臨床看護技術演習（4年次、1単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）

担当科目：

看護学概論（30時間）、看護の基本技術論（12時間）、生活援助技術Ⅰ（16時間）、生活援助技術Ⅱ（8時間）、生活援助技術Ⅲ（8時間）、診療過程の援助技術（12時間）、看護過程論（30時間）、臨床看護技術演習（30時間）、看護研究演習Ⅰ（24時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、診療放射線学科・基礎看護学（2時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、研究倫理委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：American Association for the History of Nursing、日本看護歴史学会（理事）、日本看護科学学会、日本看護教育学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、看護人間工学会、日本医史学会

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学；教育向上研究費「本学看護学生と熟練看護師の視線分析を活用したシミュレーションプログラムの構築」：代表者

社会活動：高校出前講義（西陵高校）

顕彰：なし

氏名 山田敦士 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

言語人類学、言語教育、東南アジア地域研究

教育活動：

責任科目：

日本語表現（看護学科 1 年、1 単位、60 時間（30 時間×2 クラス）、日本語表現（リハビリテーション学科 1 年、1 単位、90 時間（30 時間×3 クラス）、日本語表現（診療放射線学科 1 年、1 単位、30 時間）、中国語（看護学科 2 年、1 単位、60 時間（30 時間×2 クラス）、中国語（リハビリテーション学科 1 年、1 単位、60 時間（30 時間×2 クラス）、中国語（診療放射線学科 2 年、1 単位、30 時間）

担当科目：

日本語表現（看護学科、60 時間）、日本語表現（リハビリテーション学科、90 時間）、日本語表現（診療放射線学科、30 時間）、中国語（看護学科、60 時間）、中国語（リハビリテーション学科、60 時間）、中国語（診療放射線学科、30 時間）、看護研究演習（看護学科、60 時間）

非常勤講師：北星学園大学（中国語）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、留学生別科（別科長）、キャリア学修支援センター、カリキュラム委員会、自己点検・評価委員会、教務委員会、兼任教員、入学前課題担当、看護学科カリキュラム検討会、オープンキャンパス入試対策講座（小論文編、真栄・恵み野各 1 回）、バトミントン部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本言語学会、日本中国語学会（評議員、北海道支部幹事）、北海道民族学会（運営委員）、社会言語科学会、中国人文学会、家畜資源研究会
科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤 B）「タイ文化圏に関する言語事典の編纂に向けて」分担者
（平成 30 年度～令和 4 年度）、

社会活動：

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」共同研究員（平成 30 年度～令和 3 年度）

顕彰：北海道民族学会特別賞

氏名 工藤 悦子 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：

小児看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

小児看護学概論（30 時間）、小児看護援助論（30 時間）、小児看護学実習（90 時間）、看護を知る（15 時間）、看護研究演習 I（旧看護ゼミナール III）（30 時間）、看護ゼミナール IV（30 時間）、看護研究演習 II（旧看護研究演習）（60 時間）、臨床看護技術演

習 (30 時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：1 日体験入学担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本思春期学会、
日本看護科学学会、北海道成育看護研究会、日本教育工学会

科学研究費（研究資金）の取得：

基盤研究（C）「小児看護学実習に携わる看護師のための循環型現任教育プログラムの開発と評価」・研究代表者

基盤研究（C）「子どもと家族へのグリーフサポートにおけるコミュニティケアの検証と再構築の試み」・研究分担者

日本医療大学教育向上研究費「本学看護学生と熟練看護師の視線分析を活用したシミュレーションプログラムの構築」・研究分担者

社会活動：

北海道看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言、
小児・周産期看護ケア検討会企画・運営

顕彰：なし

氏名 滋野 和恵 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：

精神看護学

教育活動：

責任科目：

精神看護学援助論（3 年次前期、1 単位 30 時間）、精神看護学実習（3 年次後期、
2 単位 90 時間）、看護研究（3 年次前期、1 単位 30 時間）、看護研究演習（4 年次通年、
2 単位 60 時間）

担当科目：

精神看護学援助論（30 時間）、精神看護学実習（360 時間）、看護研究（30 時間）、
看護研究演習（60 時間）、看護を知る（15 時間）、看護ゼミナール I（30 時間）、
看護研究演習 I（30 時間）、統合実習（180 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会、FD 委員会、実習検討会、カリキュラム検討会、体験入学

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本応用心理学会、SST 普及協会、

日本精神科看護協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言者、
北海道看護協会推薦委員会推薦委員

顕彰：なし

氏名 高儀 郁美 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：

成人看護学

教育活動：

責任科目：成人看護援助論 I（2 年次後期 1 単位 30 時間、30 時間）

担当科目：

看護を知る（16 時間）、成人看護学概論（4 時間）、成人看護援助論 I（30 時間）、
成人看護学特論（20 時間）、成人看護学実習 I（90 時間）、成人看護学実習 II
（90 時間）、看護研究演習 I（30 時間）、看護研究演習 II（30 時間）、
臨床看護技術演習（技術試験評価）（6 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

人権擁護委員会、ハラスメント相談員、看護を知る、看護研究演習 I、
看護研究演習 II、2 年生副担任担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本死の臨床研究会、日本死の臨床研究会北海道支部、日本行動療法学会、
日本ヒューマンケア心理学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究
学会、日本家族看護学会、日本建築学会、日本医療福祉設備協会、愛知県看護教育研究
学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

氏名：大村 郁子 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：

母性看護学

教育活動：

責任科目：母性看護援助論（3 年次後期、1 単位、30 時間）

担当科目：

看護を知る (15 時間)、看護ゼミナール I (30 時間)、看護研究演習 I (24 時間)、
母性看護援助論 (30 時間)、看護ゼミナール IV (30 時間)、臨床看護技術演習 (10 時
間)、看護研究演習 (60 時間)、母性看護学実習 (90 時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会、実習検討会、学生担当教員 (4 学年主担任)

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、
日本産前産後ケア・子育て支援学会

科学研究費 (研究資金) の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 合田恵理香 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：

成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

担当科目：成人看護援助論 I (2 年次、2 単位、20 時間)、成人看護学特論 (2 年次、
1 単位、16 時間)、成人看護学実習 I (3 年次、4 単位、180 時間)、成人看護学実習 II
(4 年次、2 単位、90 時間)、看護研究演習 I (3 年次、1 単位、24 時間)、看護研究
演習 (4 年次、2 単位、60 時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

実習検討会、看護研究演習 I 担当グループ、学生担当教員 (1 年生副担任)、
ハラスメント相談員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護学
教育学会、日本ヒューマンケア心理学会、日本看護歴史学会、日本音楽療法学会、
日本統合医療学会

科学研究費 (研究資金) の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 齋藤 道子 学科 看護 職階 講師

専門分野：

感染管理，感染症看護，成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

看護を知る（1年次，1単位，15時間），看護の基本技術論（1年次，2単位，4時間），生活援助技術Ⅰ（1年次，1単位，12時間），成人看護援助論Ⅰ（2年次，1単位，12時間），成人看護学特論（2年次，1単位，14時間），成人看護援助論Ⅱ（3年次，1単位，12時間），成人看護援助論Ⅲ（3年次，1単位，20時間），感染管理（3年次，1単位，15時間），看護ゼミナールⅠ（2年次，1単位，30時間），看護研究演習Ⅰ（3年次，1単位，30時間），看護研究演習Ⅱ（4年次，2単位，60時間），臨床看護技術演習（4年次，1単位，12時間），成人看護学実習Ⅰ（3年次，4単位，180時間×2）

非常勤講師：

和洋女子大学（成人看護学，脳神経機能に障害がある人への看護）

学内委員会・学科内業務等：

看護学科カリキュラム検討委員会，オープンキャンパス担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本環境感染学会（ISO/TC304国内審議委員会，委員），日本感染看護学会，日本看護研究学会，日本NP学会

科学研究費（研究資金）の取得：

1. 2020年度 若手研究「個室隔離されている感染症患者への心理的ケアに着眼した看護師教育プログラムの開発」研究代表者
2. 2020年度 基盤研究（C）（一般）「小児看護学実習に携わる看護師のための循環型現任教育プログラムの開発と検証」研究分担者
3. 2020年度 教育向上研究費「本学看護学生と熟練看護師の視線分析を活用したシミュレーションプログラムの構築」共同研究者

社会活動：

1. 感染症対策のための実地研修：実施主体～厚生労働省（株式会社三菱総合研究所へ委託）北海道内の介護施設2件実施
2. 個人防護具の着脱研修：本学系列施設1件実施

顕彰：なし

氏名 福島 眞里 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：

母性看護学

教育活動：

責任科目：看護研究演習 I（3 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：

母性看護援助論（30 時間）母性看護学実習（90 時間）看護を知る（15 時間）

看護研究演習 I（30 時間）看護研究演習（60 時間）看護ゼミナールIV（30 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

F D委員会・オープンキャンパス/キャンパスツアーWG、看護研究演習 I 担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性衛生学会、

日本思春期学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 村上 牧子 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：

成人看護学（急性期・慢性期）、看護管理、災害看護

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

成人看護学援助論 I（2 年次後期、1 単位 30 時間）成人看護学特論（2 年次後期、

1 単位 30 時間）成人看護学実習 I（3 年次後期、4 単位 180 時間）、看護研究演習 I

（3 年次通年 1 単位 30 時間）看護研究演習 II（4 年次通年 1 単位、30 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

北海道看護協会、日本看護協会、日本看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 吉田 香 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：

基礎看護学、看護教育

教育活動：

責任科目：

生活援助技術Ⅱ（1年次、1単位、30時間）、生活援助技術Ⅲ（1年次、1単位、30時間）

担当科目：

生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、30時間）、生活援助技術Ⅲ（1年次、1単位、30時間）、診療過程の援助技術（2年次、1単位、30時間）、看護ヘルスアセスメント論（2年次、1単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、看護研究演習Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）、看護研究（4年次、2単位、60時間）、看護ゼミナールⅢ（3年次、1単位、30時間）、統合実習（4年次、2単位、90時間）、看護研究演習Ⅱ（4年次、2単位、60時間）、臨床看護技術演習（4年次、1単位、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

実習検討会、学生募集必達プロジェクト、オープンキャンパス、一日体験入学

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、看護科学研究学会、北海道医療大学看護福祉学部学会、日本看護協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 大久保 未央 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：

老年看護

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

老年看護援助論Ⅰ（2年次後期、1単位、30時間）、老年看護学実習Ⅰ（3年次後期、

2 単位, 90 時間), 老年看護学実習 II (4 年次前期, 2 単位, 90 時間), 看護研究演習 I (3 年次, 通年, 30 単位)

非常勤講師: なし

学内委員会・学科内業務等: なし

学術活動:

所属学会・研究会等: 日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本老年看護学会, 日本口腔ケア学会, 日本認知療法・認知行動療法学会, 集団認知行動療法研究会, 北海道公衆衛生学会

科学研究費(研究資金)の取得: なし

社会活動: なし

顕彰: なし

氏名 後藤理香 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:

在宅看護、公衆衛生看護

教育活動:

責任科目: なし

担当科目:

在宅看護援助論 I (15 時間)、在宅看護援助論 II (15 時間)、在宅看護学概論 (3 時間)、在宅看護論実習 (604 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)、ゼミナール I (27 時間)、ゼミナール IV (18 時間)、看護研究演習 I (27 時間)、看護研究演習 II (60 時間)

非常勤講師: なし

学内委員会・学科内業務等: 1 日体験入学、看護実習検討会、

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本看護科学学会、日本公衆衛生看護学会、日本地域看護学会、北海道公衆衛生学会、日本母性衛生学会、日本看護研究学会

科学研究費(研究資金)の取得: なし

社会活動: なし

顕彰: なし

氏名 菅原 美保 学科 看護学科 職階 助教

専門分野: 小児看護学

教育活動:

責任科目: なし

担当科目：

小児看護学援助論Ⅰ（30時間）、小児看護学援助論Ⅱ（30時間）、看護を知る（30時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、看護研究演習Ⅰ（30時間）、看護研究演習Ⅱ（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター、実習検討会、庶務

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児看護学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 竹之内 優美 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：

基礎看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

看護の基本技術論（1年次、2単位、4時間）、生活援助技術Ⅰ（1年次、2単位、16時間）、生活援助技術Ⅱ（1年次、2単位、22時間）、生活援助技術Ⅲ（1年次、2単位、12時間）、看護過程論（2年次、2単位、14時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）、看護ゼミナールⅠ（2年次、2単位、30時間）、看護研究演習Ⅰ（3年次、2単位、30時間）、看護研究（3年次、2単位、2時間）、看護研究演習（4年次、4単位、60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、看護学科1日体験入学

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護倫理学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本心理学会、日本健康心理学会、北海道心理学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

氏名 服部 かおる 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：

老年看護学

教育活動：

責任科目:なし

担当科目：

老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、看護を知る、
看護ゼミナールⅠ・Ⅱ、看護研究演習Ⅰ・Ⅱ

非常勤講師：学校法人大原学園大原医療福祉専門学校

学内委員会・学科内業務等：実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本精神保健看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 和田 ゆい 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：

基礎看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

看護学概論（1年次、2単位、2時間）、看護の基本技術論（1年次、2単位、30時間）、
生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、30時間）、生活援助技術Ⅱ（1年次、1単位、30時
間）、生活援助技術Ⅲ（1年次、1単位、30時間）、診療過程の援助技術（2年次、1単
位、

2時間）看護過程論（2年次、1単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年生、1単位、
45時間）基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）、統合実習（4年次、2単位、
30時間）、看護研究演習Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、看護研究演習Ⅱ（4年次、1単
位、30時間）、臨床看護技術演習（4年次、1単位、2時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本認知症ケア学会、日本老年看護学会、
北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 鳥塚 あゆみ 学科 看護学科 職階 助手

専門分野：

成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

看護を知る（1年次、1単位、15時間）、看護ゼミナールⅠ（2年次、1単位、30時間）、看護研究演習Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、看護研究演習Ⅱ（4年次、1単位、30時間）、成人看護援助論Ⅰ（2年次、1単位、14時間）、成人看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、

8時間）、成人看護援助論Ⅲ（3年次、1単位、22時間）、成人看護学特論（2年次、1単位、14時間）、成人看護学実習Ⅰ（3年次、4単位、180時間×2）、成人看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）、統合実習（4年次、2単位、90時間×2）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：1日体験入学WG、親睦会役員、庶務係

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本造血細胞移植学会、日本看護研究学会

科学研究費（研究資金）の取得：

令和2年度札幌医科大学学術振興事業助成金・研究代表者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 難波 亨 学科 看護学科 職階 助手

専門分野：

在宅看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

在宅看護学概論（6時間）、在宅看護援助論Ⅰ（18時間）、在宅看護援助論Ⅱ（12時間）、在宅看護学実習（90×6時間）、看護研究演習Ⅰ（22時間）、

看護研究演習Ⅱ（30時間）、臨床看護技術演習（12時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、

看護ゼミナールⅡ（14時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会

学術活動：所属学会・研究会等：看護総合科学研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 山下 亜季 学科 看護学科 職階 助手

専門分野：

老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

老年看護学概論（30時間）、老年看護援助論Ⅰ（30時間）、老年看護援助論Ⅱ（30時間）、老年看護学実習Ⅰ（90時間）、老年看護学実習Ⅱ（90時間）、看護研究演習Ⅰ（30時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：なし

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

11-1-③リハビリテーション学科教員

氏名 向井 康詞 学科 リハビリテーション学科 職階 教授、学科長

専門分野：

解剖学、運動器障害、運動生理学

教育活動：

責任科目：

解剖学Ⅰ（1年次前期、2単位30時間）、解剖学Ⅱ（1年次後期、2単位30時間）
解剖学演習（1年次前期、2単位60時間）、臨床判断学（基礎編）（2年次後期、

1 単位 30 時間)、臨床判断学 (応用編) (3 年次後期、1 単位 30 時間)

担当科目:

解剖学 I (30 時間)、解剖学 II (30 時間)、解剖学演習 (60 時間)、臨床判断学 (基礎編) (30 時間)、臨床判断学 (応用編) (30 時間)、卒業研究 I (30 時間)、卒業研究 II (60 時間)

非常勤講師: なし

学内委員会・学科内業務等:

運営委員会、教務委員会、自己点検評価委員会、入試委員会、入学者選抜委員会、人権擁護委員会、不正調査委員会、ハラスメント防止委員会、解剖学見学実習担当、

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、日本義肢装具学会、運動生理学会
科学研究費 (研究資金) の取得: なし

社会活動: 恵庭長寿大学運営委員

顕彰: なし

氏名 大堀 具視 学科 リハビリテーション学科 職階 教授 専攻長

専門分野:

作業療法 (身体障害)

教育活動:

責任科目:

作業療法概論 (1 年次、1 単位、30 時間) 発達障害作業治療学 (3 年次、2 単位、60 時間) 身体障害作業治療学 (3 年次、2 単位、60 時間) 日常生活適応学 (3 年次、2 単位、60 時間) 作業療法セミナーⅢ (3 年次、1 単位、30 時間) チーム医療論 (3 年次、1 単位、15 時間) リハビリテーション管理学 (4 年次、1 単位、15 時間)

非常勤講師:

IMS 札幌内科リハビリテーション病院臨床指導、特別養護老人ホーム芦別慈恵園介護指導、特別養護老人ホーム和寒芳生苑介護指導、グループホーム真栄現場指導、グループホーム清田現場指導

学内委員会・学科内業務等:

作業療法学専攻長、キャリア学修支援センター、研究倫理委員会、不正調査委員会、FD 委員会、カリキュラム委員会、入学者選抜委員会、入試委員会、研究費審査委員会、国際交流委員会

学術活動:

所属学会・研究会等:

(社) 日本作業療法士協会、(公社) 北海道作業療法士会、作業療法研究学会、

日本生態心理学会、地域リハビリテーション研究会、日本ボバース研究会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

北海道作業療法士連盟代表、北海道リハビリテーション専門職協会事務局員、学術誌「作業療法」編集委員、学術誌「作業療法の実践と科学」査読委員、札幌市介護認定審査会委員、オムツフィッター1級研修講師（2020年8月24日：ラポール京都）、芦別市みんなで介護考える会 講演会講師（2020年9月13日：オンライン）、千歳市絆の会研修講師（2020年9月15日、11月12日：千歳市民文化センター）

顕彰：なし

氏名：乾 公美 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：

運動療法学、義肢装具学、神経筋促通治療学（PNF）、骨格筋生理学

教育活動：

責任科目：

運動療法学（2年次、1単位、30時間）、運動療法学演習（2年次、1単位、30時間）、
神経筋促通治療学（3年次、1単位、30時間）、研究法（3年次、1単位、30時間）、
卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（4年次、2単位、60時間）

担当科目：

運動療法学（30時間）、運動療法学演習（60時間）、神経筋促通治療学（30時間）、
研究法（30時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）、卒業研究Ⅱ（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本リハビリテーション医学会、
日本義肢装具学会、日本生理学会、日本体力医学会、日本PNF学会（理事）、
北海道リハビリテーション学会（評議員）、北海道理学療法士会（表彰審査委員会委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：恵庭市長寿大学運営委員会委員

顕彰：なし

氏名 佐藤 秀紀 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：

保健福祉学、老年社会科学、リハビリテーション学

教育活動：

責任科目：

リハビリテーション論（1年次、2単位、30時間）、地域理学療法学（3年次、1単位、

30 時間)、生活環境学(3 年次、1 単位、30 時間)、高齢期障害理学療法学(3 年次、1 単位、30 時間)

担当科目：

リハビリテーション論(30 時間)、地域理学療法学(8 時間)、生活環境学(30 時間)、
高齢期障害理学療法学(30 時間)、臨床実習

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健福祉学会（査読委員）、日本社会福祉学会（査読委員）、
日本老年社会科学学会（査読委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 高橋 光彦 学科 リハビリテーション 職階 教授

専門分野：

運動療法学、物理療法学、呼吸器系理学療法学、運動学

教育活動：

責任科目：

運動学（2 年次前期、4 単位 30 時間、30 時間）運動学演習（2 年次後期、1 単位
15 時間、15 時間）呼吸・循環器障害理学療法学(2 年次後期、1 単位 15 時間、
15 時間)物理療法学（3 年次前期、1 単位 15 時間、15 時間）物理療法学演習
（3 年次前期、1 単位 15 時間、15 時間）臨床実習Ⅱ(3 年次後期、3 単位 45 時間、
3 時間)

担当科目：

生理学演習（2 年次前期、1 単位 15 時間、12 時間）研究法(3 年次前期、1 単位 15 時
間、1 時間)卒業研究Ⅰ(3 年後期、1 単位 15 時間、15 時間)

非常勤講師：北海道柔道整復師専門学校(リハビリテーション医学、運動学)

北星学院大学(リハビリテーションⅡ)

学内委員会・学科内業務等：

教授会、日本医療大学認知研究所研究員、チューター、学生団体サークル
「サッカーサークル」「恵み野バドミントンサークル」

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本体力医学会、
北海道リハビリテーション学会

科学研究費（研究資金）の取得：厚労省科学研究費(難治性疾患等克服研究事業)

社会活動： 恵庭市社会福祉審議会・障害者福祉専門部会委員

顕彰：特になし

氏名 八田 達夫 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：

作業療法学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：発達障害作業治療学（10時間）、作業療法特論（シーティング）（10時間）

非常勤講師：

北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻 職業関連作業療法学（6時間）、

北星学園大学社会福祉学部 リハビリテーション論I（30時間）

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：ノテ福祉会特別養護老人ホームふるさとにて実施しているスヌーズレンの支援（週2回）

顕彰：なし

氏名 岸上 博俊 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：

高齢期作業療法 地域作業療法

教育活動：

責任科目：

地域リハビリテーション論 2年次（前期）30時間、地域リハビリテーション演習

2年次（後期）8時間、高齢期障害作業治療学 3年次（通年）60時間、日常生活適

応学（ADL）3年次（前期）40時間、作業療法治療学特論（治療理論）3年次

（後期）30時間、作業療法治療学特論（シーティング）3年次（後期）20時間

担当科目：

作業療法概論、身体障害作業治療学（中枢神経系）3年次（後期）20時間、卒業研究

Ⅱ4年次（通年）60時間、臨床実習Ⅰ2年次（後期）、臨床実習Ⅱ3年次（後期）、

臨床実習Ⅲ4年次（前期）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、自己点検評価委員会（委員長）教務委員会、図書・学術振興委員会、

カリキュラム委員会、リハビリテーション学科カリキュラム委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会（理事）、障害学会、日本作業科学研究会
作業療法を社会学・障害学する研究会

科学研究費（研究資金）の取得：株）クオリとの椅子制作に関わる受託研究費

社会活動：札幌市内における訪問作業療法実施

顕彰：なし

氏名 石橋 晃仁 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：

神経系理学療法学

教育活動：

責任科目：

理学療法セミナーⅠ（1年次後期、1単位、30時間）、理学療法セミナーⅡ（2年次後期、1単位、30時間）、理学療法セミナーⅢ（3年次前期、1単位、30時間）、神経障害理学療法学（3年次前期、1単位、30時間）、神経障害理学療法学演習（3年次前期、1単位、30時間）、日常生活活動基礎学（3年次前期、1単位、30時間）、

担当科目：

理学療法セミナーⅠ（1年次後期、30時間）、理学療法セミナーⅡ（2年次後期、30時間）、理学療法セミナーⅢ（3年次前期、30時間）、神経障害理学療法学（3年次前期、30時間）、神経障害理学療法学演習（3年次前期、30時間）、日常生活活動基礎学（3年次前期、30時間）、チーム医療論（3年次前期、2時間）、卒業研究Ⅰ（3年次後期、30時間）、卒業研究Ⅱ（4年次通期、60時間）、リハビリテーション管理学（4年次後期、8時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

キャリア学修支援センター運営委員、学生委員会委員、教務委員会委員、入学者選抜委員会委員、教員選考委員、ハラスメント相談員、理学療法学専攻2年生学生担当教員、理学療法学専攻ワーキング（臨床実習、就職支援、国試対策）、軟式野球部顧問、スケート部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、北海道理学療法士会（社会局介護予防・健康増進支援部長）、
認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、
日本リハビリテーションスポーツ学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

札幌市理学療法赤十字奉仕団 副委員長、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック 幹事、札幌刑務所高齢・障害受刑者用社会復帰支援プログラム「基本的生活動作訓練」 講師、北海道理学療法士会 介護予防推進リーダー導入研修会 講師、

STV ラジオ「工藤じゅんきの十人十色」ツルハ千年カメは万年健康一口メモゲスト出演

顕彰：なし

氏名 及川 直樹 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：

身体障害作業療法学，義肢装具学，福祉用具学

教育活動：

責任科目：

作業療法評価学演習（骨・関節系）（2 年次，1 単位，30 時間），身体障害作業治療学（運動器・内部障害系）（3 年次，1 単位，30 時間），義肢装具作業療法学（3 年次，1 単位，15 時間），義肢装具作業療法学演習（3 年次，1 単位，15 時間），福祉用具学（3 年次，1 単位，15 時間）

担当科目：

体表解剖学（45 時間），日常生活適応学（ADL）（6 時間），作業療法治療学特論（ハンドセラピー）（4 時間），作業療法学概論（1 時間）

非常勤講師：札幌リハビリテーション専門学校（作業療法各論），羊ヶ丘病院

学内委員会・学科内業務等：

教授会，研究倫理委員会，人権擁護委員会，キャリア学修支援センター部門員，作業療法学専攻 3 学年担任，作業療法学専攻臨床実習担当教員，作業療法学専攻国家試験対策担当教員，作業療法学専攻就職活動支援担当教員，障害学生支援員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本肩関節学会，日本作業療法士協会，北海道作業療法士会，北海道ハンドセラピー研究会（幹事）

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：

学術誌「作業療法」査読者，学術誌「作業療法の実践と科学」査読者，北海道作業療法士会学術部編集委員，羊ヶ丘病院臨床・研究指導，置戸高校デリバリークラス，旭川商業高校進路講話，北見緑陵高校進路講話，道都大学バスケットボール部メディカルチェック，札幌市立清田中学校バスケットボール部メディカルチェック・大会サポート，北海道ハンドセラピー研究会教育講演，羊ヶ丘病院杯女子軟式野球大会メディカルブース

顕彰：なし

氏名 西山 徹 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：

義肢装具学、身体運動学

教育活動：

責任科目：

義肢装具学 (3 年次、1 単位、15 時間)、義肢装具学演習 (3 年次、1 単位、15 時間)、
理学療法評価学 (運動器系) (2 年次、1 単位、15 時間)

担当科目：

義肢装具学 (3 年次、1 単位、15 時間)、義肢装具学演習 (3 年次、1 単位、15 時間)、
理学療法評価学 (運動器系) (2 年次、1 単位、15 時間)、理学療法評価学 (神経系)
(2 年次、1 単位、30 時間)、理学療法評価学演習 (運動器系) (2 年次、2 単位、
60 時間)、理学療法評価学演習 (運動器系) (2 年次、2 単位、60 時間)、運動学演習
(2 年次、1 単位、30 時間)、臨床判断学 (基礎編) (2 年次、1 単位、30 時間)、
義肢装具作業療法学 (3 年次、1 単位、4 時間)、災害リハビリテーション (3 年次、
1 単位、2 時間)、臨床実習 I (理学療法) (2 年次、1 単位、6 時間)、臨床実習 II
(理学療法) (3 年次、3 単位、12 時間)、臨床実習 III (理学療法) (4 年次、16 単位、
12 時間)、卒業研究 I (3 年次、1 単位、30 時間)、卒業研究 II (4 年次、2 単位、
60 時間)

非常勤講師：

北海道医療大学 (義肢装具学 II)、札幌リハビリテーション専門学校
(義肢関連理学療法)

学内委員会・学科内業務等：

教授会、カリキュラム委員会、人権擁護委員会、FD 委員会、
遠隔講義ワーキンググループ、学生担当教員 (4 年生)、恵み野バレーボール部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、日本 PNF 学会、日本理学療法科学学会、
臨床歩行分析研究会

科学研究費 (研究資金) の取得：

科研費 (基盤研究 C (一般)) 「模擬義足を用いた新しい歩行練習に関する基礎的研究」
研究代表者 (2019 年度～2021 年度)

社会活動：

北海道理学療法士学術大会 査読委員、
介護職員初任者研修講師 日本医療大学生涯学習センター

顕彰：なし

氏名 矢口 智恵 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：

神経生理学、運動生理学、姿勢制御

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：卒業研究Ⅱ（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本健康行動科学会（編集委員、評議員）、日本理学療法士協会、
Society for Neuroscience、日本臨床神経生理学会、日本生理人類学会（評議員）

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究（C）（一般））「高齢者における体性感覚と視覚への注意分散と姿勢制御の関連」研究代表者、科研費（基盤研究（C）（一般））「随意的な前・後傾姿勢運動時の位置感覚情報への注意と脳の活性化」研究分担者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 合田 央志 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：

福祉用具学，福祉住環境論，

教育活動：

責任科目：

情報科学演習（1年前期、1単位、15時間）、基礎作業学演習（1年前期、1単位、15時間）、作業療法評価学演習（基礎評価）（2年前期、1単位、15時間）

担当科目：

作業療法評価学演習（基礎）（2年前期、1単位、15時間）、基礎作業学演習（1年後期、1単位、15時間）、作業療法評価学演習（神経・筋力系）、（1年後期、1単位、15時間）、作業療法評価学演習（骨・関節系）（1年前期、1単位、15時間）、作業療法セミナーⅡ（2年後期、1単位、15単位）、生理学演習（2年前期、1単位、30時間）、運動学演習（2年後期、1単位、15時間）、卒業研究Ⅰ（3年後期、1単位、15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：FD委員会，図書学術振興委員会，相互授業参観

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法学会、北海道作業療法士会、北海道作業療法学会
(演題査読委員)、日本リハビリテーション工学カンファレンス

科学研究費(研究資金)の取得：日本医療大学教育向上費取得

社会活動：全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック 幹事
美幌社会福祉協議会の講演

顕彰：なし

氏名 清本 憲太 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：

疼痛、知覚、整形外科学、作業療法学

教育活動：

責任科目：

作業療法学セミナー I (1年次、1単位、30時間)、作業療法評価学(2年次、1単位、30時間)、作業療法評価学演習(中枢神経系)(2年次、2単位、30時間)、
作業療法評価学演習(神経・筋力系)(2年次、2単位、30時間)、
作業療法治療学特論(ハンドセラピー)(3年次、1単位、30時間)

担当科目：

基礎作業学演習(30時間)、作業療法評価学演習(基礎評価)(30時間)、
作業療法治療学(内部障害・運動器障害)(30時間)、作業療法治療学(中枢神経系)
(60時間)、日常生活適応学(ADL)(60時間)、生理学演習(30時間)、

非常勤講師：

埼玉県立大学(身体機能作業療法学演習(基礎))、札幌リハビリテーション専門学校
(作業療法特論 ハンドセラピー)、藤女子大学(日常生活活動)、我汝会えにわ病院
(非常勤作業療法士)

学内委員会・学科内業務等：

学科内カリキュラム検討委員会、臨床実習担当(専攻内)、OSCE運営委員、
学生担当教員(1年生)

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、日本ハンドセラピー学会、日本骨粗鬆症学
会、日本骨代謝学会、日本作業療法研究学会、北海道整形災害外科学会、北海道骨粗鬆
症研究会、北海道作業療法士会(教育部員)、北海道ハンドセラピー研究会(理事)

科学研究費(研究資金)の取得：

日本医療大学学術助成費(触覚障害に対する知覚再学習の作用とプログラムの開発
-神経損傷後の知覚リハビリテーションの検討：代表者)、日本医療大学学術助成費
(サポーターの使用による、投球数と肘関節尺側副靭帯の距離の検討：分担者)、

日本医療大学教育向上研究費（本学の臨床参加型実習と客観的能力試験の実施が卒業後の臨床力に及ぼす影響－COVID-19による臨床実習の経験の制限も含めて－：分担者）

社会活動：

作業療法ジャーナル論文査読委員、日本作業療法士協会学会演題審査委員、北海道作業療法士会学会演題審査委員、北海道作業療法士会教育部員

顕彰：なし

氏名 松崎（木原） 由里子 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：

地域理学療法学，高齢者理学療法学，公衆衛生学

教育活動：

責任科目：

地域リハビリテーション学演習（2年次，1単位，2時間），理学療法評価学演習（運動器系）（2年次，2単位，60時間）

担当科目：

地域理学療法学（3年次，1単位，12時間），理学療法評価学（運動器系）（2年次，1単位，30時間），生理学演習（2年次，1単位，30時間），運動学演習（2年次，1単位，6時間），災害リハビリテーション（3年次，1単位，15時間），卒業研究Ⅰ（3年次，1単位，30時間），卒業研究Ⅱ（3年次，1単位，30時間）

非常勤講師：札幌医科大学（地域理学療法学，高齢者理学療法学）

学内委員会・学科内業務等：ハラスメント相談員，チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会，日本公衆衛生学会，日本国際保健医療学会，応用老年学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

理学療法学（査読委員），北海道理学療法士会 社会局介護予防・健康増進支援部（部員），日本理学療法士協会 新人教育プログラム（講師），独立行政法人国際協力機構（JICA）国際緊急援助隊（登録者），北海道リハビリテーション専門職協会（HARP）2020年地域包括ケアシステムにおける介護予防アドバイザー養成研修（講師）

顕彰：なし

氏名 村上 元 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：

精神障害作業療法

教育活動：

責任科目：

精神障害作業治療学(3年次、2単位、60時間)、就労支援作業療法学(3年次、1単位、30時間)、作業療法セミナーⅡ(2年次、1単位、30時間)

担当科目：

生理学演習(2年次、1単位、30時間)、作業療法概論(1年次、1単位、2時間)、作業療法評価学演習(基礎)(2年次、1単位、8時間)、地域リハビリテーション学演習(2年次、1単位、30時間)、発達障害作業治療学(3年次、2単位、20時間)、卒業研究Ⅰ(3年次、1単位、60時間)

非常勤講師：

北星学園大学(社会的スキル実習、8時間)、札幌医科大学(精神障害作業療法治療学、2時間)

学内委員会：学生委員会：ハラスメント委員会、人権擁護委員

学内業務：作業療法学専攻2年生担任、聴覚障害学生学科内支援担当、専攻内実習担当、専攻内国家試験担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

北海道作業療法士会(論文審査委員)、日本作業療法士協会、SST普及協会(北海道支部副支部長、学術委員)、日本認知療法・認知行動療法学会、日本認知・行動療法学会、日本パーソナリティ心理学会

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：

作業療法ジャーナル 査読者、恵庭市長寿大学 うつ病の予防・リハビリテーション

① 2020年10月14日、恵庭市長寿大学、うつ病の予防・リハビリテーション

② 2020年11月4日、道央地域農業版ジョブコーチ育成研修会(ベーシック研修)

講師 障がい者の特性と理解について 2020年9月11日、道央地域農業版ジョブコーチ育成研修会(スキルアップ研修) 講師 障がい者と作業の細分化について 2020年10月21日、北海道作業療法士協会事業部アドバンス研修、精神障害作業療法における多職種連携 講師 院内を超えたネットワークづくりのポイント 2021年1月15日、恵庭市農福連携シンポジウム 講師 障がい者の就労支援のポイント 2021年2月4日

顕彰：なし

氏名 坂口 友康 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野：

地域理学療法、高齢者、認知症、サルコペニア、理学療法評価、痛み

教育活動：

責任科目：

理学療法評価学（神経系）（2年次、1単位、30時間）※2クラスのため15×2時間、
理学療法評価学演習（神経系）（2年次、2単位、60時間）※2クラスのため
30×2時間

担当科目：

理学療法評価学（運動器）（2年次、1単位、14時間）※2クラスのため7×2時間、
理学療法評価学演習（運動器）（2年次、1単位、30時間）※2クラスのため15×2
時間、理学療法評価学（神経系）（2年次、1単位、16時間）※2クラスのため8×2
時間、理学療法評価学演習（神経系）（2年次、2単位、30時間）※2クラスのため
15×2時間、臨床判断学（基礎編）（2年次、1単位、15時間）、解剖学演習（1年次、
2単位、
30時間）※1クラスのみ、地域理学療法学（3年次、1単位、2時間）、理学療法セミ
ナーⅢ（3年次、1単位、16時間）、卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、卒業研
究Ⅱ（4年次、2単位、60時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（3年次、3単位、8時間）、
臨床実習Ⅲ（理学療法）（4年時、16単位、32時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

募集必達プロジェクト（学内）、学生就職サポート教員（学科内業務）、学科会議議事
録係（学会内業務）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 渋川 佳彦 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野：

バイオメカニクス

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

生理学演習（2年、1単位、30時間）、理学療法評価学（運動器系）（2年、1単位、

30時間)、理学療法評価学演習(運動器系)(2年、2単位、60時間)、理学療法評価学(神経系)(2年、1単位、30時間)、理学療法評価学演習(神経系)(2年、2単位、60時間)、運動療法学演習(2年、1単位、30時間)、臨床実習Ⅰ(2年、2単位、90時間)、臨床実習Ⅱ(3年、3単位、135時間)、臨床実習Ⅲ(4年、16単位、720時間)、卒業研究Ⅰ(3年、2単位、60時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

理学療法学専攻第1学年担任、国家試験係(学科内)、臨床実習係(学科内)、
親睦会(学科内)

学術活動：

所属学会・研究会等：

社団法人(現公益社団法人)日本理学療法士協会および北海道理学療法士会会員、
特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会会員、
一般社団法人理学療法科学学会会員

科学研究費(研究資金)の取得：

日本医療大学学術助成費「高齢者の歩行時における非予測下での方向転換動作の運動戦略と注視点の移動に関する生体力学的解析」代表者 渋川佳彦

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名：新開谷 深 学科：リハビリテーション学科 職階：助教

専門分野：

運動器理学療法、徒手理学療法

教育活動：

責任科目：

体表解剖学(1年次、1単位、30時間)、運動学Ⅰ(1年次、2単位、30時間)、
徒手関節治療学(3年次、1単位、30時間)、軟部組織治療学(3年次、1単位、30時間)

担当科目：

体表解剖学(1年次、30時間)、運動学Ⅰ(1年次、30時間)、徒手関節治療学
(3年次、30時間)、軟部組織治療学(3年次、30時間)、解剖学演習(1年次、60時間)、
運動学演習(2年次、30時間)、理学療法セミナーⅠ(1年次、30時間)、理学療法セミナーⅡ、
(2年次、30時間)、臨床判断学(応用編)(3年次、30時間)、卒業研究Ⅱ
(4年次、30時間)

非常勤講師：北翔大学(健康運動実践論)

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、国家試験・実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：公益(社)日本理学療法協会、公益(社)北海道理学療法士会、
日本整形徒手療法協会 日本運動器徒手療法学会、マニュアルセラピー研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道理学療法士会 学会研修部および総務部

顕彰：なし

氏名 三浦 紗世 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野：

予防、高齢者、評価

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：所属学会・研究会等：理学療法科学学会、日本理学療法士協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

11-1-④診療放射線学科教員

氏名 渡邊 良晴 学科 診療放射線学科 職階 教授 学科長

専門分野：

放射線治療技術学

教育活動：

責任科目：

放射線治療技術学概論、放射線治療技術学、放射線治療計測学、放射線治療技術学演習、診療画像技術学実験Ⅱ、

担当科目：卒業研究、放射線技術学特別講義、総合演習Ⅰ、Ⅱ

学内委員会・学科内業務等：

運営委員会、教務委員会、自己点検・評価委員会、入学試験委員会、入学者選抜委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、ハラスメント防止委員会、学生募集対策委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会、日本医学物理学会、日本放射線腫瘍学会、日本アイソトープ協会

科学研究費（研究資金）の取得： なし

社会活動：

日本医療大学 生涯学習講座、一般社団法人日本放射線治療専門技師認定機構 監事
顕彰：なし

氏名：河原田 泰尋 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野：

放射線管理・計測学、医療放射線物理学

教育活動：

責任科目：

放射線安全管理学（3年次、2単位、30時間）、医療機器安全管理学（4年次、1単位、15時間）、放射線計測学演習（4年次、1単位、30時間）、放射線カウンセリング学（4年次、1単位、15時間）

担当科目：

医用工学実験（2年次、1単位、45時間）、総合演習Ⅰ（4年次、1単位、30時間）、総合演習Ⅱ（4年次、1単位、30時間）、卒業研究（4年次、4単位、60時間）、臨床実習Ⅰ（3年次、4単位、180時間）、臨床実習Ⅱ（4年次、6単位、270時間）

学内委員会： なし

学術活動：

所属学会：

日本医療物理学会、日本放射線技術学会、日本放射線技術学会計測部会、日本放射線技師会、北海道放射線技師会、医療放射線防護連絡協議会

科学的研究費（研究資金）の取得：日本医療大学教育向上研究費助成金

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 住吉 孝 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野：

放射線化学、放射化学、物理化学

教育活動：

責任科目：

化学（1年次、1単位 15時間）、放射線物理学（1年次、2単位 30時間）、放射化学

(2年次、2単位30時間)、放射線物理演習(2年次、1単位30時間)

担当科目：

化学(15時間)、放射線物理学(30時間)、放射化学(30時間)、放射線物理演習(30時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本原子力学会(フェロー)、日本放射線化学会、日本アイソトープ協会(特別会員)
科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 俵 紀行 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野：

磁気共鳴医工学、スポーツ医科学、骨成熟評価

教育活動：

責任科目：

放射線科学概論(1年次、1単位、15時間)、画像解剖学Ⅱ(MRI・超音波・造影画像)
(3年次、2単位、30時間)、MRI検査学(3年次、2単位、30時間)、医療安全管理学
(4年次、1単位、15時間)

担当科目：

放射線科学概論(1年次、1単位、15時間)、画像解剖学Ⅱ(MRI・超音波・造影画像)
(3年次、2単位、30時間)、MRI検査学(3年次、2単位、30時間)、医療安全管理学
(4年次、1単位、15時間)、総合演習Ⅰ(専門基礎領域)(4年次、1単位、30時間)、
総合演習Ⅱ(臨床領域)(4年次、1単位、30時間)、卒業研究(4年次、4単位、
120時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

図書・学術振興委員会、入学者選抜委員会、国際交流委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技術学会、日本放射線技術学会 撮影分科会、医用画像情報学会、
日本磁気共鳴医学会、日本医学物理学会、日本骨形態計測学会、日本ヒト脳機能マッ
ピング学会、日本放射線技師会、北海道放射線技師会、ESR(European Society of

Radiology)、SMRT(Section for Magnetic Resonance Technologists)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:一般社団法人日本磁気共鳴医学会代議員

顕彰:なし

氏名 西山 修輔 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野:

プラズマ計測学

教育活動:

責任科目:

数学 I (指数・対数・三角関数) (1 年次、2 単位、30 時間)、数学 II (微分・積分・微分方程式) (1 年次、1 単位、15 時間)、数学 III (統計学) (1 年次、1 単位、15 時間)、電気・電子工学 (2 年次、2 単位、30 時間)、医用工学 (2 年次、2 単位、30 時間)、医用工学実験 (2 年次、1 単位、45 時間)

担当科目:

数学 I (指数・対数・三角関数) (30 時間)、数学 II (微分・積分・微分方程式) (15 時間)、数学 III (統計学) (15 時間)、電気・電子工学 (30 時間)、医用工学 (30 時間)、診療画像機器学 (6 時間)、総合演習 I (専門基礎領域) (4 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:図書・学術振興委員会、研究倫理委員会、FD 委員会

学術活動:

所属学会・研究会等:応用物理学会(プラズマエレクトロニクス分科会幹事)、

プラズマ・核融合学会

科学研究費(研究資金)の取得:

科研費(基盤研究(C))「半導体レーザーを用いた二段励起レーザー誘起蛍光法による

高感度電界計測法の開発」(2020~2022 年度) 代表者、科研費(基盤研究(C))「シア干涉計による非定常三次元屈折率分布計測システム」(2018~2020 年度) 分担者、核融合科学研究所一般共同研究「高温水素/重水素プラズマにおけるドップラーフリー吸収分光法の開発」代表者、核融合科学研究所一般共同研究「水素原子バルマーアルファ線におけるラムディップレーザー誘起蛍光法の開発」分担者、日本医療大学教育向上研究費「大気圧プラズマジェットと水溶液の相互作用に関する分光学的観測」代表者

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 樋口 健太 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野：

保健物理学、環境放射線、放射線公衆安全学、放射化学

教育活動：

責任科目：

医療コミュニケーション学（1年次後期、1単位15時間、15時間）、放射化学演習（2年次後期、1単位30時間、30時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（2年次後期、1単位45時間、45時間）、臨床解剖学演習（3年次前期、1単位30時間、30時間）、画像診断学Ⅱ（胸部・心大血管・消火器他）（4年次前期、2単位30時間、30時間）、画像診断学Ⅲ（演習）（4年次後期、1単位30時間、30時間）、総合演習（臨床領域）（4年次後期、1単位30時間、30時間）、卒業研究（4年次通年、4単位120時間、120時間）

担当科目：

医療コミュニケーション学（1年次後期、1単位15時間、15時間）、放射線物理学実験（2年次前期、1単位45時間、45時間）、放射化学演習（2年次後期、1単位30時間、30時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（2年次後期、1単位45時間、45時間）、臨床解剖学演習（3年次前期、1単位30時間、30時間）、画像診断学Ⅱ（胸部・心大血管・消火器他）（4年次前期、2単位30時間、30時間）、画像診断学Ⅲ（演習）（4年次後期、1単位30時間、30時間）、総合演習（臨床領域）（4年次後期、1単位30時間、30時間）、卒業研究（4年次通年、4単位120時間、120時間）、チーム医療（看護学科2年次後期、1単位15時間、2時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、FD委員会（委員長）、自己点検評価委員会、IR部会、学生委員会、カリキュラム委員会、ハラスメント相談員、懲罰委員会、日本医療大学後援会（役員）、学年担当教員（4年副担当）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、放射線安全取扱部会、日本放射線公衆安全学会、診療放射線学教育学会、日本放射線技師教育学会、北海道放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線技術学会北海道支部会、日本放射線技術学会学術推進員、日本放射線技術学会 北海道支部 放射線計測防護専門委員

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学学術助成費（代表者）、
放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点

社会活動：北海道 FSDS 協議会委員、北海道 FSDS フォーラム実行委員長

顕彰：なし

氏名 木村 徹 学科 診療放射線学科 職階 准教授

専門分野：

医療画像情報学、医療画像工学、医療画像処理学

教育活動：

責任科目：

医療画像処理学、医療画像工学、医療画像情報学、医療画像情報学演習、
診療画像技術学実験Ⅱ

担当科目：

医療画像処理学 (2 年次後期、1 単位 15 時間、15 時間)、医用工学実験 (2 年次前期、
1 単位 45 時間、45 時間)、診療画像技術学実験Ⅱ (3 年次前期、1 単位 45 時間、
45 時間)、医療画像工学 (3 年次前期、2 単位 30 時間、30 時間)、医療画像情報学
(3 年次後期、2 単位 30 時間、30 時間)、医療画像情報学演習 (4 年次後期、1 単位
30 時間、30 時間)、総合演習Ⅰ (4 年次後期、1 単位 30 時間、4 時間)、総合演習Ⅱ
(4 年次後期、1 単位 30 時間、4 時間)、臨床実習Ⅰ (3 年次、4 単位 180 時間、
24 時間)、臨床実習Ⅱ (4 年次、6 単位 270 時間、36 時間)

補講：

国家試験対策 (第 1 種放射線取扱主任者試験対策講義)、(2、3 年生対象前期)、
学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター運営委員会、入学者選抜委員
会、2 学年担任、臨床実習編成統括

学術活動：所属学会・研究会等：

日本アイソトープ協会、日本放射線技術学会、日本教育工学会、診療放射線学教育
学会、日本放射線技師教育学会、生体医工学会、精密工学会、日本保健科学学会
科学研究費 (研究資金) の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 杉本 芳則 学科 診療放射線学科 職階 准教授

専門分野：

放射線技術学、胃 X 線読影技術、予防医学、情報学

教育活動：

責任科目：

情報科学 (1 年次、1 単位、15 時間)、情報科学演習 (1 年次、1 単位、30 時間)、
診療画像技術学概論 (2 年次、1 単位、15 時間)、診療画像技術学Ⅰ (一般撮影)
(2 年次、2 単位、30 時間)、画像解剖学Ⅰ (X 線画像) (2 年次、2 単位、30 時間)

担当科目：

情報科学（15 時間）、情報科学演習（30 時間）、診療画像技術学概論（15 時間）、
診療画像技術学 I（一般撮影）（30 時間）、画像解剖学 I（X 線画像）（30 時間）、
放射線物理学実験（45 時間）、臨床実習 I（180 時間）、臨床実習 II（225 時間）、
総合演習 II（4 時間）、卒業研究指導（120 時間）、国家試験対策補講（2 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会、学生委員会、キャリア学習支援センター運営委員、ハラスメント相談員、
学担（4 年生）、臨床実習巡回

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技術学会、日本 CT 検診学会、日本消化器がん検診学会
（北海道支部放射線研修委員）、日本放射線技師会、日本消化器画像診断情報研究会
（常任世話人）、日本医用画像管理学会、札幌ニューテクノロジー研究会（相談役）、
日本消化器がん検診精度管理評価機構、大阪消化管撮影技術研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名：福山 篤司 学科：診療放射線学科 職階：准教授

専門分野：

磁気共鳴医学、医療技術評価学、診療画像機器学、放射線科学

教育活動：

責任科目：

診療画像機器学（2 年次、2 単位、30 時間）、診療画像技術学 II（造影検査）
（3 年次、2 単位、30 時間）、診療画像機器学演習（3 年次、1 単位、30 時間）、
画像診断学 I（頭部・頸部・脊髄）（3 年次、2 単位、30 時間）

担当科目：

診療画像機器学（30 時間）、診療画像技術学 II（造影検査）（30 時間）、診療画像機
器学演習（30 時間）、画像診断学 I（頭部・頸部・脊髄）（30 時間）、診療画像技術学
概論
（2 時間）、診療画像機器学実験（45 時間）、臨床実習 I（180 時間）、臨床実習 II
（225 時間）、総合演習 II（4 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、自己点検・評価委員会、学生委員会、研究費審査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本磁気共鳴医学会、日本放射線技術学会、4F FLOW 研究会、十勝放射線技師会
科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費 基盤研究（C）「撮像時間短縮技術を使用した MR 画像による血流動態解析の精度検証に関する研究」代表者、日本医療大学令和 2 年度教育向上研究費
「診療放射線技師の養成教育における遠隔実験システムの構築」代表者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 黒藤 邦夫 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野：

診療放射線技術学

教育活動：

責任科目：

担当科目：

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技術学会（代議員）、日本乳癌検診学会（評議員）、日本超音波検査学会、
日本乳癌学会、日本消化器がん検診学会、日本放射線技術学会北海道支部（監事）、
日本乳がん検診精度管理中央機構 技術委員

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：

北海道がん対策委員会 特別委員、札幌市がん対策部会 委員、札幌市健康づくり推進
協議会 臨時委員、ピンクリボン in Sapporo 理事

顕彰：なし

氏名 白石 祐太 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野：

医学物理学、放射線影響、計算機シミュレーション

教育活動：

責任科目：

X 線 CT 検査学（3 年次前期、2 単位、30 時間）、医療情報管理学（4 年次前期、1 単
位、15 時間）、画像解剖学Ⅲ（3 年次後期、1 単位、30 時間）、診療放射線学概論

(1 年次後期、1 単位、15 時間)

担当科目：

診療放射線学概論 (15 時間)、X 線 CT 検査学 (30 時間)、医療情報管理学 (15 時間)、画像解剖学Ⅲ (30 時間)、総合演習Ⅰ (30 時間)、総合演習Ⅱ (30 時間)、診療画像技術学実験Ⅱ (45 時間)、医用工学実験 (45 時間)、放射線物理学実験 (45 時間)、卒業研究 (120 時間)、臨床実習Ⅰ (180 時間)、臨床実習Ⅱ (270 時間)、

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

自己点検評価委員会、研究倫理委員会、FD 委員会、学年担当教員 (3 学年)、学生募集必達グループ、コロナウイルス感染症に関するワーキンググループ、遠隔授業に関するワーキンググループ、親睦会役員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本医学物理学会、Radiological Society of North America

科学研究費 (研究資金) の取得：

日本医療大学教育向上研究費助成金「学生のキャリア・アップ支援プログラム運用について」(分担者)、日本医療大学教育向上研究費助成金「学内実習に向けたモンテカルロシミュレーション環境の構築」(分担者)

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 小笠原 凌介 学科 診療放射線学科 職階 助手

専門分野：

放射線安全管理学

教育活動：なし

責任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：診療放射線学教育学会

科学研究費 (研究資金) の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

11-1-⑤留学生別科教員

氏名 唐 煒 学科 留学生別科 職階 講師

専門分野： 日本語学・中国語学・敦煌学

教育活動：なし（留学生いないため）

責任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：北海道大学（中国語Ⅰ、30時間、中国語演習Ⅱ、30時間）

学内委員会・学科内業務等：

医療福祉マネジメント（新設学科）中国留学生募集用の資料を翻訳、留学生別科の募集要項中国語版の制作、エージェント8か所を開拓及び留学のための各種提案書の作成。別科の授業、教材の準備など。

学術活動：

所属学会・研究会等：日本訓点語学会、東方学会、北海道大学国語国文研究会、漢日言語学会、中国古文字学会、日本漢字学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：財団法人北海道華僑会館副理事長、札幌華僑総会理事、日中文化交流会理事

顕彰：なし

氏名 須藤 むつ子 学科 留学生別科 職階 助教

専門分野： 日本語教育、言語教育法

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本語教育学会、看護と介護の日本語教育研究会
日本語教育方法研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：①介護技能実習生への日本語講習 実施期間6月～11月 合計時間52時間

②介護技能実習生向けEラーニングのコンテンツ作成

③一般社団法人北海道日本語センターによる下記主催事業への協力

・日本語教育現職者向け勉強会「書評ゲーム『ビブリオバトル』を日本語教育に取り入れる」発表者

6月27日（土）場所；異文化交流センター エントロピー

・ JLPTN3 対策オンライン授業マニュアル作成

顕彰：なし

氏名 千葉 直子 学科 留学生別科 職階 助手

専門分野：日本語教育

教育活動：なし

責任科目：

担当科目：

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

学術活動：なし

所属学会・研究会等：

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：①介護技能実習生への入国後講習（30 時間 ※4 月に行った分）

②介護技能実習生への日本語講習

実施期間：6 月～11 月 合計講習時間 174 時間

③介護技能実習生向け E ラーニングのコンテンツ作成と運用管理

④ミャンマー現地日本語教育についてのカリキュラム提案

顕彰：なし

11-2 教員の学術業績

11 - 2 - ① 総長・学長・参事

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：

福島眞里、菅原美保、後藤理香、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明(2020). 解剖見学実習の事前学習における人体標本見学実習の教育効果. 日本医療大学紀要,第 6 卷,135-143.

後藤理香、福島眞里、菅原美保、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明(2020). 解剖実習の事前学習における病理解剖ビデオ視聴の教育効果. 日本医療大学紀要,第 6 卷,145-150.

菅原美保、福島眞里、後藤理香、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明(2020). 解剖実習改善に向けた新たな取り組み. 日本医療大学紀要,第 6 卷,151-157.

Furuhashi M, Koyama M, Higashiura Y, Murase T, Nakamura T, Matsumoto M, Sakai A,

Ohnishi H, Tanaka M, Saitoh S, Moniwa N, Shimamoto K, Miura T(2020).Differential regulation of hypoxanthine and xanthine by obesity in a general population.J Diabetes Investig(11).878-887.

Furuhashi M, Moniwa N, Takizawa H, Ura N, Shimamoto K(2020).Potential differential effects of renin-angiotensin system inhibitors on SARS-CoV-2 infection and lung injury in COVID-19.Hypertens Res(43).837-840.

銭本隆行(2020). 地域で暮らし続ける～日本とデンマークの福祉から～. 毎日新聞 WEB 「医療プレミア」連載. 2020年1月から毎月.

その他：

なし

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般口演：

太田誠 12月20日／北海道理学療法士会主催施設管理者研修会（初級）講師（札幌市）、
2月28日／北海道理学療法士会主催施設管理者研修会（初級）講師（札幌市）

銭本隆行：地域包括ケアシステムにおける高齢者主体の地域活動に関する研究

～日本とデンマークの比較を通して～. 日本社会福祉学会第68回秋季大会（eポスター発表）. 2020年9月.

中澤未美子、徳広圭子、銭本隆行.：ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の検討－養成校へのアンケート調査から－. 日本社会福祉学会第68回秋季大会（eポスター発表）. 2020年9月.

示説：なし

その他：なし

11-2-② 看護学科教員

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

北川学、宮本篤、ハイリスク薬投与患者の薬学的管理、監修：高久文磨、矢崎義雄、治療薬マニュアル2020、医学書院、付録29-33、2020

宮本篤、系統別看護師国家試験問題集2020年版（分担執筆）、医学書院、2020

Koki Shimoji, Yukari Shindo 他（2020）；Chronic Pain Management in General and Hospital Practice, chapter17, Springer

総説：

後藤理香、進藤ゆかり、他（2020）；我が国の家族養護者による在宅療養高齢者への虐待に関する研究動向、北海道公衆衛生学雑誌34：21-32.

原著：

Kazuki Yokoyama, Ryo Miyajima, Takafumi Morimoto, Satoe Ichihara-Takeda, Junichi Yoshino, Kiyoji Matsuyama, Nozomu Ikeda: Peer Support Formation and the Promotion of Recovery Among People Using Psychiatric Day Care in Japan. *Community Mental Health Journal*, <https://doi.org/10.1007/s10597-021-00793-x>, Published online 13 February, 2021

Nakamura, K., Tanaka, T., Masumori, N., Miyamoto, A., Hirano, T. Evaluation of proteinuria using urine protein: Creatine ratio in treatment with molecular targeted agents for advanced renal cell carcinoma. *Biol. Pharm. Bull.* 43, 1506-1510, 2020

石郷友之、高田遼、近藤露、伊部裕太、中野敬太、立石莉穂、藤井賢、片野俊敏、北川学、木明智子、中田浩雅、橋本暁佳、宮本篤、ラメルテオン・スボレキサントを含めた睡眠薬の服用と転倒への影響： 症例対照研究、*薬学雑誌* 140, 1041-1049, 2020

中野敬太、石郷友之、野々山雅俊、藤井 賢、北川 学、木明智子、中田浩雅、宮本 篤、プロトンピン時間と血清シスタチンCを活用した非弁膜症性心房細動患者におけるリバーロキサバンの出血モニタリング、*日本腎臓病薬物療法学会誌*、9, 355-361, 2020

高田 遼、山崎将英、東洋亜友、吉岡 薫、國本雄介、北川 学、木明智子、中田浩雅、宮本篤、高齢者におけるシスプラチンの血液毒性と急性腎障害発現に注目した安全性に関する後方視的検討、*日本病院薬剤師会雑誌*、56, 1425-1432, 2020

合田恵理香、佐々木由紀子、高儀郁美：身体拘束に伴う心理的ストレスへの音楽聴取の効果、*日本統合医療学会誌* 13 巻第 1 号、P34-39、2020.

合田恵理香、高儀郁美、佐々木由紀子：看護大学生の臨地実習期間中における日常生活行動時間の実態調査—3 年次と 4 年次の比較—、*日本医療大学紀要*、6 巻、P61-70、2020.

松本真由美、村上元、林美枝子、森口眞衣、山田敦士(2020). 大学における聴覚障害のある学生への合理的配慮と支援体制構築に向けた試み. *日本医療大学紀要* 第 6 巻, 27-38.

森口眞衣 (2020). 「東洋医学」をめぐる文脈の問題—概念と明治の関係整理について—. *北海道生命倫理研究*. 9.

Atsushi, Y. (2020). "Word order in the Wa languages" *Austroasiatic Syntax in Areal and Diachronic Perspective*, Leiden/Boston: Brill, 135-154.

山田敦士 (2021). パラウク・ワ語における語の連結形式と意味. 津曲敏郎先生古稀記念集. 津曲敏郎先生古稀記念集編集委員会 (編). 190-200.

福島眞里、菅原美保、後藤理香、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明(2020). 解剖見学実習の事前学習における人体標本見学実習の教育効果. *日本医療大学紀要*, 第 6 巻, 135-143.

後藤理香、福島眞里、菅原美保、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明(2020). 解剖実習の事前学習における病理解剖ビデオ視聴の教育効果. *日本医療大学紀要*, 第 6 巻, 145-150.

菅原美保、福島眞里、後藤理香、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明(2020). 解剖

実習改善に向けた新たな取り組み. 日本医療大学紀要,第 6 卷,151-157.

その他:

吉野淳一:密になってしまった家族の試練とリモートなわたし. 北海道精神保健協会 心の健康, 2020, 145, pp3-6

佐々木由紀子、高儀郁美、合田恵理香:看取りケアを行う新人看護師に関する研究の動向と課題—国内文献を対象とした検討—, 日本医療大学紀要、6 卷、P105-116、2020.

林 美枝子:余禄「通時態と共時態、『史』における遡及的視点」北海道史編さん室『北海道史への扉』第 2 号、19 ページ

松本真由美 (2020). すみれ会のみなさまへ.HSK どっこい俺らも生きているパート 5 特定非営利活動法人すみれ会, すみれ会 50 周年記念誌, 2020 年 11 月, 70.

松本真由美 (2020). 精神医療の歴史は動いた!. 特定非営利活動法人すみれ会, HSK すみれ会便り, 2020 年 12 月号, 1-2.

松本真由美 (2020). 国賠に向けた北海道の動き. 精神医療国家賠償請求訴訟研究会, 精神国賠通信, No.12, 4-7.

松本真由美 (2021). 精神医療の歴史は動いた!. 札幌市精神障害者回復者クラブ連合会, HSK メンタルメール, 第 99 号, 2-3.

松本真由美 (2021). 精神医療国家賠償請求訴訟について—わが国の精神医療をかえるために—. 大阪精神医療人権センター, KSK 扉よひらけ人権センターニュース, 155, 7.

山本澄子, 高儀郁美, 水野正延, 野上睦美, 杉山希美(2020). 看護大学生の自尊感情調査結果による対応の一考察, 愛知県看護教育研究学会誌, 23, 36-40.

美濃陽介, 吉田香, 三岳 貴彦 (2020):日本の学校教員の働きがい:構造方程式モデリング分析 Hatarakigai of Japanese School Teachers: A Structural Equation Modeling Analysis, 青森中央短期大学研究紀要, 33, 53-58.

伊藤弓月, 美濃陽介, 吉田香 (2020):介護福祉職の勤務実態調査:職業性ストレス簡易調査票を用いた調査から—施設介護職員と訪問看護職員の比較—A work survey of caregivers using the Occupational Stress Questionnaire:From a comparison of institutional care workers and home care workers, 青森中央短期大学研究紀要, 34, 1-9.

口演 (特別講演, シンポジウム, 一般口演, 示説, その他):なし

特別講演:

佐々木由紀子:教育講演:「医療安全にみる看護師の自立性」、第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会 (札幌)、コロナ感染症拡大のため誌上発表に変更、2020 年 5 月.

森口眞衣. 「東洋医学」と「アーユル・ヴェーダ」の位置づけをめぐって. 北海道生命倫理研究会第 15 回 (2020 年度夏季) セミナー. 2020 年 7 月 24 日. 札幌 (オンライン)

シンポジウム:なし

一般口演:

Taeko TERASIMA, Juniti, TANEMOTO, Michiko, KOYAMA, Mieko,

MIYAKE,Kyouko,TUJI. 23. Effect of BriefExperiential rainingIn lectures Using Modified SimulatedBlood Wesseis comparison of nursing students` opinion thisYear and last yesr、internationl,Education Society,16-17. July, 3. 2019. Honolulu,

松本真由美：制度・政策 E03-11：精神科病院の非自発的入院患者の権利擁護。日本社会福祉学会第 68 回秋期大会。2020 年 9 月 12 日～10 月 12 日。Zoom 開催および e ポスター発表。

吉田香、藤長すが子 (2020)：看護師の身だしなみに関する研究—看護師と一看護大学生の意識の違いについて—、日本看護学会学術集会。

大久保未央、和田ゆい、村松真澄：北海道のサービス付き高齢者向け住宅における情報共有の実態。第 46 回学術集会日本看護研究学会。2020 年 9 月 28 日～11 月 8 日 (Web 開催)

和田ゆい、大久保未央、村松真澄：看護基礎教育における認知症ケアに関する教育に対する教員の考え。第 46 回学術集会日本看護研究学会。2020 年 9 月 28 日～11 月 8 日 (Web 開催)

示説：

神田直樹、春名純平、内田裕美、牧野夏子、田口裕紀子、源本尚美、門間正子。北海道の医療過疎地域に隣接する 2 時救急医療機関の看護師が救急患者対応の中で抱く困難。日本看護研究学会第 46 回学術集会、令和 2 年 9 月 28 日～11 月 8 日、札幌

高儀郁美、佐々木由紀子：ICU 病床照度と患者の体感評価、第 46 回日本看護研究学会学術集会 (札幌)、2020 年 9～11 月 (Web 開催)。

後藤 理香、進藤 ゆかり、板垣 百佳、川瀬 公華、小林 明輝乃、千葉 愛里 (2020)；我が国の家族養護者による在宅療養高齢者への虐待に関する研究動向。日本看護研究学会第 46 回学術集会。札幌。オンデマンド 2020 年 9 月 28 日～11 月 8 日

青柳道子、進藤ゆかり。(2020)：終末期がん患者に対する在宅移行支援実践尺度の開発。第 34 回日本がん看護学会学術集会、2020 年 2 月

合田恵理香、神成真。新卒看護師が抱く新人教育・指導に対する思い。日本看護研究学会第 46 回学術集会。2020 年 9 月 28 日～11 月 8 日。Web 開催。

久保未央、村松真澄：サービス付き高齢者向け住宅における訪問歯科の連携状況。第 17 回日本口腔ケア学会総会・学術大会。2020 年 9 月 2～9 月 3 日開催 (於長崎、誌上発表)

和田ゆい、村松真澄、大久保未央、原井美佳：看護基礎教育において教員が学生に教授する認知症ケアのテーマ。第 40 回日本看護科学学会学術集会。2020 年 12 月 12 日～12 月 13 日 (Web 開催)

竹之内優美。臨地実習で直面する辛い状況と適応群・不適応群の特徴—レジリエンス概念を視座として—。日本看護研究学会第 46 回年学術集会。2020 年 10 月。札幌 (web 開催)。

鳥塚あゆみ、澄川真珠子。同種造血幹細胞移植におけるレシピエントと看護師が抱く困難の研究動向。日本看護研究学会第 46 回学術集会。2020 年 8 月 27～28 日。札幌。

和田ゆい、村松真澄、大久保未央、原井美佳 (2020)。看護基礎教育における認知症ケアに

関する教育の実態. 日本老年看護学会第 25 回学術集会. 2020 年 6 月誌上開催

和田ゆい, 大久保未央, 村松真澄 (2020). 看護基礎教育における認知症ケアに関する教育に対する教員の考え. 日本看護研究学会第 46 回学術集会. 2020 年 9 月 28 日よりオンデマンドにて配信

和田ゆい, 村松真澄, 大久保未央, 原井美佳 (2020). 看護基礎教育において教員が学生に教授する認知症ケアのテーマ. 第 40 回日本看護科学学会学術集会. 2020 年 12 月 1 日よりオンデマンドにて配信

その他:

交流集会: 牧野夏子、神田直樹、内田裕美、田口裕紀子、津川久仁江、春名純平、門間正子、源本尚美、城丸瑞恵. 北海道の地方都市に勤務する救急看護師が抱く困難に対する広域連携支援モデル構築の試み—アクションリサーチを活用した共同の取り組み—. 日本看護研究学会第 46 回学術集会、令和 2 年 9 月 28 日~11 月 8 日、札幌

北村愛子、長谷川美栄子、浅井さおり、内山孝子、大串祐美子、小野光美、友竹千恵、鈴木真理子、三浦直子: オンライントリアル研修「今、現場の身体拘束を考える」, 2020 年 11 月 8 日, web 開催.

松本真由美: 2020 年度北海道地域福祉学会全道研究大会 自由研究・実践活動発表座長. 2020 年 12 月 20 日.

松本真由美: 大阪精神医療人権センター『扉よひらけ⑧』完成報告会, 630 調査について. 報告者. 2021 年 2 月 20 日.

11 - 2 - ③ リハビリテーション学科

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

著書:

大堀具視 (2020) 利用者の動き出しを引き出すコミュニケーション「動き出しは本人から」を実践する 102 の言葉. 中央法規出版. ISBN 978-4-8058-8291-7

古名丈人, 木原由里子 (2020). 老年症候群. 池添冬芽 編. 高齢者理学療法学テキスト. p8-14. 東京: メジカルビュー社.

総説: なし

原著:

福島眞里、菅原美保、後藤理香、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明 (2020). 解剖見学実習の事前学習における人体標本見学実習の教育効果. 日本医療大学紀要, 6, 135-143.

後藤理香、福島眞里、菅原美保、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明 (2020). 解剖実習の事前学習における病理解剖ビデオ視聴の教育効果. 日本医療大学紀要, 6, 145-150.

菅原美保、後藤理香、福島眞里、向井康詞、新開谷深、岡田尚美、島本和明 (2020). 解剖実習改善に向けた新たな取り組み. 日本医療大学紀要, 6, 151-157.

新開谷深、高橋光彦、太田誠、石橋晃仁、向井康詞、西山徹、白井興一 (2020).

北海道和種馬の乗馬が健康高齢者の身体に及ぼす影響. 日本医療大学紀要, 6, 159-164
及川直樹, 清本憲太, 大堀具視, 成田数馬, 佐藤史子, 榑善成, 明本聡, 新納拓也, 岡村健司 (2020). 社会人野球選手における投球時痛とトランクローターションの関係. 日本医療大学紀要, 6, 129-134.

及川直樹, 鹿内大輝, 榑善成, 市川智士, 佐藤史子, 清本憲太, 岡村健司 (2020). 運動恐怖回避思考が鏡視下腱板修復術後の短期成績に及ぼす影響. 作業療法の実践と科学, 2(2), 28-38.

藤本侑也, 清本憲太, 村上元, 斎藤明德, 及川直樹, 大堀具視 (2021). 通所介護による認知行動療法的アプローチを用いた個別作業療法により慢性腰痛が改善し日常生活の拡大が得られた一症例. 作業療法の実践と科学, 3 (1), 15-20.

Kotaro SHIMIZU, Yuriko KIHARA, Kazunari ITOU, Keita TAI, Taketo FURUNA. How perception of personal space influence obstacle avoidance during walking: differences between young and older adults. *Physical Therapy Research*. 23(1): 31-38, 2020.

Makizako H, Nakai Y, Shiratsuchi D, Akanuma T, Yokoyama K, Matsuzaki-Kihara Y, Yoshida H. Perceived declining physical and cognitive fitness during the COVID-19 state of emergency among community-dwelling Japanese old-old adults. *Geriatrics and Gerontology International* 2021, in press

Shiratsuchi D, Makizako H, Nakai Y, Taniguchi Y, Akanuma T, Yokoyama K, Matsuzaki-Kihara Y and Yoshida H. Association of health literacy with the implementation of exercise during the declaration of COVID-19 state of emergency among Japanese community-dwelling old-old adults

International Journal of Environmental Research and Public health 2021, in press

渋川佳彦, 西山徹, 木原由里子, 石橋晃仁. 高齢者における咄嗟の方向転換時のステップ戦略について. *理学療法科学*. 35(2): 295-300, 2020.

世古俊明, 隈元 庸夫, 三浦 紗世, 松田 涼, 坂口 友康, 伊藤 俊一, 森 満 (2021) pull-type hand-held dynamometer を用いた簡易的な脚伸展筋力測定法の有用性—地域在住高齢者

を対象とした研究—. *理学療法科学*, 48 (1), 1-8.

新開谷深, 伊藤 祐樹, 山本 敬三. Does foot rotation angle during standing affect the axial rotational range of motion of pelvis and trunk?. *日本医療大学紀要* 第6巻 71-81

Hikaru Hayakawa, Kousuke Iba, Megumi Hanaka, Kenta Kiyomoto, Makoto Emori, Atsushi Teramoto, Toshihiko Yamashita. Soft tissue injury in the limbs increased regional bone turnover. *Injury*. 2021. 03 January.

Megumi Hanaka, Kousuke Iba, Hikaru Hayakawa, Kenta Kiyomoto, Koji Ibe, Atsushi Teramoto, Makoto Emori, Toshihiko Yamashita. Delayed tendon healing after injury in tetranectine-deficit mice. *J Orthop Sci*. 2021. 13 January.

Kenta Kiyomoto, Kousuke Iba, Megumi Hanaka, Koji Ibe, Hikaru Hayakawa, Atsushi Teramoto, Makoto Emori, Toshihiko Yamashita. High bone turnover state under osteoporotic changes induces pain-like behaviors in mild osteoarthritis model mice. J Bone Miner Metab. 38(6). 806-818

松本真由美, 村上元, 林美枝子, 森口真衣, 山田敦士(2020). 大学における聴覚障害のある学生への合理的配慮と支援体制構築に向けた試み. 日本医療大学紀要. 6, 27-38.

その他：

村上元, 森元隆文, 三浦由佳, 池田望(2020). 地方都市における"誰でも参加できる SST"の実践報告. 作業療法. 39(2), 248 – 254.

村上元, 森元隆文, 西山薫, 清本憲太, 池田望(2021). 価値に沿った行動の実践により社交不安症状の軽減が認められた一例. 作業療法の実践と科学.3(1), 9-14.

Atsuki Ukita , Masayuki Abe, Hiroto Kishigami, Tatsuo Hatta(2020). Influence of back support shape in wheelchairs offering pelvic support on asymmetrical sitting posture and pressure points during reaching tasks in stroke patients. PLoS ONE 15(4): e0231860

その他：

清本憲太, 西山徹, 大堀具視. 新型コロナウイルス感染症対策と作業療法－緊急アンケートよりわかること オンラインの双方向型授業や個別面談に対応. OT ジャーナル. 54(7). 685-686.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般口演：

新野正明, 矢部一郎, 浜田晋輔, 津坂和文, 松本昭久, 高橋光彦, 古川秀明, 橋本修二.令和 2 年度の北海道地区スモン検診結果：スモンに関する調査研究班研究報告会，2021-1/29,WEB

新野正明, 稲垣恵子,阿部笑子, 近谷ひろみ, 矢部一郎, 浜田晋輔, 津坂和文, 高橋光彦, 古川秀明：北海道のスモン運動が求めたスモンの恒久対策切り捨てのない被害者対策継続施行の重要性と国の責務を考える. スモンに関する調査研究班研究報告会，2021-1/29,WEB

岸上博俊 他：認知症高齢者へ快適な座りを提供する新たな椅子の開発. 第 21 回日本認知症ケア学会大会.2020.5

及川直樹, 榊善成, 鈴森雄貴, 佐藤史子, 岡村健司. 多変量解析を用いた ARCR 後の CRPS 発症因子の検討. 第 47 回日本肩関節学会・第 17 回日本肩の運動機能研究会. 2020 年 10 月. 北海道

鈴森雄貴, 榊善成, 佐藤史子, 及川直樹, 岡村健司. ASCR 症例におけるテフロンフェルトパッチの厚さによる AHD の比較. 第 47 回日本肩関節学会・第 17 回日本肩の運動機能

研究会. 2020年10月. 北海道

清本憲太、射場浩介、花香恵、井部光滋、早川光、山下敏彦. 骨折後キャスト固定モデルマウスにおける疼痛行動および浮腫の検討. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020年8月. 京都

井部光滋、射場浩介、清本憲太、早川光、花香恵、山下敏彦. 不動が寒冷過敏に与える影響について. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020年8月. 京都

新岡美樹、八田達夫、大堀具視、清本憲太、池田保. 特別養護老人ホームに居住する認知症高齢者へのスヌーズレンの効果ー快適な環境が意思表示と意味のある作業に繋がった事例. 第54回日本作業療法学会. 2020年9月. 新潟

清本憲太、射場浩介、花香恵、早川光、山下敏彦. 骨粗鬆症を合併した変形性関節症モデルマウスにおける骨粗鬆症治療薬と非ステロイド性抗炎症薬の疼痛改善効果の検討. 第35回日本整形外科学会基礎学術集会. 2020年10月. 東京.

清本憲太、射場浩介、花香恵、井部光滋、早川光、山下敏彦. 四肢慢性疼痛モデルマウスに対する荷重および運動負荷が疼痛行動に及ぼす影響ー骨折後キャスト固定モデルによる検討. 第35回日本整形外科学会基礎学術集会. 2020年10月. 東京.

井部光滋、射場浩介、清本憲太、早川光、花香恵、山下敏彦. TRPA1 および TRPV1 拮抗薬が寒冷過敏と骨代謝に与える影響-尾部懸垂マウスを用いた検討-. 第35回日本整形外科学会基礎学術集会. 2020年10月. 東京.

清本憲太、射場浩介、花香恵、早川光、山下敏彦. 骨粗鬆症を合併した変形性関節症モデルマウスにおける骨粗鬆症治療薬と非ステロイド性抗炎症薬の疼痛改善効果の検討. 第38回日本骨代謝学会学術集会. 2020年10月. 神戸

早川光、射場浩介、清本憲太、井部光滋、花香恵、山下敏彦. 後肢非荷重モデルマウスにおける骨・筋代謝マーカーの発現変化-骨粗鬆症治療薬の効果を含めて-. 第139回北海道整形災害外科学会. 2021年1月. 札幌

清本憲太、射場浩介、井部光滋、早川光、花香恵、山下敏彦. 四肢不動化慢性疼痛モデルマウスに対する荷重具化が疼痛行動に及ぼす影響ー骨折後キャスト固定モデルによる検討ー. 第139回北海道整形災害外科学会. 2021年1月. 札幌

井部光滋、射場浩介、清本憲太、早川光、花香恵、山下敏彦. 不動期間中の拘縮予防が寒冷過敏に与える影響-マウス後肢不動モデルを用いた検討-. 第139回北海道整形災害外科学会. 2021年1月. 札幌

清本憲太、射場浩介、井部光滋、早川光、花香恵、山下敏彦. 四肢不動化慢性疼痛モデルマウスに対する荷重負荷が疼痛行動に及ぼす影響. 第33回北海道骨粗鬆症研究会. 2020年2月. 札幌

西山徹、高瀬聡介、瀧浪寛大、三浦留美 (2020). 模擬義足を用いた歩行練習時における下肢の筋活動について. 第36回日本義肢装具学会 東京

宝田光、大堀具視. 脳卒中患者に対する MTDLP の実践過程において、修正 CI 療法を実

施した一事例. 日本作業療法学会.2020年9月、オンライン.

矢口智恵, 藤原勝夫, 清田直恵. 床移動課題の難易度が体性感覚情報と姿勢制御に及ぼす影響. 日本健康行動科学会第19回学術大会. 2021年3月20日. オンライン

清田岳臣, 藤原勝夫, 清田直恵, 国田賢治, 阿南浩司, 矢口智恵. 上肢運動前の重心位置と上肢運動時の予測的姿勢筋活動の関連性の年齢変化. 日本健康行動科学会第19回学術大会. 2021年3月20日. オンライン

佐藤文亮, 藤原勝夫, 矢口智恵, 国田賢治, 阿南浩司, 清田直恵. 大腿前面皮膚へ圧力を変えて伸張したときの皮下組織の動態と姿勢応答. 日本健康行動科学会第19回学術大会. 2021年3月20日. オンライン

国田賢治, 藤原勝夫, 矢口智恵, 阿南浩司, 佐藤文亮. ギャップ条件でのサッケード反応時間の分布のスポーツ経験による差異. 日本健康行動科学会第19回学術大会. 2021年3月21日. オンライン

示説:

村上元, 西山薫, 森元隆文, 清本憲太, 及川直樹, 池田望: 成人期の自閉スペクトラム症者における被害妄想的観念とその関連要因の検討. 日本認知・行動療法学会 第46回大会 2020年9月

11 - 2 - ④ 診療放射線学科

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

著書:

総説:

原著:

Tawara N., Nishiyama A. Muscle functional MRI of exercise-induced rotator cuff muscles. Investig Magn Reson Imaging, (In press).

Kenta HIGUCHI. (2020). Volcanic eruptions of Mt. Sakurajima and effects on outdoor radon concentrations. Bulletin of Japan Health Care College 6, 53-59.

樋口健太. (2020). 知っておきたい診療放射線技師教育の動向. 日本放射線公衆安全学会学会誌, no.17, p.30-31.

Kenta Higuchi, Takuya Fujimura. (2021). Radiation exposure dose outside the irradiation field due to differences in pediatric head computed tomography scanning methods. Radiological Physics and Technology. (in press)

Kenta HIGUCHI. (2021). Survey of indoor radon concentrations in Kagoshima and Sapporo. Bulletin of Japan Health Care College, 7. (in submitting)

Koichi Sasaki, Shusuke Nishiyama, Naoki Shirai: Observation of ^1D - ^1S forbidden optical emission of atomic oxygen in atmospheric-pressure N_2/O_2 plasma jet, Contributions to Plasma Physics, 60 (10), e202000061, 2020.

Masahiro Yamazaki, Shusuke Nishiyama, Koichi Sasaki: Rate coefficient of CO_2 splitting in recombining H_2 and He plasmas with ultralow electron temperatures, Plasma Sources Science and Technology, 29 (11), 115016, 2020.

Yuya Yoneyama, Haruo Isoda, Kenta Ishiguro, Masaki Terada, Masaki Kamiya, Kenichi Otsubo, Roshani Perera, Takashi Mizuno, Atsushi Fukuyama, Kazuya Takiguchi, Tomoya Watanabe, Takafumi Kosugi, Yoshiaki Komori & Shinji Naganawa (2020). Evaluation of magnetic resonance angiography as a possible alternative to rotational angiography or computed tomography angiography for assessing cerebrovascular computational fluid dynamics. Physical and Engineering Sciences in Medicine, 43, 1327–1337.

Fumiya Hisano, Shiori Niwa, Keisuke Nakanishi, Ayana Mawaki, Kaoru Murota, Atsushi Fukuyama, Yukari Takeno, Sachiyo Watanabe, Etsuko Fujimoto, Chika Oshima (2020). The correlation between fluid distribution and swelling or subjective symptoms of the trunk in lymphedema-patients: a preliminary observational study. Lymphatic research and biology, *in print*.

Shiori Niwa, Ayana Mawaki, Keisuke Nakanishi, Fumiya Hisano, Yukari Takeno, Atsushi Fukuyama, Toyone Kikumori, Kazuhiro Shimamoto, Etsuko Fujimoto, Chika Oshima (2020). Breast Cancer-related Lymphedema with the presence or absence of accumulation of Fluid: MR Findings in ISL Stage II Cases. Structure and Function, *in print*.

その他：

福山篤司、礒田治夫、小山修司 (2021). パラレルイメージング技術を用いた三次元シネ位相コントラスト撮像法における流速測定の精度検証. 名古屋大学脳とこころの研究センター令和2年度活動報告書, *in print*

口演 (特別講演, シンポジウム, 一般口演, 示説, その他)：

特別講演：

俵 紀行 "Rapid Estimation of Muscle Transverse Relaxation Time (T2) based on Ultrafast

Magnetic Resonance Imaging at 3.0 Tesla". AOCMP-TMPS 2020, Phuket(Hybrid), Thailand,

2020.12.05.

黒藤 邦夫 第27回日本産婦人科乳腺医学会 画像診断フォーラム「マンモグラフィ」
講演名「マンモグラフィの基礎と最新技術」令和3年3月14日 札幌 Web 開催

シンポジウム：

俵紀行 【シンポジウム8：運動器（整形外科）領域のMRI撮像】MRIを使った筋の解析

(Analysis of exercise-induced skeletal muscle using MRI) . 第 48 回日本磁気共鳴医学会大会, 盛岡 (Web) , 2020.09.13.

福山篤司、磯田治夫、小山修司：パラレルイメージング技術を用いた三次元シネ位相コントラスト撮像法における流速測定の精度検証 ～ヒトの拍動流を模擬した非定常流における検討～. 令和 2 年度名古屋大学脳とこころの研究センターシンポジウム, 2021 年 1 月 27 日. Web 開催

一般口演：

樋口健太, 細田正洋, 床次眞司, 秋葉澄伯. 桜島の火山活動とラドンおよび子孫核種濃度の解析. 放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点 2019年度 年次報告会 Web フラッシュトーク. 2020年3月11日. 福島.

樋口健太, 細田正洋, 床次眞司, 秋葉澄伯. 桜島の火山活動とラドンおよび子孫核種濃度の解析, 2020年度放射性物質環境動態・環境および生物への影響に関する学際共同研究 (最終報告会). Web会議. 2020年3月15日. 筑波.

菱田 悠斗, 西山 修輔, 佐々木 浩一, 「プラズマ電界計測のための水素原子バルマーアルファ線におけるラムディップレーザー誘起蛍光法」, 第 81 回応用物理学会秋季学術講演会 (オンライン開催, 2020 年 9 月 8 日)

高田 晃佑, 西山 修輔, 佐々木 浩一, 「アルゴン/ヘリウム混合プラズマにおける準安定状態アルゴンおよびヘリウム温度の比較」, 第 81 回応用物理学会秋季学術講演会 (オンライン開催, 2020 年 9 月 8 日)

西山 修輔, 菱田 悠斗, 佐々木 浩一, 「水素原子二段励起レーザー誘起蛍光法における励起スペクトルの検討」, 第 68 回応用物理学会春季学術講演会 (オンライン開催, 2021 年 3 月 18 日)

Atsushi Fukuyama : Flow-velocity measurement accuracy of three dimensional cine phase contrast magnetic resonance imaging using a parallel imaging technique. European Congress of Radiology 2020. 2020 年 7 月 15 - 19 日. Web 開催

Atsushi Fukuyama, Katsuhiro Inoue, Shinichi Takase, Tsunehiro Yamahata, Yutaka Kato, Shuji Koyama : Accuracy of measurements of flow velocity using compressed sensing in 3D cine phase-contrast MRI - Experiments using a steady-flow pump and blood-mimicking flow phantoms -. Society for MR Radiographers & Technologists 2020 annual meeting & exhibition. 2020 年 8 月 8 - 14 日. Web 開催

11 - 2 - ⑤ 留学生別科

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：

唐煒（2021）. 日本における中国口語起源漢語の訓点を通じて見る「西大寺本金光明最勝王
経平安初期点中に漢文訓読の特性----- 二字動詞を中心として-----」

札幌大学論業，第 51 号，93－123

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

シンポジウム：

唐煒：日本における中国口語期源漢語の「日本書紀」訓点を通じて見る漢文訓読の特徴
「日本語教育と日本語学研究国際シンポジウム」，2020 年 11 月 28 日，上海